

平成26年度 泉区区民意識調査

調査結果報告書

平成26年10月

横浜市泉区

目 次

I. 調査概要.....	2
II. 回答者の属性.....	3
III. 集計分析結果.....	7
1. 生活環境全般について.....	7
2. 定住意向について.....	50
3. 日常の交通行動について.....	53
4. 日頃の買い物行動について.....	57
5. 地域での支え合いについて.....	66
6. 健康づくりについて.....	72
7. 高齢者福祉・障がい者福祉について.....	74
8. 子育て支援について.....	76
9. 青少年の育成について.....	82
10. 防災の取組について.....	83
11. 広報・広聴について.....	89
12. 泉区政について.....	95

I. 調査概要

◆調査対象：泉区内在住の20歳以上の男女3,000人

◆抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

◆調査方法：郵送によるアンケート形式

◆調査期間：平成26年8月1日～8月18日

◆回収数：1,588通（回収率52.9%）

◆集計結果の見方

- ① 図（グラフ）の中で使用されているアルファベットNは、その設問に対する回答者数をあらわす。
- ② 回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

※概要数値の見方

数値はそれぞれ割合（%）を表示。基数の記述があるもの以外は有効回収数を基本としている（N=1,588）。

※クロス集計表の見方

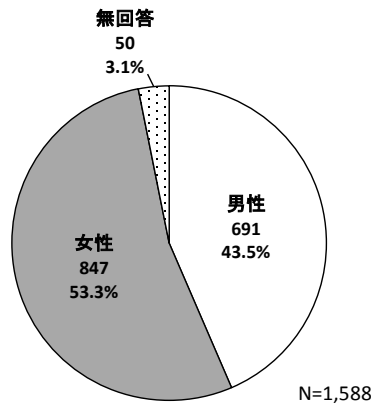
濃いグレーの塗りつぶし：選択肢の中で、第1位の項目については濃いグレーで塗りつぶし、白抜き文字にしている。

薄いグレーの塗りつぶし：属性別にみて、区全体の数値と比べて10ポイント以上高い数値の項目については、薄いグレーで塗りつぶして特記している。

Ⅱ. 回答者の属性

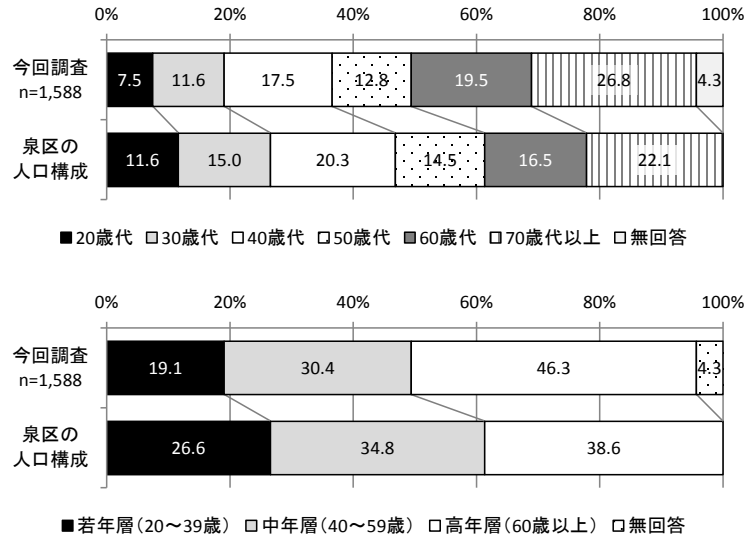
F1 性別(○は1つ)

- ・女性 53.3%、男性 43.5%で、女性が 9.8 ポイント多い。



F2 年齢(○は1つ)

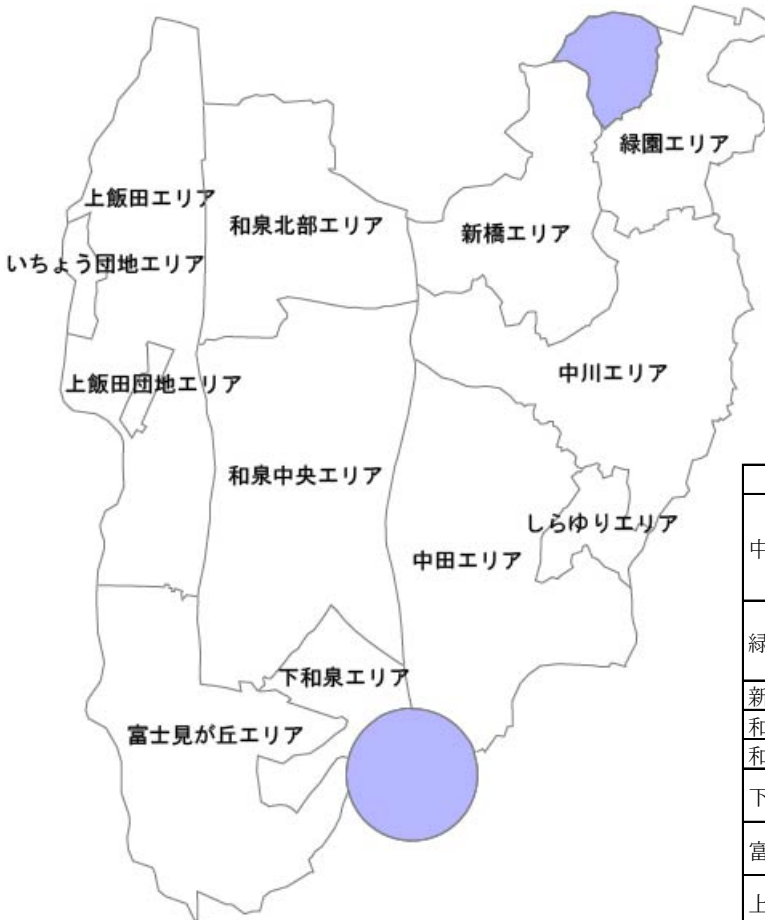
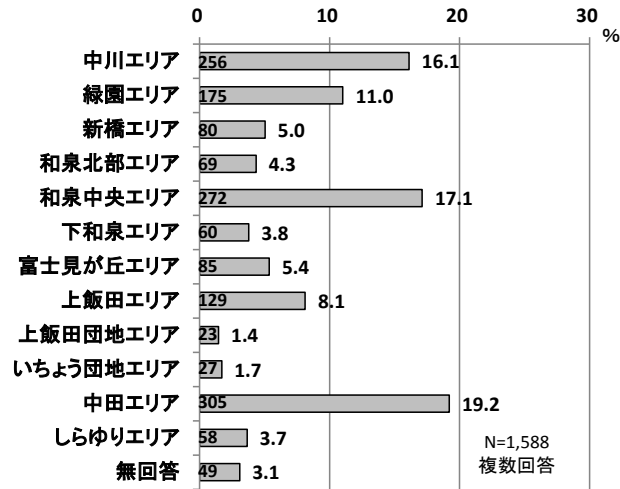
- ・最も多いのは 70 歳代以上の 26.8%、少ないのは 20 歳代の 7.5%である。
- ・年齢層別にみると、60 歳以上の高年層が 46.3%で最も多く、次いで 40 歳以上 60 歳未満の中年層 (30.4%)、40 歳未満の若年層 (19.1%) の順となっている。
- ・また、泉区の人口構成と比較すると、高年層の割合が高くなっており、中年層・低年層の割合が低くなっている。



出所) 横浜市ポータルサイト 横浜市・各区分 年齢別男女別人口 (住民基本台帳)
 注) 泉区人口は平成 26 年 9 月 30 日現在
 20 歳以上人口を抽出 (127, 651 人)

F3 居住地区(○は1つ)

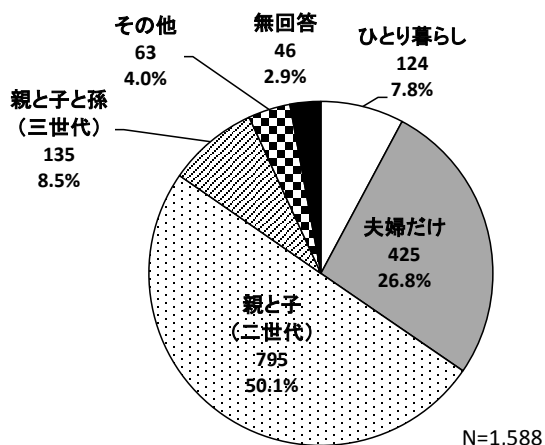
・最も多いのは「中田エリア」の19.2%、次いで「和泉中央エリア」(17.1%)、「中川エリア」(16.1%)
 続く。最も少ないのは「上飯田団地エリア」(1.4%)であった。



エリア名	町名
中川エリア	岡津町1～2000番、岡津町2001番～、桂坂、西が岡一丁目、西が岡二丁目、西が岡三丁目、弥生台、領家一丁目、領家二丁目、領家三丁目、領家四丁目
緑園エリア	緑園一丁目、緑園二丁目、緑園三丁目、緑園四丁目、緑園五丁目、緑園六丁目、緑園七丁目
新橋エリア	新橋町
和泉北部エリア	和泉町6001番～
和泉中央エリア	和泉町2001～4000番、和泉町4001～6000番
下和泉エリア	和泉が丘一丁目、和泉が丘二丁目、和泉が丘三丁目、下和泉四丁目、下和泉五丁目
富士見が丘エリア	和泉町1～2000番、下飯田町、下和泉一丁目、下和泉二丁目、下和泉三丁目
上飯田エリア	上飯田町1～2000番、上飯田町2001～4000番、上飯田町4001番～
上飯田団地エリア	上飯田1～2000のうち、居住形態が「賃貸物件(県営・市営)」
いちよう団地エリア	上飯田2001～4000のうち、居住形態が「賃貸物件(県営・市営)」
中田エリア	中田町、中田北一丁目、中田北二丁目、中田北三丁目、中田西一丁目、中田西二丁目、中田西三丁目、中田西四丁目、中田東一丁目、中田東三丁目、中田東四丁目、中田南一丁目、中田南二丁目、中田南三丁目、中田南四丁目、中田南五丁目
しらゆりエリア	白百合一丁目、白百合二丁目、白百合三丁目、中田東二丁目

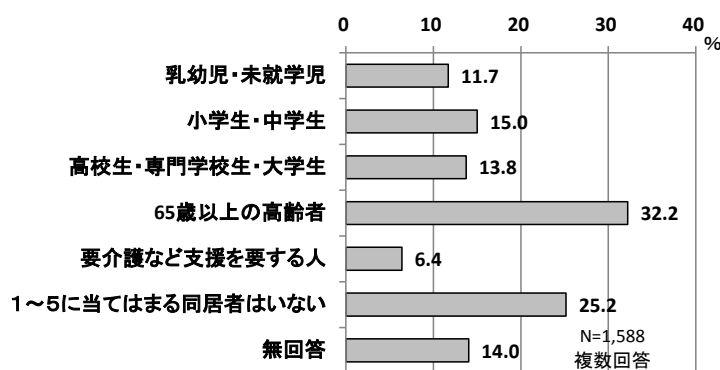
F4 家族構成(○は1つ)

- ・「親と子(二世代)」が50.1%で最も多く、全体の半数となっている。次いで「夫婦だけ」が26.8%で、全体の4分の1強である。以下「親と子と孫(三世代)」(8.5%)、「ひとり暮らし」(7.8%)、「その他」(4.0%)となっている。



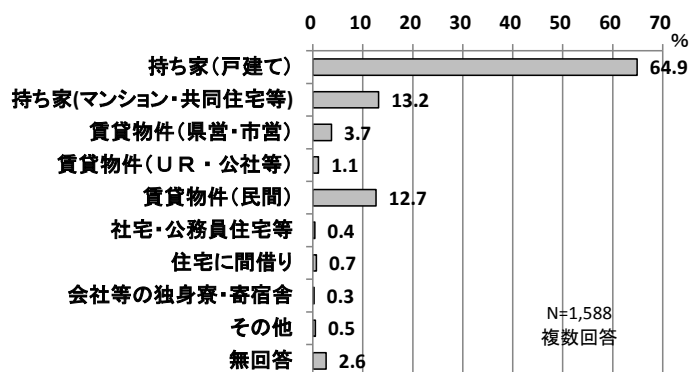
F5 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者、要介護者の有無(○はいくつでも)

- ・「65歳以上の高齢者」がいると回答した人は32.2%で、3割を超える人が挙げている。「要介護など支援を要する人」がいると回答した人は6.4%で、1割に達していない。
- ・「乳幼児・未就学児」がいると回答した人11.7%、「小学生・中学生」は15.0%、「高校生・専門高校生・大学生」は13.8%である。
- ・「1~5に当てはまる同居者はいない」は25.2%となっている。



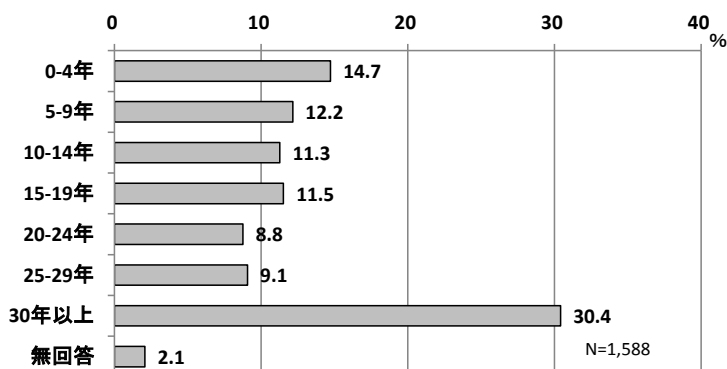
F6 居住形態(○は1つ)

- ・「持ち家(戸建て)」が64.9%で最も多く、次に「持ち家(マンション・共同住宅等)」が13.2%で、これらを合わせると78.0%と、持ち家比率は8割弱となっている。次いで「賃貸物件(民間)」が12.7%である。



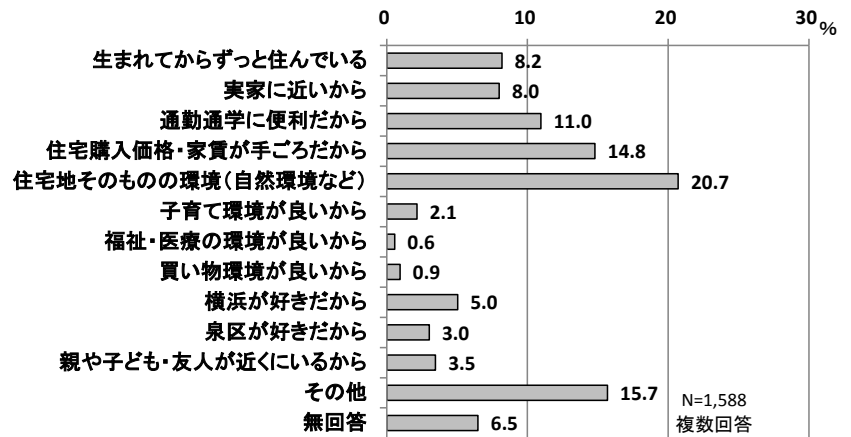
F7 居住年数(○は1つ)

- ・「30年以上」が30.4%で最も多く、全体の3割となっている。次いで「0-4年」が14.7%、「5-9年」が12.2%で、全体の4分の1が居住年数が10年未満となっている。



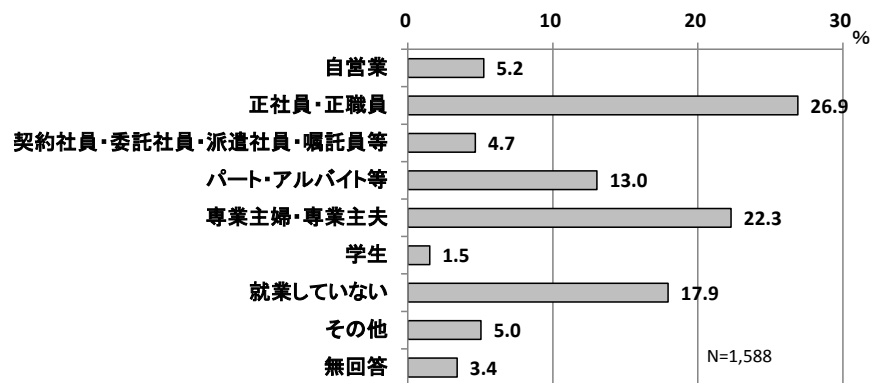
F8 現在の住まいを選んだ理由

- ・「住宅地そのものの環境（自然環境など）」が最も多く 20.7% となっている。次いで「住宅購入価格・家賃が手ごろだから」が 14.8%、「通勤通学に便利だから」が 11.0%で、1割以上の方が挙げている。以下「生まれてからずっと住んでいる」（8.2%）、「実家に近いから」（8.0%）と続く。



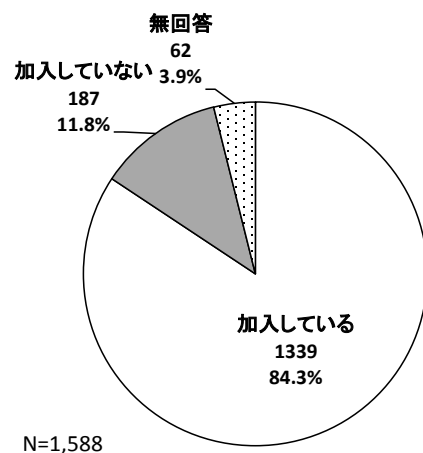
F9 就労状況(○は1つ)

- ・「正社員・正職員」が最も多く 26.9%で、全体の4分の1強となっている。次いで「専業主婦・専業主夫」が 22.3%で、2割強である。以下「就業していない」（17.9%）、「パート・アルバイト等」（13.0%）、「自営業」（5.2%）、「契約社員・委託社員・派遣社員・嘱託員等」（4.7%）、「学生」（1.5%）などと続く。



F10 自治会町内会への加入状況(○は1つ)

- ・「加入している」が 84.3%で圧倒的に多く 8割以上を占め、「加入していない」の 11.8%を 72.5ポイント上回っており、加入率は高水準である。

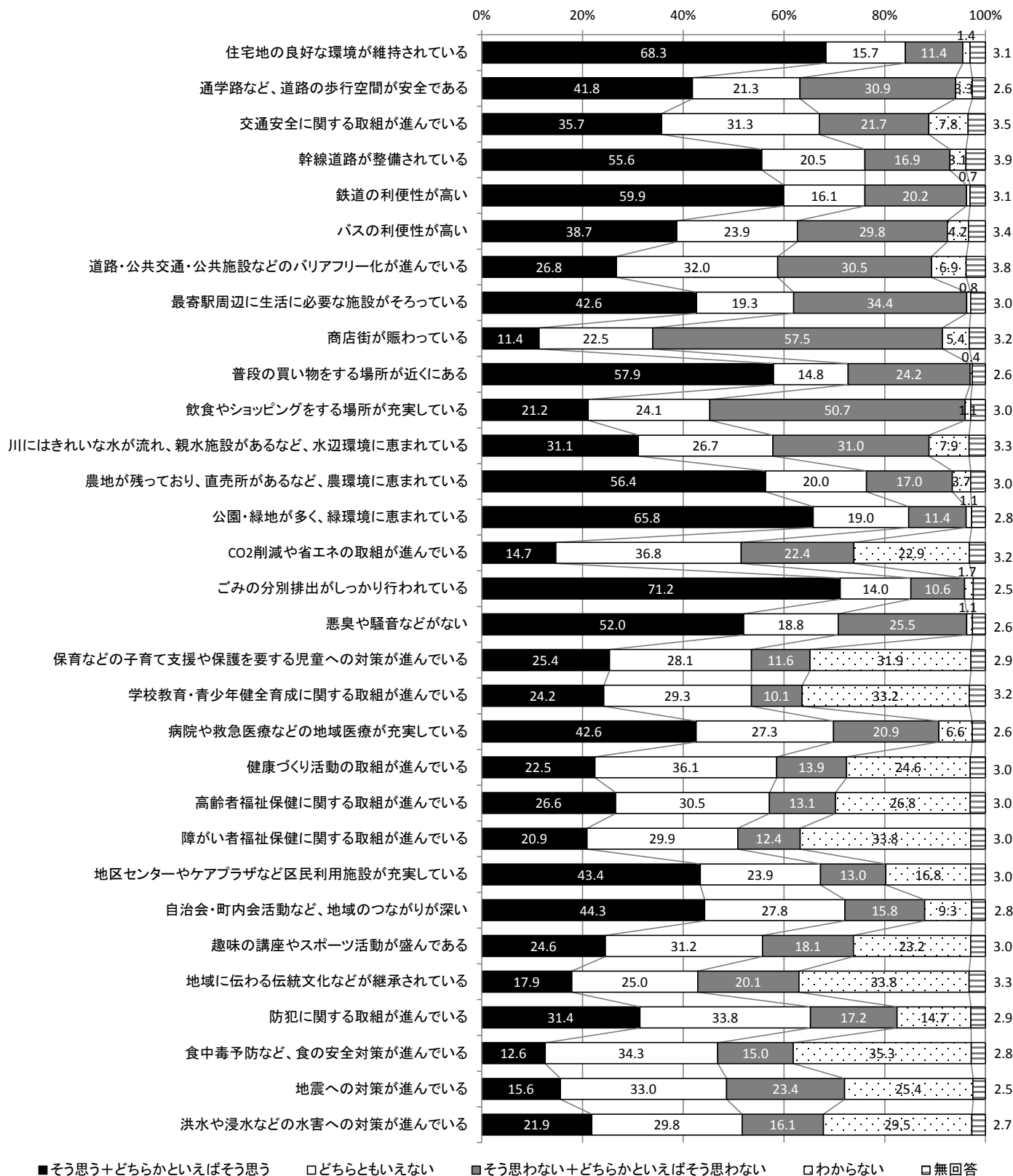


Ⅲ. 集計分析結果

1. 生活環境全般について

問1-1 あなたは、お住まいの地域についてどのように感じていますか。次(1~31)の各項目について、「そう思う 1」から「わからない 6」の中から1つを選び、○を付けてください。(それぞれに○は1つ)

- ・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定感」が最も多かった項目は、「ごみの分別排出がしっかり行われている」(71.2%)、「住宅地の良好な環境が維持されている」(68.3%)、「公園・緑地が多く、緑環境に恵まれている」(65.8%)、「鉄道の利便性が高い」(59.9%)、「普段の買い物をする場所が近くにある」(57.9%)が上位5項目である。以下、「農地が残っており、直売所があるなど、農環境に恵まれている」(56.4%)、「幹線道路が整備されている」(55.6%)、「悪臭や騒音などが無い」(52.0%)、「自治会・町内会活動など、地域のつながりが深い」(44.3%)、「地区センターやケアプラザなど区民利用施設が充実している」(43.4%)、「最寄駅周辺に生活に必要な施設がそろっている」(42.6%)、「病院や救急医療などの地域医療が充実している」(42.6%)、「通学路など、道路の歩行空間が安全である」(41.8%)、「バスの利便性が高い」(38.7%)、「交通安全に関する取組が進んでいる」(35.7%)、「川にはきれいな水が流れ、親水施設があるなど、水辺環境に恵まれている」(31.1%)の計16項目に及んでいる。
- ・「どちらともいえない」が最も多かった項目は、上位から「CO2削減や省エネの取組が進んでいる」(36.8%)、「健康づくり活動の取組が進んでいる」(36.1%)、「防犯に関する取組が進んでいる」(33.8%)「地震への対策が進んでいる」(33.0%)、「道路・公共交通・公共施設などのバリアフリー化が進んでいる」(32.0%)、「趣味の講座やスポーツ活動が盛んである」(31.2%)、「高齢者福祉保健に関する取組が進んでいる」(30.5%)、「洪水や浸水などの水害への対策が進んでいる」(29.8%)の計8項目となっている。
- ・「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「否定感」が最も多かったのは「商店街が賑わっている」(57.5%)、「飲食やショッピングをする場所が充実している」(50.7%)の2項目となっている。
- ・「わからない」が最も多くなっているのは、「食中毒予防など、食の安全対策が進んでいる」(35.3%)、「障がい者福祉保健に関する取組が進んでいる」(33.8%)、「地域に伝わる伝統文化などが継承されている」(33.8%)、「保育などの子育て支援や保護を要する児童への対策が進んでいる」(31.9%)、「学校教育・青少年健全育成に関する取組が進んでいる」(33.2%)の5項目である。



■ 居住地区別 生活環境全般について（問1×F3）

1 住宅地の良好な環境が維持されている

・どの地区も「そう思う」が最も多く、緑園エリア（以下、「エリア」を省略）では9割を超える。また新橋で「どちらともいえない」、上飯田、いちょう団地ではややサンプル数が少ないが「そう思わない」の数値が全体値に比べ高くなっている。

2 通学路など、道路の歩行空間が安全である

・中川、緑園、和泉北部、和泉中央、上飯田団地、しらゆりでは「そう思う」が最も多く、緑園では7割を超える。いちょう団地で「そう思う」「そう思わない」が同率、それ以外では「そう思わない」が最も多くなっている。

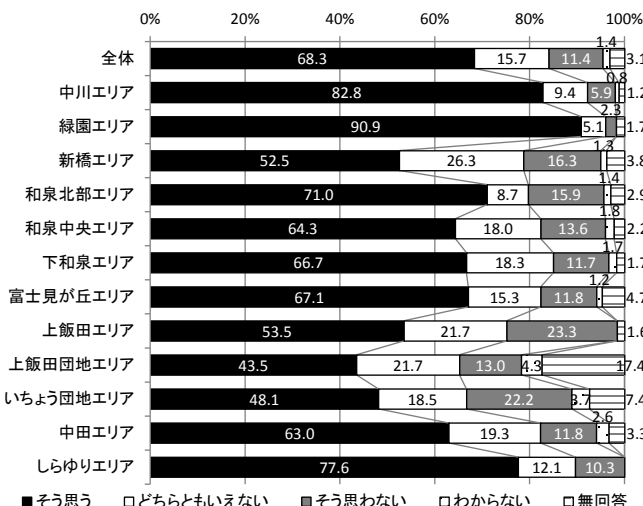
3 交通安全に関する取組が進んでいる

・中川、緑園、和泉北部、和泉中央、富士見が丘、いちょう団地では「そう思う」、新橋、下和泉、しらゆりでは「どちらともいえない」、中田では「そう思わない」が最も多く、上飯田、上飯田団地では「そう思う」「どちらともいえない」が同率、いちょう団地では「そう思わない」「どちらともいえない」が同率となっている。

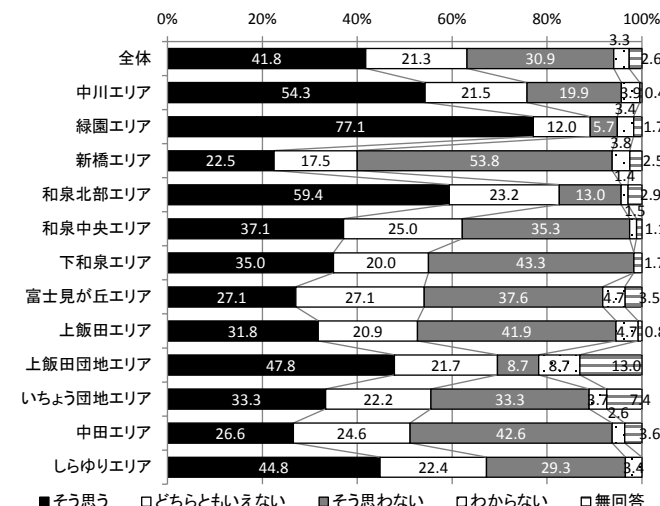
4 幹線道路が整備されている

・いずれの地区も「そう思う」が最も多いが、新橋、下和泉では数値が低く、「そう思わない」が全体値に比べて高くなっている。

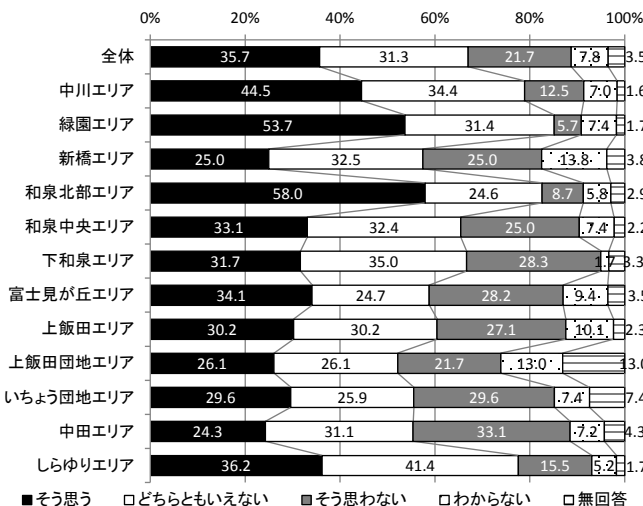
1 住宅地の良好な環境が維持されている



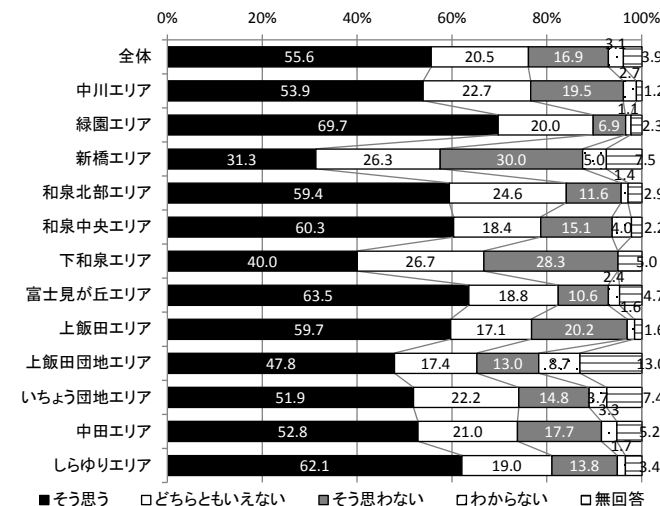
2 通学路など、道路の歩行空間が安全である



3 交通安全に関する取組が進んでいる



4 幹線道路が整備されている



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというと思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというと思わない」の合計

5 鉄道の利便性が高い

- ・上飯田団地で「そう思わない」、いちょう団地で「どちらともいえない」が最も多い以外は「そう思う」が最も多く、特に和泉北部と和泉中央では8割前後となっている。また、下和泉、富士見が丘、上飯田では「そう思わない」が全体値に比べて高くなっている。

6 バスの利便性が高い

- ・下和泉、富士見が丘、上飯田では「そう思わない」、緑園で「そう思う」「そう思わない」が同率、それ以外の地区では「そう思う」が最も多く、和泉北部では6割を超えている。

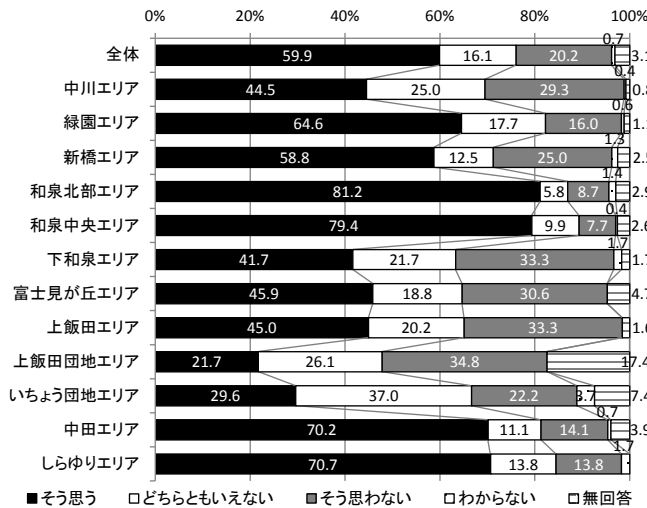
7 道路・公共交通・公共施設などのバリアフリー化が進んでいる

- ・緑園、和泉北部では「そう思う」、中川、和泉中央、上飯田、中田では「どちらともいえない」、新橋、下和泉、富士見が丘、いちょう団地では「そう思わない」が最も多く、しらゆりで「そう思う」「そう思わない」が同率、上飯田団地で「どちらともいえない」「そう思わない」が同率となっている。

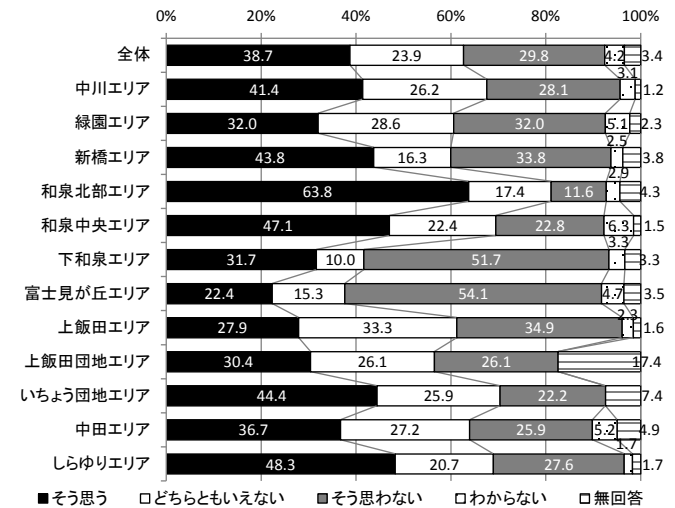
8 最寄駅周辺に生活に必要な施設がそろっている

- ・和泉北部、下和泉、富士見が丘、上飯田、いちょう団地では「そう思わない」が最も多く、特に富士見が丘では8割近くに達している。それ以外の地区では「そう思う」が最も多い。

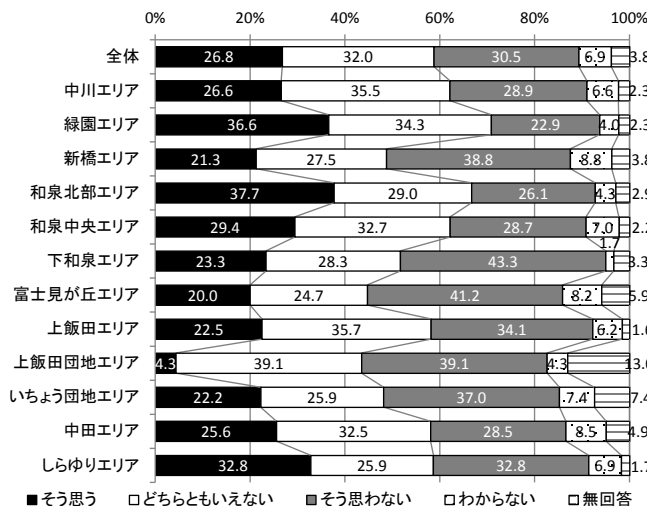
5 鉄道の利便性が高い



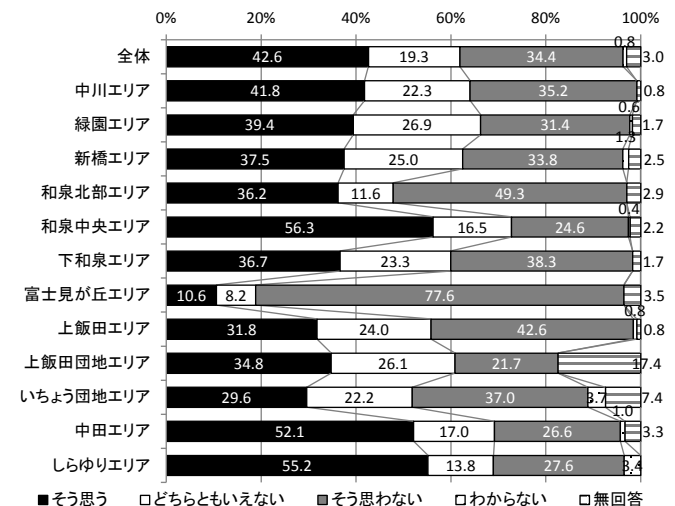
6 バスの利便性が高い



7 道路・公共交通・公共施設などのバリアフリー化が進んでいる



8 最寄駅周辺に生活に必要な施設がそろっている



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというと思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというと思わない」の合計

9 商店街が賑わっている

- ・いずれの地区も「そう思わない」が最も多く、特に新橋、和泉北部、富士見が丘では7割を超えている。また、しらゆりで「どちらともいえない」が全体値に比べて高くなっている。

10 普段の買い物をする場所が近くにある

- ・新橋と富士見が丘で「そう思わない」が最も多い以外は「そう思う」が最も多く、しらゆりでは7割に達している。

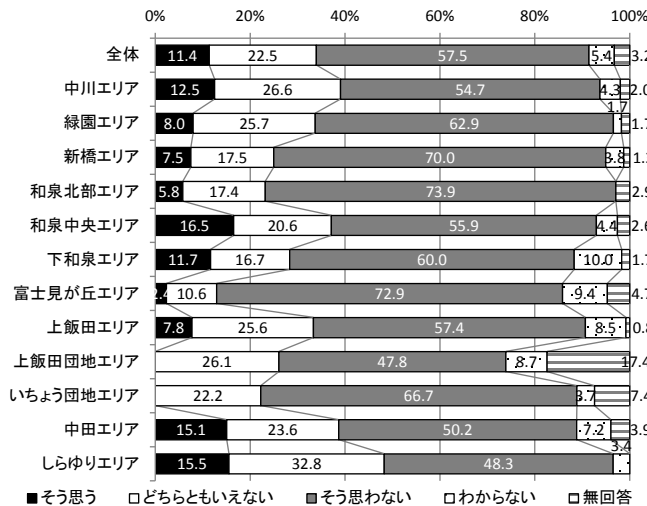
11 飲食やショッピングをする場所が充実している

- ・いずれの地区でも「そう思わない」が最も多く、新橋と富士見が丘で7割に達している。和泉中央では「そう思う」が全体値に比べて高い。

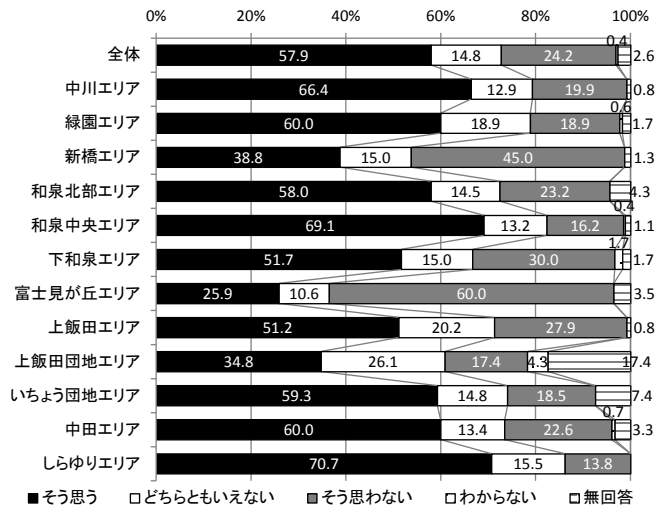
12 川にはきれいな水が流れ、親水施設があるなど、水辺環境に恵まれている

- ・和泉中央、下和泉、富士見が丘、上飯田では「そう思う」、新橋と上飯田団地では「どちらともいえない」、それ以外は「そう思わない」が最も多くなっている。また、しらゆりで「わからない」が全体値に比べて高くなっている。

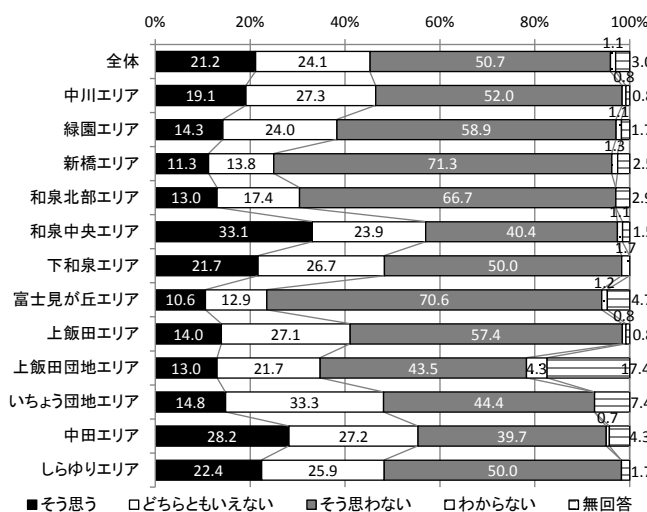
9 商店街が賑わっている



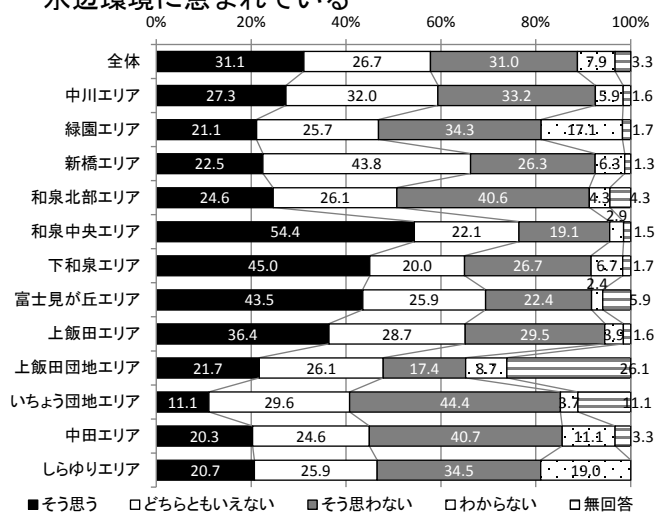
10 普段の買い物をする場所が近くにある



11 飲食やショッピングをする場所が充実している



12 川にはきれいな水が流れ、親水施設があるなど、水辺環境に恵まれている



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというそう思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというそう思わない」の合計

13 農地が残っており、直売所があるなど、農環境に恵まれている

・いずれの地区も「そう思う」が最も多く、富士見が丘では8割、和泉北部、下和泉、上飯田でも7割を超えている。緑園、新橋では「そう思わない」の数値が全体値に比べて高い。

14 公園・緑地が多く、緑環境に恵まれている

・いずれの地区も「そう思う」が最も多く、緑園、和泉北部では8割、中川でも7割を超えている。

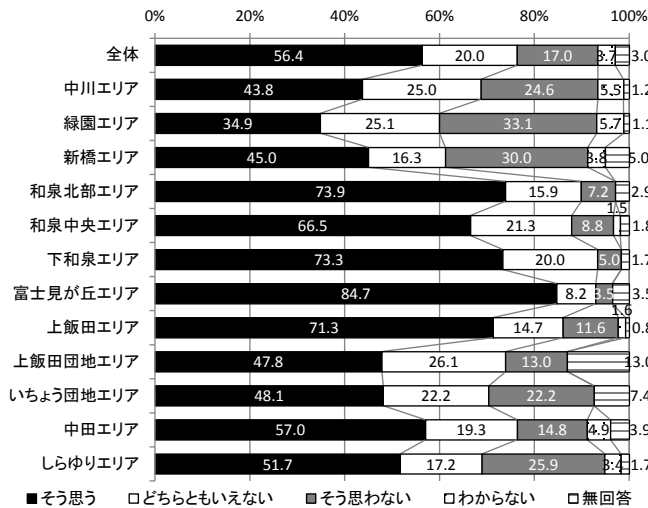
15 CO2削減や省エネの取組が進んでいる

・しらゆりで「そう思わない」が最も多く、上飯田団地で「そう思う」「どちらともいえない」が同率となっている以外は「どちらともいえない」が最も多くなっている。

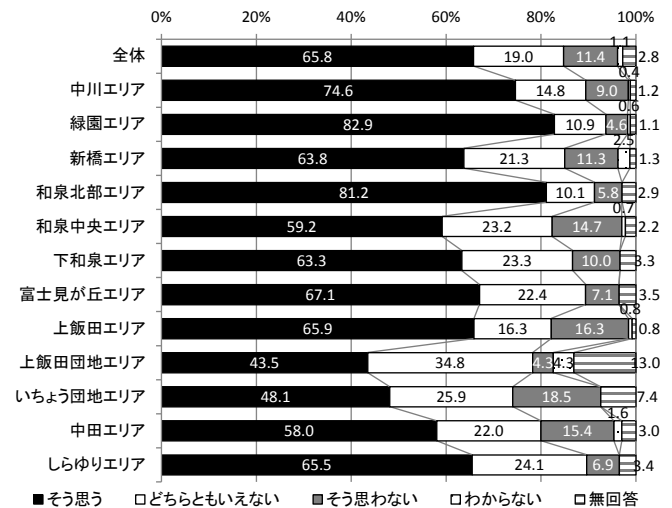
16 ごみの分別排出がしっかり行われている

・いちょう団地で「そう思う」「そう思わない」が同率となっている以外は、いずれの地区でも「そう思う」が最も多く、特に和泉北部では8割を超えている。

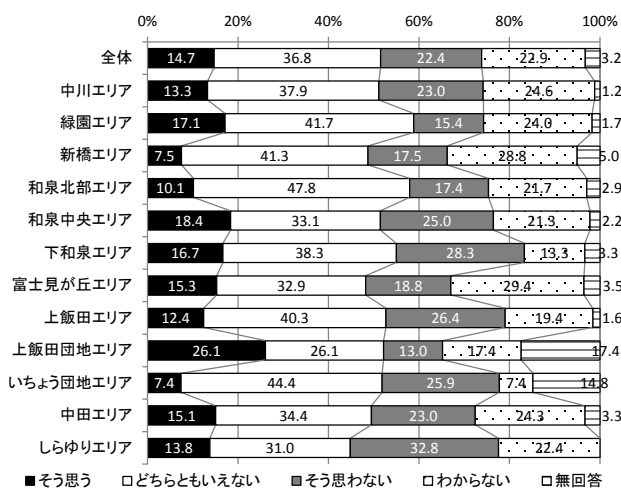
13 農地が残っており、直売所があるなど、農環境に恵まれている



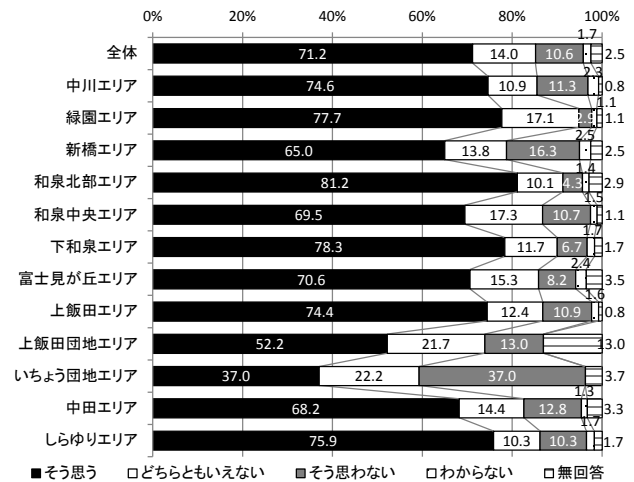
14 公園・緑地が多く、緑環境に恵まれている



15 CO2削減や省エネの取組が進んでいる



16 ごみの分別排出がしっかり行われている



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというそう思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというそう思わない」の合計

17 悪臭や騒音などが無い

・和泉北部、上飯田、いちょう団地では「そう思わない」、上飯田団地では「そう思う」「そう思わない」が同率、それ以外の地区では「そう思う」が最も多く、しらゆりでは7割を超えている。

18 保育などの子育て支援や保護を要する児童への対策が進んでいる

・緑園、和泉北部、しらゆりでは「そう思う」、中川、下和泉では「どちらともいえない」、いちょう団地では「そう思わない」が最も多く、上飯田団地で「どちらともいえない」「わからない」が同率になっており、「そう思う」との回答がなかった。それ以外は「わからない」が最も多くなっている。

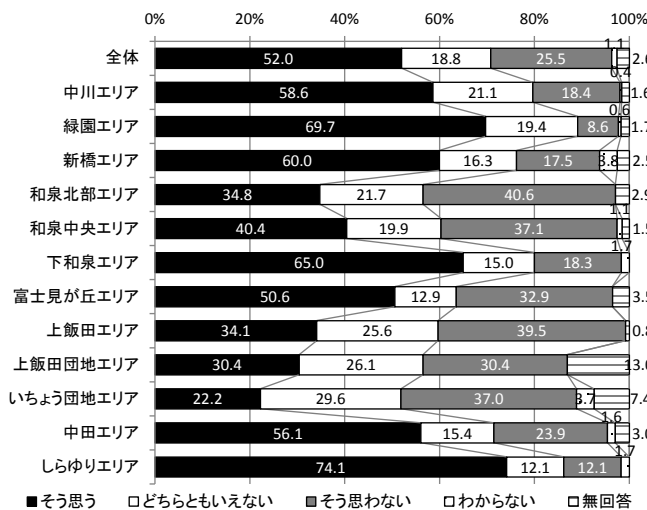
19 学校教育・青少年健全育成に関する取組が進んでいる

・緑園、和泉北部、しらゆりでは「そう思う」、中川、下和泉、上飯田では「どちらともいえない」、それ以外は「わからない」が最も多くなっている。

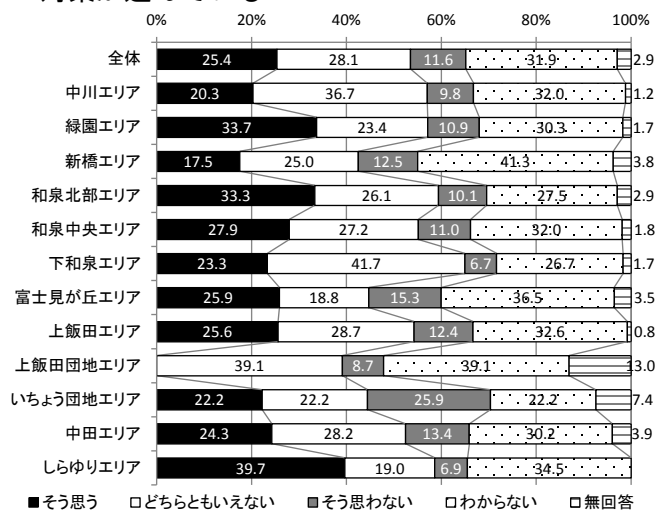
20 病院や救急医療などの地域医療が充実している

・上飯田団地、いちょう団地では「どちらともいえない」、緑園で「そう思う」「どちらともいえない」が同率となっている以外は「そう思う」が最も多く、しらゆりで6割を超えている。

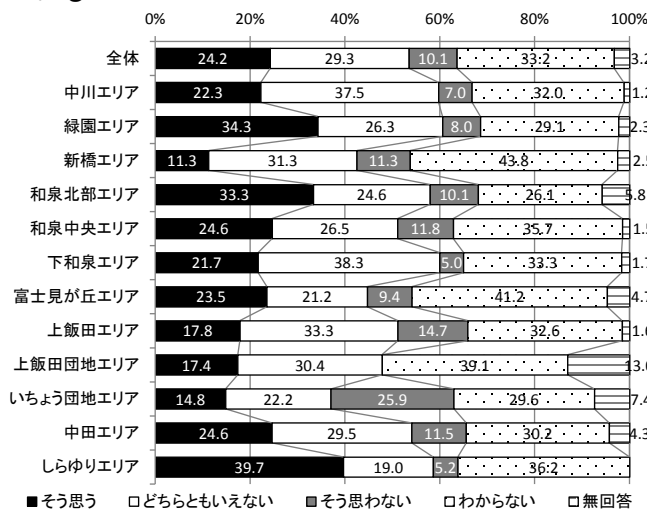
17 悪臭や騒音などが無い



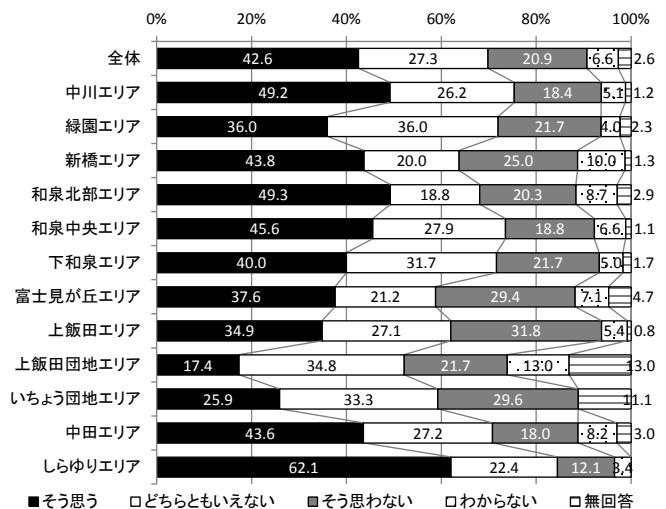
18 保育などの子育て支援や保護を要する児童への対策が進んでいる



19 学校教育・青少年健全育成に関する取組が進んでいる



20 病院や救急医療などの地域医療が充実している



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというそう思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというそう思わない」の合計

21 健康づくり活動の取組が進んでいる

- ・しらゆりで「そう思う」が最も多い以外は、いずれの地区でも「どちらともいえない」が最も多くなっている。

22 高齢者福祉保健に関する取組が進んでいる

- ・和泉中央、富士見が丘、しらゆりで「そう思う」、新橋、中田で「わからない」が最も多く、いちょう団地で「そう思う」「どちらともいえない」が同率となっている以外は、いずれの地区でも「どちらともいえない」が最も多くなっている。

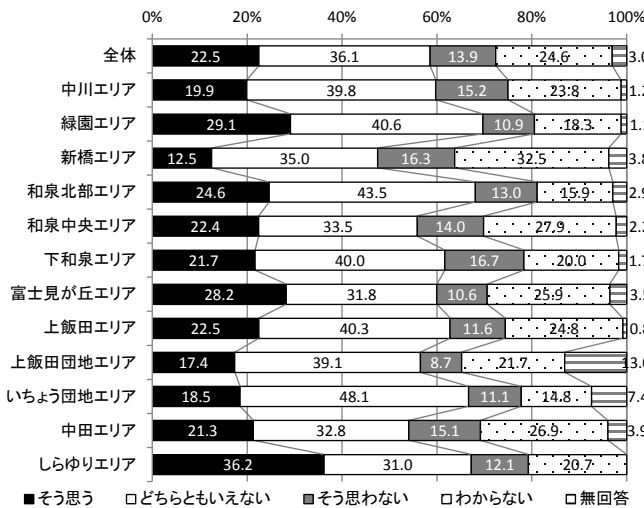
23 障がい者福祉保健に関する取組が進んでいる

- ・中川、緑園、下和泉、上飯田で「どちらともいえない」、それ以外はいずれの地区でも「わからない」が最も多くなっている。

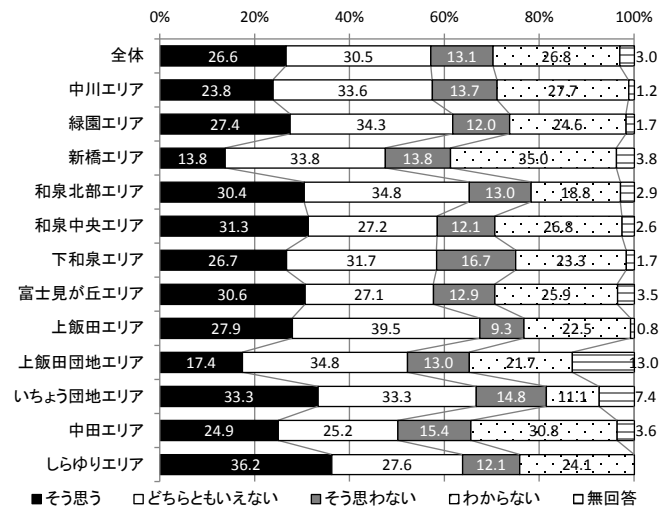
24 地区センターやケアプラザなど区民利用施設が充実している

- ・緑園、いちょう団地で「どちらともいえない」、それ以外はいずれの地区でも「そう思う」が最も多く、しらゆりでは6割を超えている。

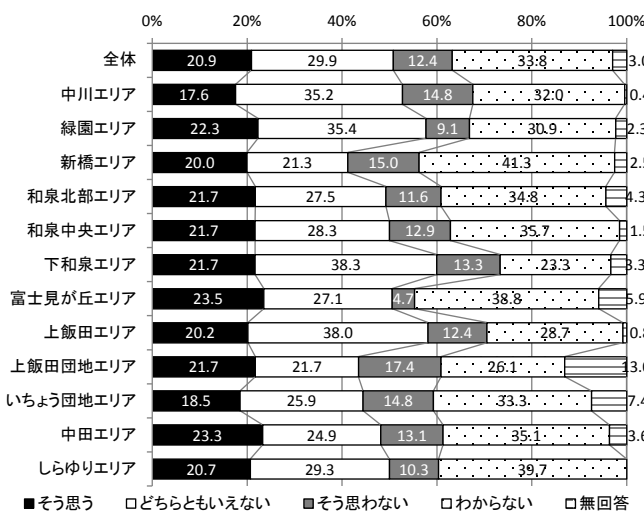
21 健康づくり活動の取組が進んでいる



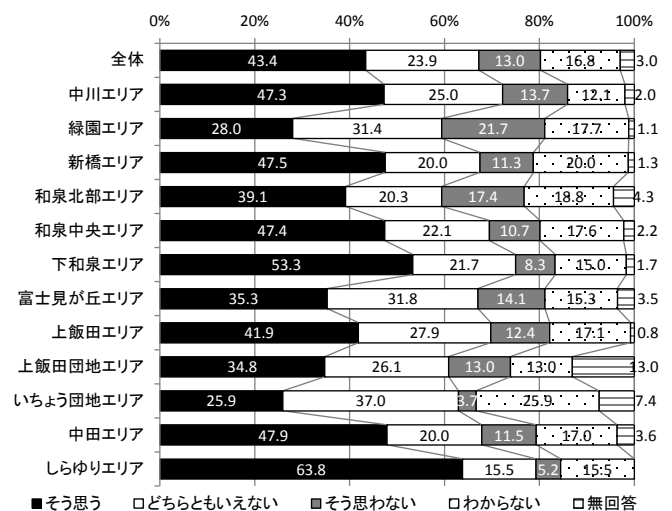
22 高齢者福祉保健に関する取組が進んでいる



23 障がい者福祉保健に関する取組が進んでいる



24 地区センターやケアプラザなど区民利用施設が充実している



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというと思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというと思わない」の合計

25 自治会・町内会活動など、地域のつながりが深い

・いずれの地区でも「そう思う」が最も多くなっている。

26 趣味の講座やスポーツ活動が盛んである

・富士見が丘、しらゆりでは「そう思う」、それ以外はいずれの地区でも「どちらともいえない」が最も多くなっている。

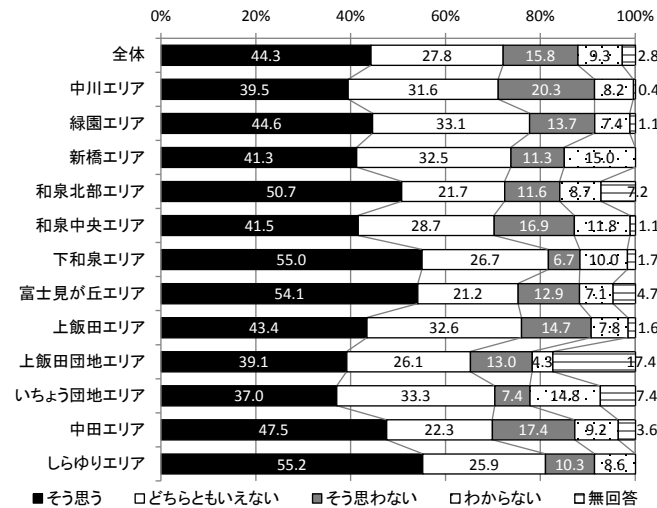
27 地域に伝わる伝統文化などが継承されている

・和泉北部、下和泉、上飯田団地、いちょう団地では「どちらともいえない」、それ以外の地区では「わからない」が最も多くなっている。

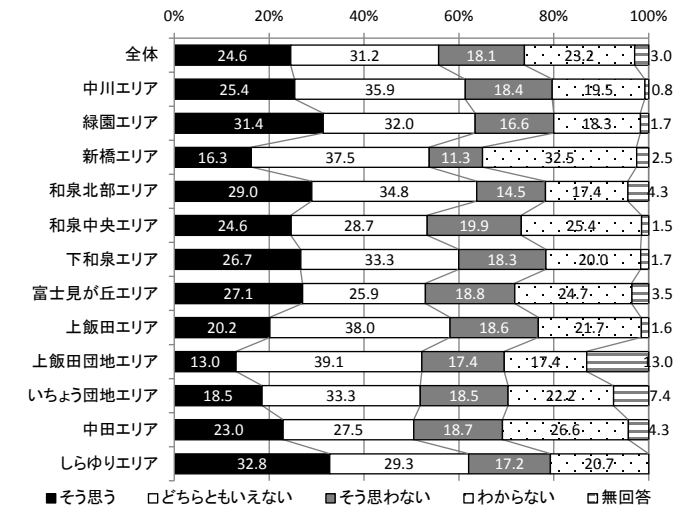
28 防犯に関する取組が進んでいる

・緑園、和泉北部、富士見が丘では「そう思う」、それ以外の地区では「どちらともいえない」が最も多くなっている。

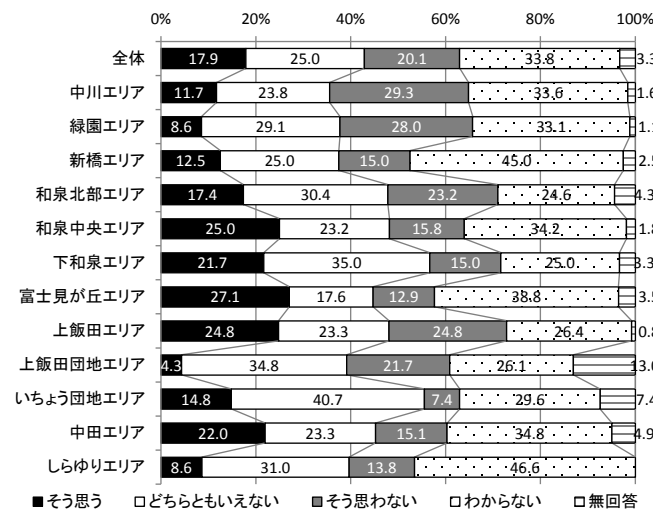
25 自治会・町内会活動など、地域のつながりが深い



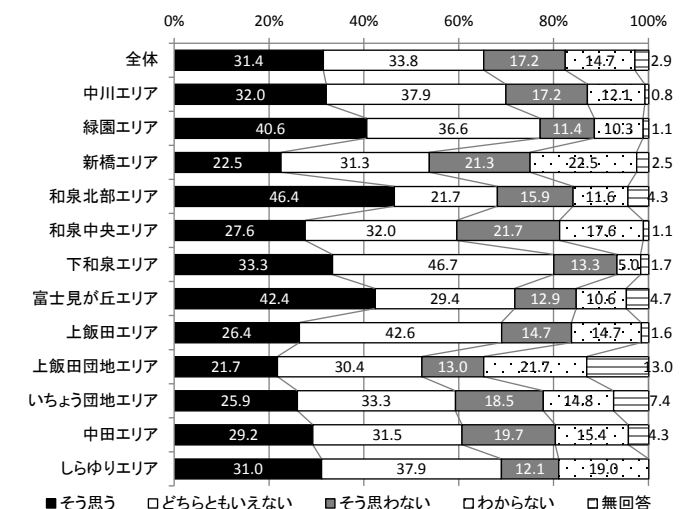
26 趣味の講座やスポーツ活動が盛んである



27 地域に伝わる伝統文化などが継承されている



28 防犯に関する取組が進んでいる



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというそう思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというそう思わない」の合計

29 食中毒予防など、食の安全対策が進んでいる

- ・中川、和泉北部、下和泉、上飯田、上飯田団地、いちよう団地では「どちらともいえない」、それ以外の地区では「わからない」が最も多くなっている。

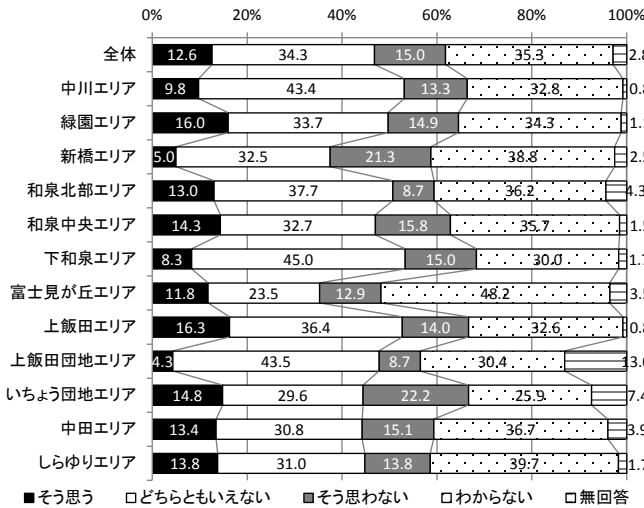
30 地震への対策が進んでいる

- ・富士見が丘で「わからない」が最も多く、新橋と和泉中央で「そう思わない」「わからない」が同率となっている以外は「どちらともいえない」が最も多くなっている。なお、緑園で「そう思う」が全体値より10ポイント以上高くなっている。

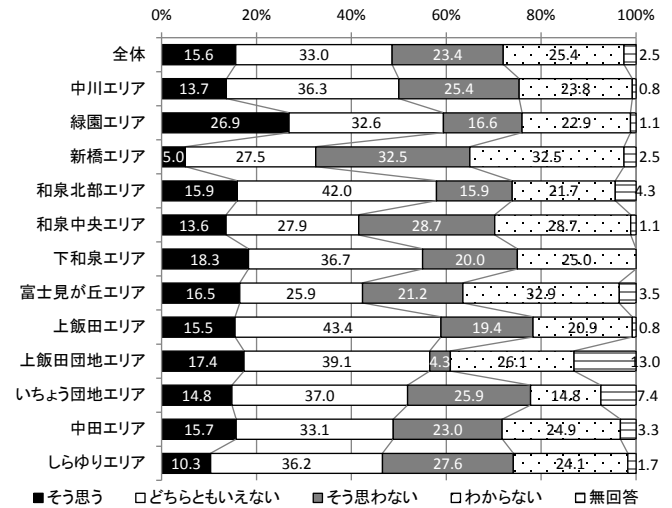
31 洪水や浸水などの水害への対策が進んでいる

- ・新橋、富士見が丘、中田で「わからない」が最も多く、しらゆりで「どちらともいえない」「わからない」が同率となっている以外は「どちらともいえない」が最も多くなっている。なお、富士見が丘で「そう思う」が全体値より10ポイント以上高くなっている。

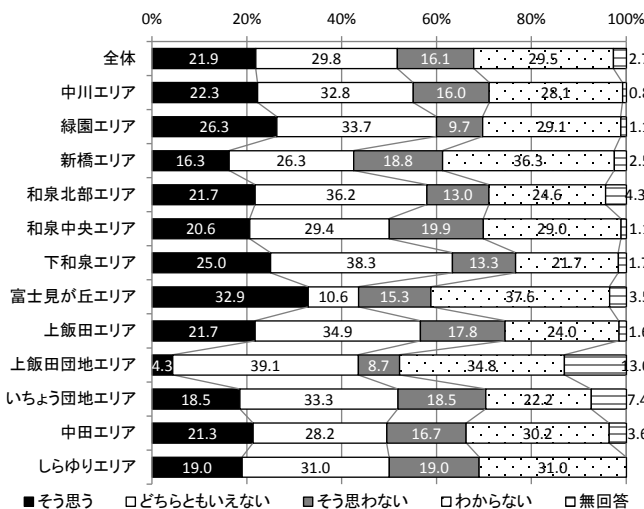
29 食中毒予防など、食の安全対策が進んでいる



30 地震への対策が進んでいる



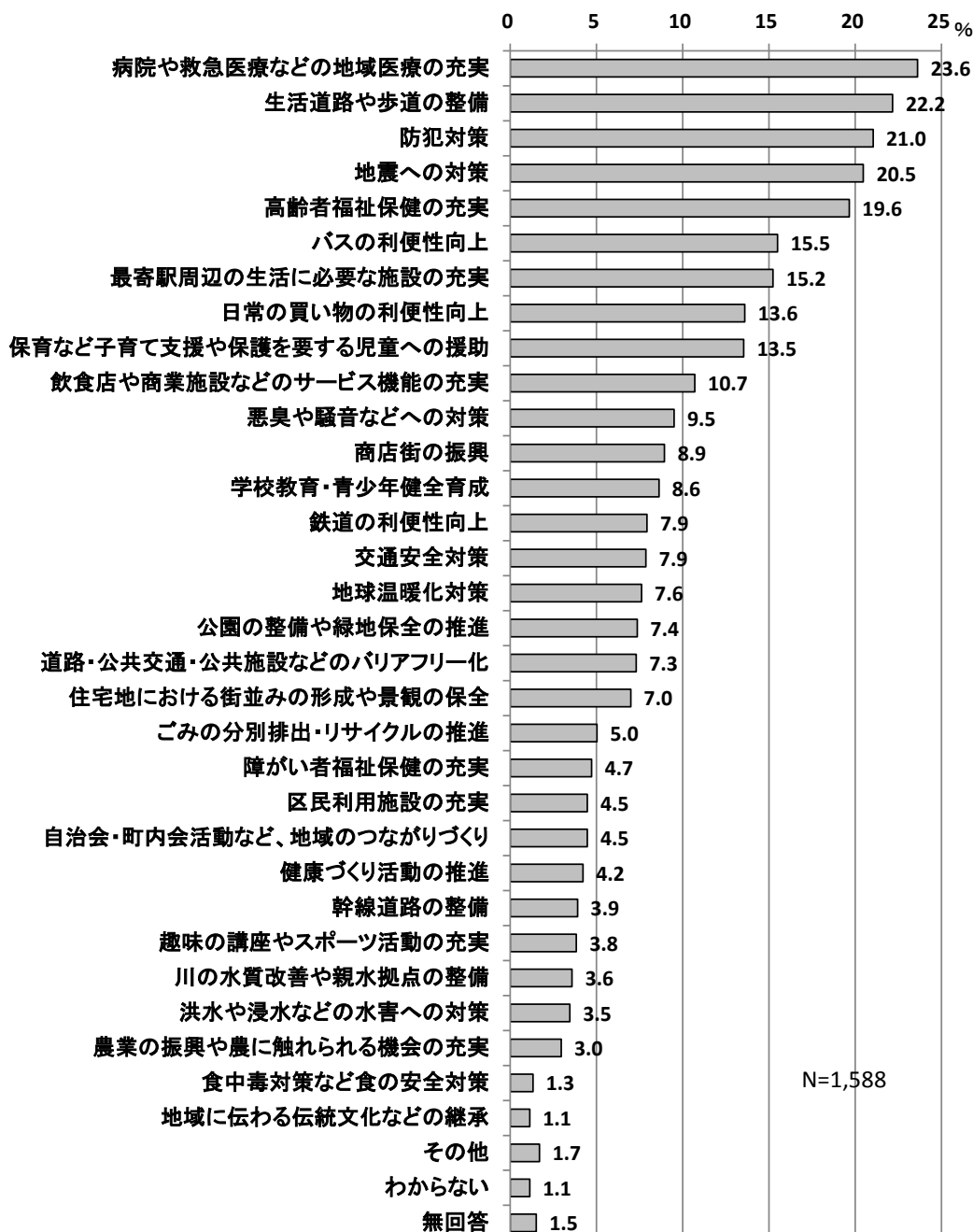
31 洪水や浸水などの水害への対策が進んでいる



※「そう思う」＝「そう思う」「どちらかというと思う」の合計
 「そう思わない」＝「そう思わない」「どちらかというと思わない」の合計

問1-2 あなたは、次(1~33)の項目の中で、今後特に力を入れて進めていくべきことは何だと思いま
すか。(〇は3つまで)

- ・「病院や救急医療などの地域医療の充実」が最も多く 23.6%である。続いて「生活道路や歩道の整備」(22.2%)、「防犯対策」(21.0%)、「地震への対策」(20.5%)を2割以上が挙げている。以下「高齢者福祉保健の充実」(19.6%)、「バスの利便性向上」(15.5%)、「最寄駅周辺の生活に必要な施設の充実」(15.2%)、「日常の買い物の利便性向上」(13.6%)、「保育など子育て支援や保護を要する児童への援助」(13.5%)などの順となっている。



■ 性別・年齢別 今後特に力を入れて進めていくべきこと（問1-2×F1, 2）

- ・男性は「生活道路や歩道の整備」、女性は「病院や救急医療などの地域医療の充実」が最も多く、男女で傾向が分かれた。
- ・年齢別で見ると、20歳代、30歳代では「保育など子育て支援や保護を要する児童への援助」、40歳代では「生活道路や歩道の整備」、50歳代では「病院や救急医療などの地域医療の充実」、60歳代以上の世代では「高齢者福祉保健の充実」が、それぞれ最も多くなっている。また、20歳代では「飲食店や商業施設などのサービス機能の充実」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。

		問1-2 今後特に力を入れて進めていくべきこと																	
		合計	住宅地における街並みの形成	生活道路や歩道の整備	交通安全対策	幹線道路の整備	鉄道の利便性向上	バスの利便性向上	道路・公共交通・公共施設などのバリアフリー化	最寄駅周辺の生活に必要な施設の充実	商店街の振興	日常の買い物物の利便性向上	飲食店や商業施設などのサービス機能の充実	備前の水質改善や親水拠点の整備	農会の振興や農に触れられる機会の充実	公園の整備や緑地保全の推進	地球温暖化対策	ごみの分別排出・リサイクルの推進	悪臭や騒音などへの対策
	全体	1588	7.0	22.2	7.9	3.9	7.9	15.5	7.3	15.2	8.9	13.6	10.7	3.6	3.0	7.4	7.6	5.0	9.5
F1 性別	男性	691	8.7	23.6	9.8	6.1	7.5	13.2	6.7	13.6	11.3	10.4	12.4	4.8	2.6	9.8	7.4	4.5	10.7
	女性	847	5.7	21.4	6.6	2.4	8.4	17.6	8.1	17.0	7.6	16.3	9.6	2.6	3.1	5.8	7.9	5.2	8.4
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	5.9	16.0	8.4	0.8	15.1	17.6	5.9	19.3	9.2	14.3	22.7	5.9	3.4	6.7	5.0	1.7	16.0
	30歳代	184	9.8	24.5	12.5	6.0	9.2	12.0	2.2	16.3	7.1	9.2	14.7	4.9	2.2	7.1	2.7	5.4	12.0
	40歳代	278	6.5	25.5	10.4	6.5	8.6	14.0	7.2	19.8	9.7	13.7	15.5	2.9	2.5	9.0	3.2	2.5	10.4
	50歳代	204	5.9	24.0	8.8	2.9	9.3	13.7	6.4	14.2	11.3	11.3	9.8	5.9	3.4	5.9	9.8	7.4	10.8
	60歳代	310	8.1	23.2	5.8	3.9	6.5	13.2	7.1	13.5	9.4	11.3	6.5	1.9	1.6	9.4	10.3	4.8	6.1
	70歳代以上	425	6.1	20.0	5.6	2.6	4.9	20.0	10.4	13.6	8.7	18.1	6.4	3.1	3.5	6.8	10.6	6.6	6.1

		問1-2 今後特に力を入れて進めていくべきこと																				
		合計	要する児童への援助	保育など子育て支援や保護を	学校教育・青少年健全育成	療院や救急医療などの地域医療の充実	健康づくり活動の推進	高齢者福祉保健の充実	障がい者福祉保健の充実	区民利用施設の充実	地域のつながりづくり	自治会・町内会活動など、地域の	趣味の講座やスポーツ活動の充実	継承に伝わる伝統文化などの	地域に伝わる伝統文化などの	防犯対策	食中毒対策など食の安全対策	地震への対策	策 洪水や浸水などの水害への対策	その他	わからない	無回答
	全体	1588	13.5	8.6	23.6	4.2	19.6	4.7	4.5	4.5	3.8	1.1	21.0	1.3	20.5	3.5	1.7	1.1	1.5			
F1 性別	男性	691	11.6	8.7	20.8	4.6	20.4	3.9	4.2	3.5	4.6	1.2	23.2	1.4	19.2	3.3	1.6	1.4	0.4			
	女性	847	15.6	8.7	26.3	3.7	19.4	5.3	4.7	5.0	3.1	1.1	19.6	1.2	22.0	3.5	1.8	0.8	1.4			
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	26.9	6.7	16.0	2.5	10.1	3.4	5.9	1.7	1.7	0.0	12.6	0.8	21.8	1.7	1.7	0.8	0.0			
	30歳代	184	26.1	16.8	19.0	2.2	7.1	3.8	4.9	3.3	2.7	0.5	25.5	0.5	20.7	3.8	2.2	1.1	0.5			
	40歳代	278	12.6	13.3	24.1	2.5	9.7	5.0	4.0	2.2	2.9	1.8	23.0	0.0	24.8	6.1	2.5	0.7	1.1			
	50歳代	204	9.8	7.4	28.9	1.5	15.7	5.4	1.0	3.4	2.5	1.0	25.5	1.5	25.5	3.9	1.0	1.0	0.0			
	60歳代	310	15.2	5.2	22.9	6.8	24.5	4.8	6.1	6.5	6.5	1.9	22.3	1.0	21.6	2.3	1.0	1.0	1.3			
	70歳代以上	425	6.1	6.6	27.1	6.1	33.4	4.9	4.9	6.4	4.5	0.7	17.9	3.1	15.3	3.1	2.1	1.4	1.9			

■ 居住地区別 今後特に力を入れて進めていくべきこと（問1-2×F3）

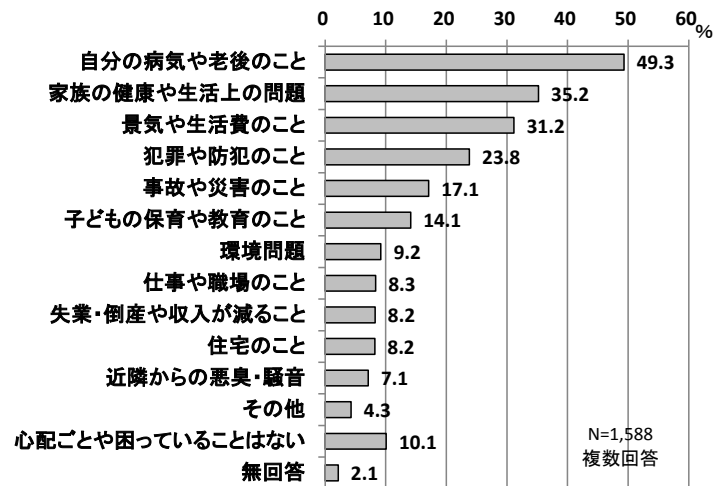
・中川、いちょう団地では「防犯対策」、緑園では「病院や救急医療などの地域医療の充実」、和泉北部と富士見が丘では「最寄駅周辺の生活に必要な施設の充実」、上飯田団地では「日常の買い物の利便性向上」、それ以外の地区では「生活道路や歩道の整備」が最も多く、下和泉では「生活道路や歩道の整備」「バスの利便性向上」が同率となっており、居住地区によって特徴がみられた。

		問1-2 今後特に力を入れて進めていくべきこと																						
合計		や景観の保全	住宅地における街並みの形成	生活道路や歩道の整備	交通安全対策	幹線道路の整備	鉄道の利便性向上	バスの利便性向上	道路のバリアフリー化	道路・公共交通・公共施設などの充実	最寄駅周辺の生活に必要な施設の充実	商店街の振興	日常の買い物の利便性向上	飲食店や商業施設などのサ-	備の充実	川の水質改善や親水拠点の整備	農会の充実	農業の振興や農に触れられる	公園の整備や緑地保全の推進	地球温暖化対策	の推進	ごみの分別排出・リサイクル	悪臭や騒音などへの対策	
	全体	1588	7.0	22.2	7.9	3.9	7.9	15.5	7.3	15.2	8.9	13.6	10.7	3.6	3.0	7.4	7.6	5.0	9.5					
F3 連合	中川エリア	256	7.8	13.3	4.7	7.0	12.5	20.7	7.4	15.6	8.2	10.5	10.5	5.1	2.0	7.4	8.2	4.3	6.3					
	緑園エリア	175	16.0	7.4	5.1	4.6	15.4	14.3	7.4	21.1	17.7	21.1	12.6	1.1	2.3	5.1	7.4	2.3	3.4					
	新橋エリア	80	13.8	33.8	7.5	11.3	7.5	17.5	11.3	20.0	10.0	18.8	15.0	10.0	2.5	6.3	2.5	3.8	3.8					
	和泉北部エリア	69	15.9	8.7	5.8	2.9	0.0	5.8	2.9	30.4	14.5	10.1	24.6	2.9	2.9	8.7	10.1	0.0	11.6					
	和泉中央エリア	272	4.4	30.9	8.8	1.8	4.8	8.5	9.6	15.4	7.0	7.0	10.3	2.6	2.6	8.1	7.4	5.5	19.5					
	下和泉エリア	60	1.7	30.0	11.7	6.7	5.0	30.0	5.0	11.7	1.7	16.7	3.3	5.0	3.3	8.3	8.3	1.7	10.0					
	富士見が丘エリア	85	2.4	20.0	7.1	1.2	7.1	27.1	4.7	29.4	3.5	23.5	17.6	1.2	3.5	10.6	8.2	0.0	11.8					
	上飯田エリア	129	3.1	27.1	10.9	3.1	10.9	21.7	3.1	8.5	7.0	14.0	13.2	3.1	3.9	7.8	5.4	4.7	8.5					
	上飯田団地エリア	23	4.3	0.0	0.0	4.3	21.7	30.4	0.0	8.7	17.4	43.5	17.4	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	21.7					
	いちょう団地エリア	27	14.8	14.8	22.2	3.7	0.0	22.2	11.1	11.1	22.2	7.4	7.4	0.0	0.0	18.5	14.8	14.8	7.4					
	中田エリア	305	3.6	29.2	9.8	3.0	3.3	10.5	8.5	8.2	8.5	12.1	4.6	3.6	2.3	6.6	8.5	8.9	6.9					
しらゆりエリア	58	6.9	31.0	8.6	0.0	6.9	8.6	10.3	15.5	5.2	13.8	12.1	8.6	12.1	8.6	10.3	10.3	3.4						

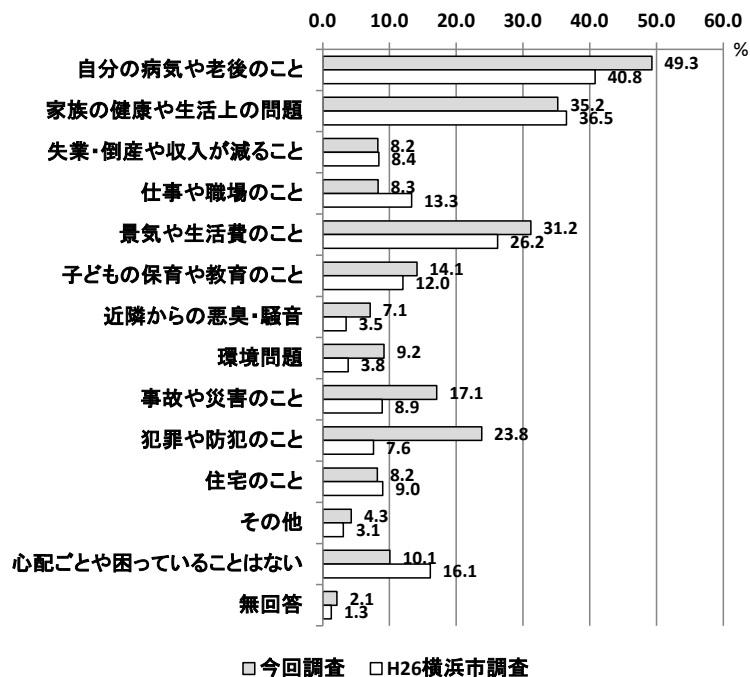
		問1-2 今後特に力を入れて進めていくべきこと																			
合計		要する児童への援助	保育など子育て支援や保護を	学校教育・青少年健全育成	療養院や救急医療などの地域医療の充実	健康づくり活動の推進	高齢者福祉保健の充実	障がい者福祉保健の充実	区民利用施設の充実	地域つながりがりづくり	自治会・町内会活動など、地域の活動	趣味の講座やスポーツ活動の充実	継承	地域に伝わる伝統文化などの防犯対策	食中毒対策など食の安全対策	地震への対策	洪水や浸水などの水害への対策	その他	わからない	無回答	
	全体	1588	13.5	8.6	23.6	4.2	19.6	4.7	4.5	4.5	3.8	1.1	21.0	1.3	20.5	3.5	1.7	1.1	1.5		
F3 連合	中川エリア	256	15.6	7.8	23.0	4.7	19.9	7.8	4.3	5.9	2.3	1.2	24.2	0.8	19.9	3.5	1.6	1.6	0.4		
	緑園エリア	175	11.4	7.4	25.1	4.6	18.9	2.9	10.3	5.1	6.3	1.7	20.6	0.6	20.0	1.7	1.7	0.0	0.0		
	新橋エリア	80	10.0	5.0	18.8	2.5	18.8	5.0	3.8	3.8	1.3	1.3	18.8	0.0	27.5	3.8	0.0	1.3	1.3		
	和泉北部エリア	69	11.6	10.1	11.6	8.7	23.2	1.4	4.3	2.9	8.7	1.4	17.4	2.9	23.2	2.9	1.4	0.0	0.0		
	和泉中央エリア	272	13.2	8.8	24.6	5.9	19.5	3.7	5.5	4.4	7.0	1.1	23.2	2.2	22.8	4.4	2.6	0.7	1.1		
	下和泉エリア	60	6.7	10.0	28.3	5.0	23.3	5.0	3.3	5.0	0.0	0.0	10.0	5.0	13.3	1.7	0.0	3.3	1.7		
	富士見が丘エリア	85	8.2	4.7	28.2	2.4	20.0	3.5	2.4	0.0	2.4	0.0	12.9	0.0	18.8	2.4	1.2	0.0	3.5		
	上飯田エリア	129	11.6	10.1	26.4	3.1	15.5	4.7	3.9	5.4	4.7	0.8	20.2	1.6	15.5	4.7	1.6	0.8	0.8		
	上飯田団地エリア	23	4.3	4.3	13.0	4.3	21.7	17.4	0.0	8.7	0.0	0.0	4.3	4.3	8.7	4.3	0.0	0.0	13.0		
	いちょう団地エリア	27	14.8	3.7	18.5	0.0	18.5	0.0	3.7	7.4	3.7	0.0	29.6	0.0	11.1	0.0	0.0	3.7	0.0		
	中田エリア	305	18.7	12.1	24.6	3.0	20.0	4.6	3.0	2.3	2.0	1.6	24.3	1.3	22.6	4.9	3.0	2.0	1.6		
しらゆりエリア	58	22.4	10.3	25.9	1.7	20.7	1.7	1.7	8.6	5.2	1.7	17.2	0.0	25.9	0.0	0.0	0.0	0.0			

問2 あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活の事で心配ごとや困っていることがありますか。(〇は3つまで)

- ・「自分の病気や老後のこと」が最も多く 49.3%で、半数近い人が挙げている。次いで「家族の健康や生活上の問題」(35.2%)、「景気や生活費のこと」(31.2%)が3割以上である。以下「犯罪や防犯のこと」(23.8%)、「事故や災害のこと」(17.1%)、「子どもの保育や教育のこと」(14.1%)などと続く。「心配ごとや困っていることはない」は10.1%で、約1割の人が挙げている。
- ・平成26年度横浜市民意識調査(以下「横浜市調査」という。)と比較すると、上位3項目は「自分の病気や老後のこと」「家族の健康や生活上の問題」「景気や生活費のこと」で変わらないが、1位の「自分の病気や老後のこと」の数値は横浜市調査に比べて8.5ポイント高くなっている。また、今回調査で4位の「犯罪や防犯のこと」は横浜市調査では9位で、16.2ポイント、5位の「事故や災害のこと」は横浜市調査では7位で、8.2ポイントの差がある。一方「心配ごとや困っていることはない」は、横浜市調査に比べて6.0ポイント低くなっている。



横浜市調査との比較



■ 性別・年齢別 心配ごとや困っていること（問2×F1, 2）

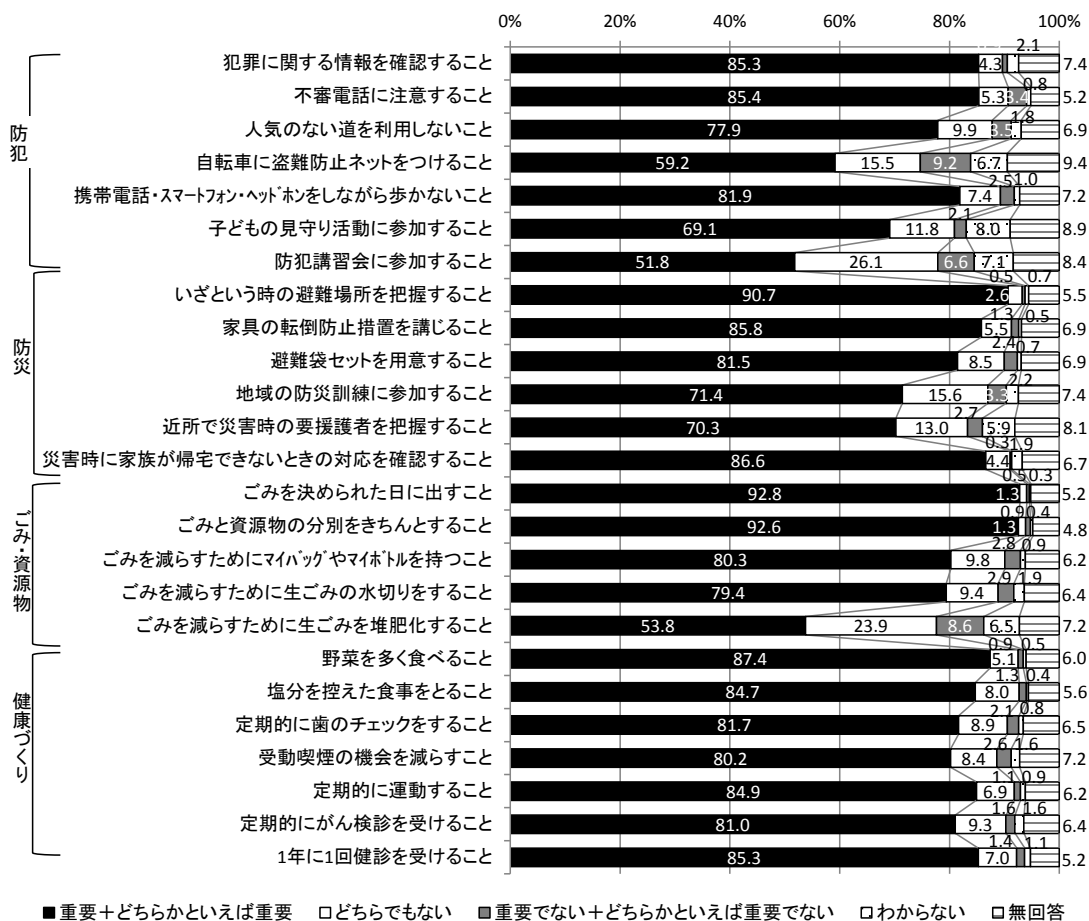
- ・男女とも「自分の病気や老後のこと」が最も多くなっている。また、男性は女性より「家族の健康や生活上の問題」が6.9ポイント高い。
- ・年齢別で見ると、20歳代では「景気や生活費のこと」、30歳代では「子どもの保育や教育のこと」、40歳代以上の世代では「自分の病気や老後のこと」が、それぞれ最も多くなっている。また、20歳代では「仕事や職場のこと」、40歳代では「子どもの保育や教育のこと」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。

		合計	問2 近頃、ご自分やご家族の生活の事で心配ごとや困っていること													
			の自分の病気や老後のこと	上家族の健康や生活上の問題	が失業・倒産や収入減ること	仕事や職場のこと	と景気や生活費のこと	育子や子どもの保育や教育のこと	騒音	近隣からの悪臭・騒音	環境問題	事故や災害のこと	犯罪や防犯のこと	住宅のこと	その他	心配ごとや困っていることはない
全体		1588	49.3	35.2	8.2	8.3	31.2	14.1	7.1	9.2	17.1	23.8	8.2	4.3	10.1	2.1
F1 性別	男性	691	51.8	39.5	9.4	9.4	31.1	11.9	8.4	9.3	17.4	23.3	8.4	3.6	10.0	1.2
	女性	847	46.9	32.6	7.2	7.9	32.0	16.8	6.4	9.1	17.2	25.4	7.6	5.1	9.9	2.0
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	21.0	31.1	6.7	21.8	32.8	21.0	5.9	5.0	17.6	26.9	8.4	5.0	14.3	0.0
	30歳代	184	28.3	31.0	9.2	16.3	30.4	40.8	12.0	2.7	18.5	29.3	6.5	3.8	7.6	0.5
	40歳代	278	37.4	34.9	10.8	14.4	32.4	27.7	6.1	6.8	15.5	24.1	6.8	4.3	8.3	1.8
	50歳代	204	47.5	41.2	12.7	8.3	32.4	7.4	11.8	11.3	13.7	17.2	8.8	2.9	13.2	1.5
	60歳代	310	59.4	35.2	7.1	3.2	28.1	5.5	3.5	11.9	19.4	20.6	10.6	4.2	11.6	1.9
	70歳代以上	425	67.8	37.6	4.0	1.6	32.7	3.1	6.4	11.5	18.6	27.8	7.8	5.4	8.0	2.6

問3 次の各取組はどの程度重要だと思いますか。また、あなた自身はどの程度取り組んでいますか。
 (取組ごとに○は1つずつ)

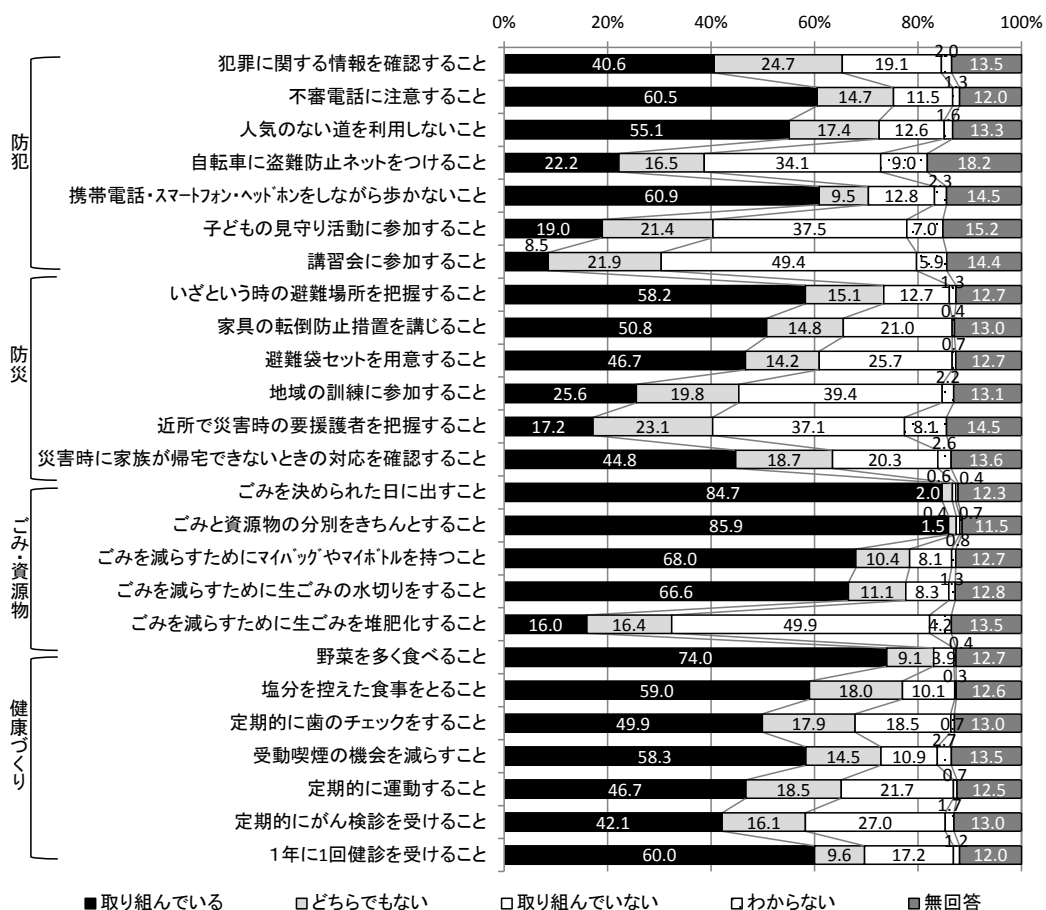
<重要度>

- ・「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせて「重要度」をみると、最も重要度が高いのは「ごみ・資源物」カテゴリの「ごみを決められた日に出すこと」の92.8%、僅差で「ごみと資源物の分別をきちんとすること」の92.6%である。以下「いざという時の避難場所を把握すること」(90.7%・防災)、「野菜を多く食べること」(87.4%・健康づくり)、「災害時に家族が帰宅できないときの対応を確認すること」(86.6%・防災)が上位5項目となっている。
- ・重要度が8割を超えているのは、上記のほか「家具の転倒防止措置を講じること」(85.8%・防災)、「不審電話に注意すること」(85.4%・防犯)、「犯罪に関する情報を確認すること」(85.3%・防犯)、「1年に1回健診を受けること」(85.3%・健康づくり)、「定期的に運動すること」(84.9%・健康づくり)、「塩分を控えた食事をとること」(84.7%・健康づくり)、「携帯電話・スマートフォン・ヘッドホンをしながら歩かないこと・防犯」(81.9%)、「定期的に歯のチェックをすること」(81.7%・健康づくり)、「避難袋セットを用意すること」(81.5%・防災)、「定期的ながん検診を受けること」(81.0%・健康づくり)、「ごみを減らすためにマイバッグやマイボトルを持つこと」(80.3%・ごみ・資源物)、「受動喫煙の機会を減らすこと」(80.2%・健康づくり)で、計17項目となっている。



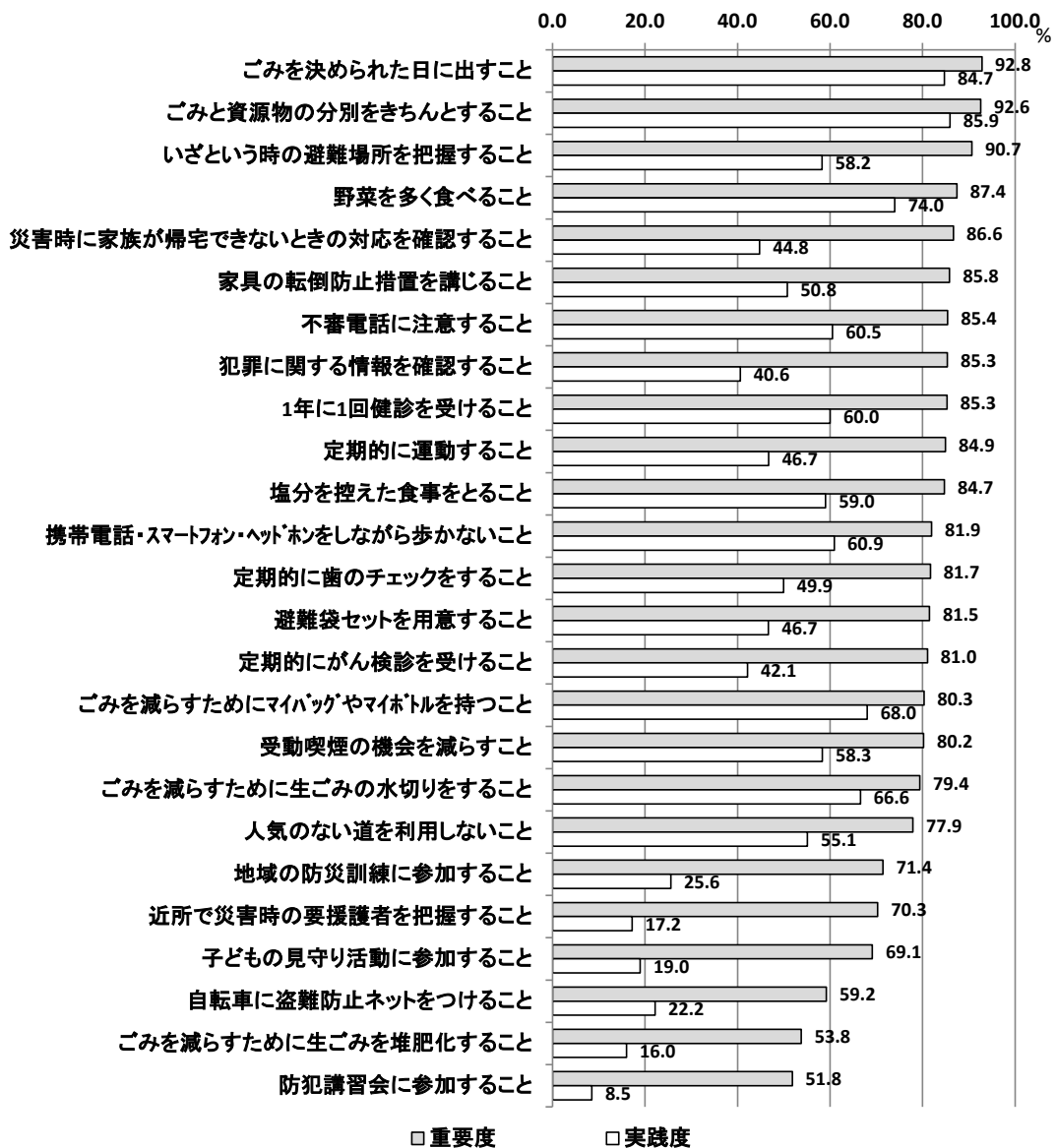
<実践度>

- ・「積極的に取り組んでいる」と「比較的取り組んでいる」を合わせて「実践度」をみると、最も実践度が高いのは「ごみ・資源物」カテゴリの「ごみと資源物の分別をきちんとすること」の85.9%である。次いで「ごみを決められた日に出すこと」（84.7%・ごみ・資源物）、「野菜を多く食べること」（74.0%・健康づくり）、「ごみを減らすためにマイバッグやマイボトルを持つこと」（68.0%・ごみ・資源物）、「ごみを減らすために生ごみの水切りをすること」（66.6%・ごみ資源物）が上位5項目となっている。
- ・実践度が5割を超えているのは、上記のほか「携帯電話・スマートフォン・ヘッドホンをしながらかかないこと」（60.9%・防犯）、「不審電話に注意すること」（60.5%・防犯）、「1年に1回健診を受けること」（60.0%・健康づくり）、「塩分を控えた食事をとること」（59.0%・健康づくり）、「受動喫煙の機会を減らすこと」（58.3%・健康づくり）、「いざという時の避難場所を把握すること」（58.2%・防災）、「人気のない道を利用しないこと」（55.1%・防犯）、「家具の転倒防止措置を講じること」（50.8%・防災）で、計13項目となっている。



<重要度と実践度の比較>

- ・「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた「重要度」と、「積極的に取り組んでいる」と「比較的取り組んでいる」を合わせた「実践度」をみても、重要度1位の「ごみを決められた日に出すこと」は実践度では2位、重要度2位の「ごみと資源物の分別をきちんとすること」は実践度1位で、上位2項目では同傾向となっているが、重要度3位の「いざという時の避難場所を把握すること」は実践度11位、重要度5位の「災害時に家族が帰宅できないときの対応を確認すること」は実践度17位、重要度6位の「家具の転倒防止措置を講じること」は実践度13位となっており、防災に関わる項目は重要度が高いのに対して実践度が低くなっている傾向にある。



■ 年齢別・居住地区別 各取組の重要度と実践度について（問3×F2, 3）

防犯－1 犯罪に関する情報を確認すること

<重要度>

- ・年齢別では、いずれの年代でも「重要」が最も多く、特に30歳代から50歳代では9割を超えている。
- ・居住地区別では、いずれの地区でも「重要」が6割台～8割台で最も多くなっている。上飯田団地はややサンプル数が少ないが、「重要」の数値が低い一方「どちらでもない」が全体値に比べて高い。

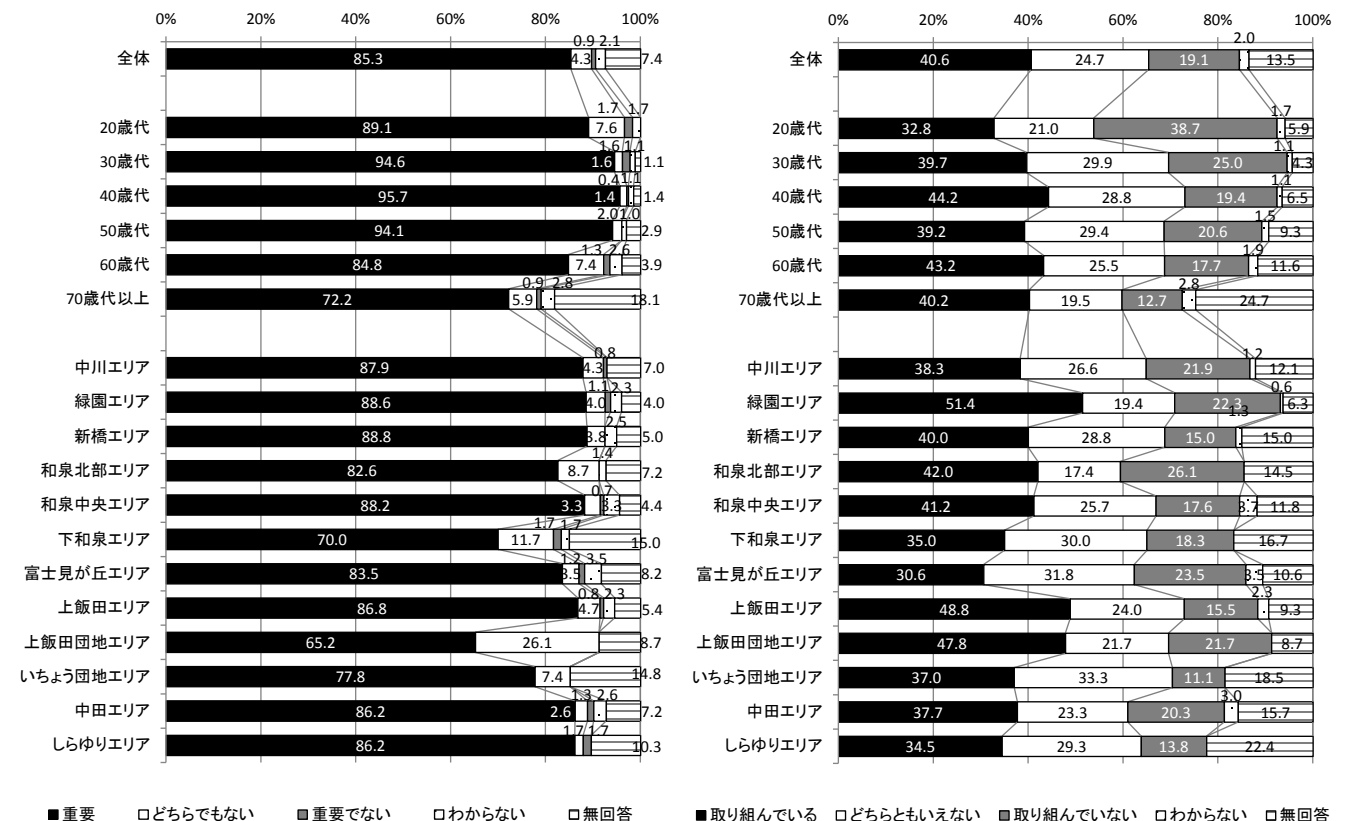
<実践度>

- ・年齢別では、20歳代で「取り組んでいない」、30歳代以上の世代では「取り組んでいる」が最も多くなっている。
- ・居住地区別では、富士見が丘のみ「どちらともいえない」、それ以外の地区では「取り組んでいる」が最も多くなっている。

防犯－1 犯罪に関する情報を確認すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防犯-2 不審電話に注意すること

<重要度>

- ・いずれの年代でも「重要」が最も多く、8割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、6割台～9割台となっており、しらゆりでは9割を超えている。

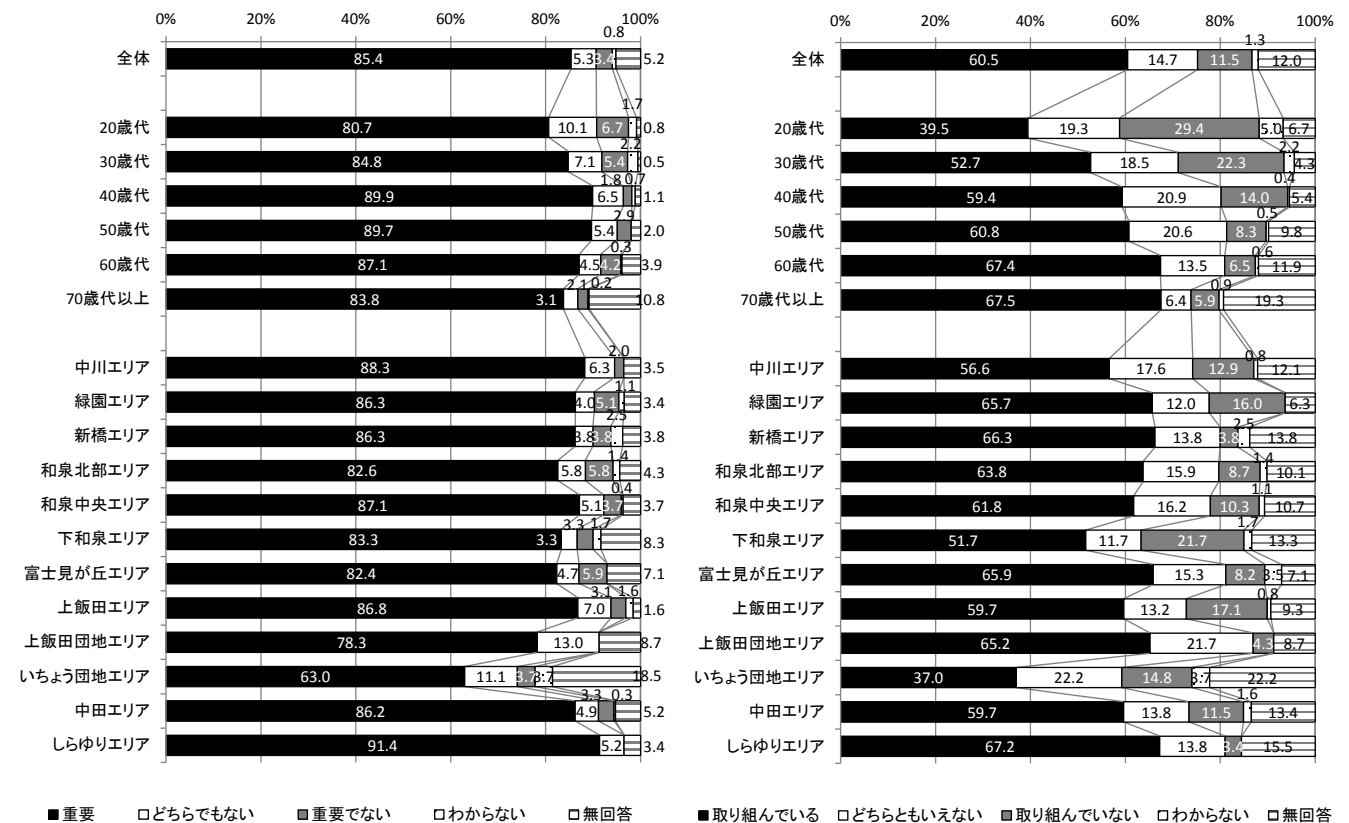
<実践度>

- ・いずれの年代でも「取り組んでいる」が最も多く、年齢層が高いほど実践度も高くなっている。また20歳代、30歳代では「取り組んでいない」が全体値を10ポイント以上上回っている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が最も多いが、いちょう団地では数値が低い。下和泉では「取り組んでいない」が全体値を10ポイント以上上回っている。

防犯-2 不審電話に注意すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防犯-3 人気のない道を利用しないこと

<重要度>

- ・いずれの年代でも「重要」が最も多く、7割弱～8割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く6割台～8割台となっている。上飯田団地では「どちらでもない」、いちょう団地では「重要でない」の数値が全体値に比べて高くなっている。

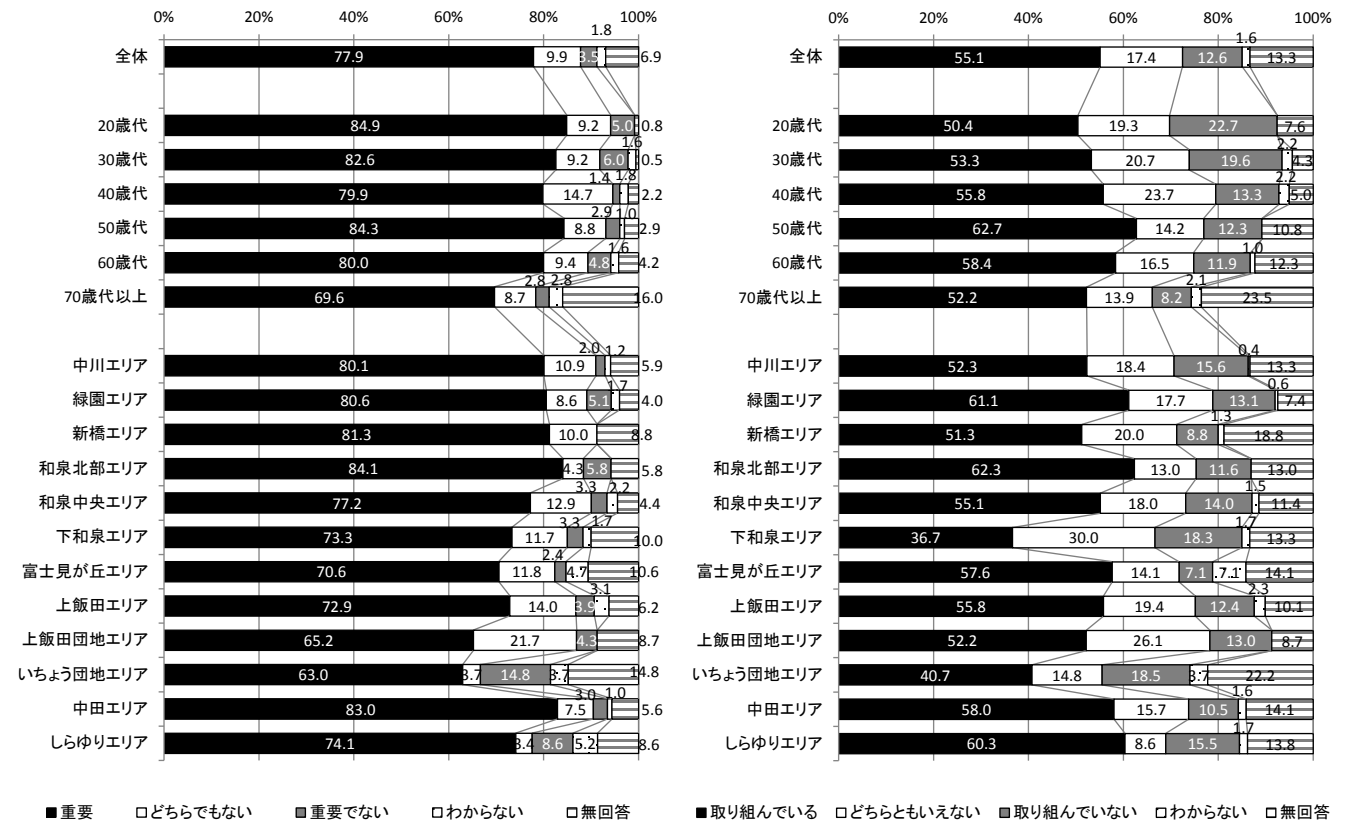
<実践度>

- ・いずれの年代でも「取り組んでいる」が5割台～6割台で、最も多くなっている。また、20歳代では「取り組んでいない」の数値が全体値に比べて高くなっている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が最も多くなっているが、下和泉、いちょう団地では数値が低い。また、下和泉では「どちらともいえない」の数値が全体値に比べて高くなっている。

防犯-3 人気のない道を利用しないこと

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計
「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計
<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防犯－4 自転車に盗難防止ネットをつけること

<重要度>

- ・いずれの年代でも「重要」が最も多く、5～6割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、4割台～6割台である。和泉北部と上飯田団地では「どちらでもない」の数值が全体値に比べて高くなっている。

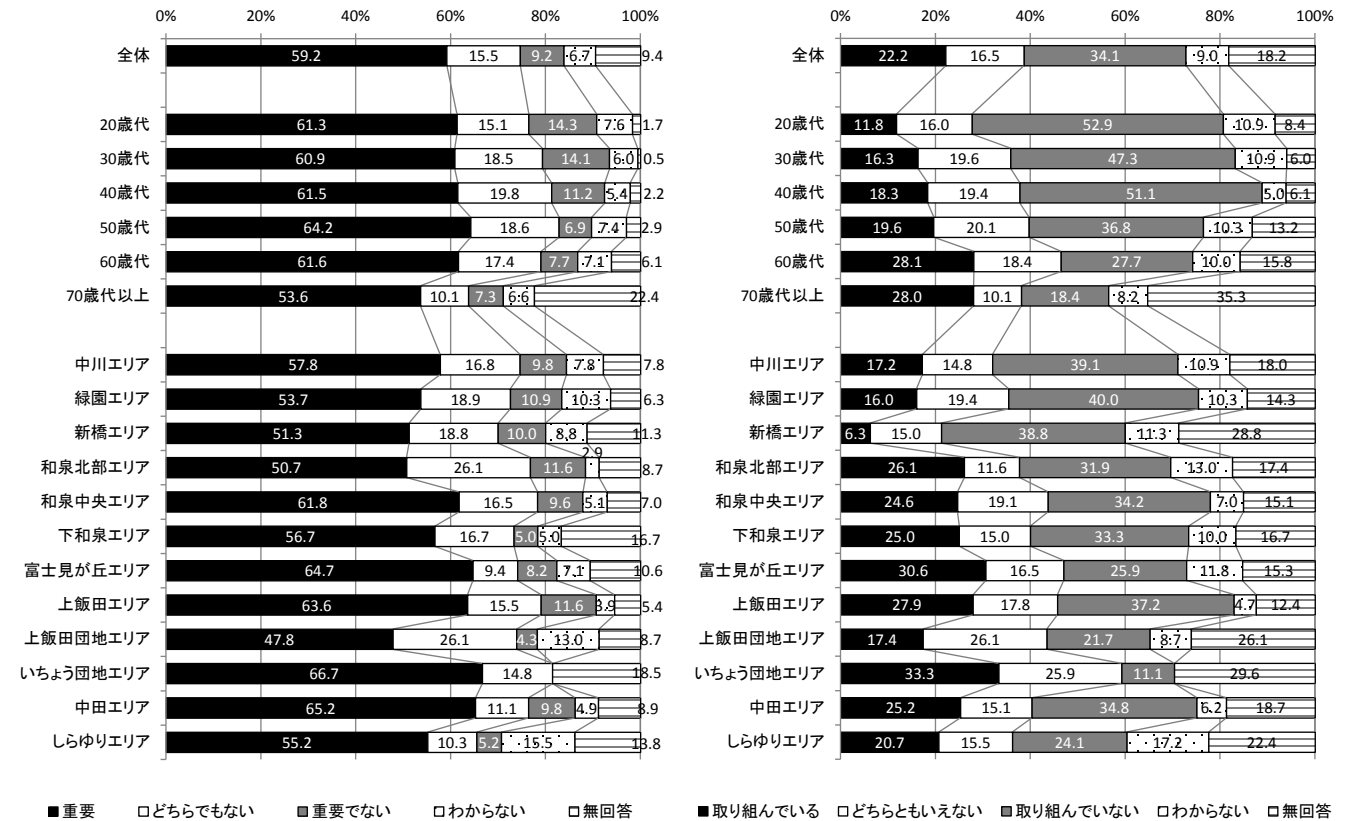
<実践度>

- ・20歳代から50歳代では「取り組んでいない」、60歳代以上の世代では「取り組んでいる」が最も多く、年齢層が高いほど実践度も高くなっている。
- ・富士見が丘、いちよう団地では「取り組んでいる」、上飯田団地では「どちらともいえない」、それ以外の地区では「取り組んでいない」が最も多くなっている。また、新橋での実践度が低くなっている。

防犯－4 自転車に盗難防止ネットをつけること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防犯-5 携帯電話・スマートフォン・ヘッドホンをしてながら歩かないこと

<重要度>

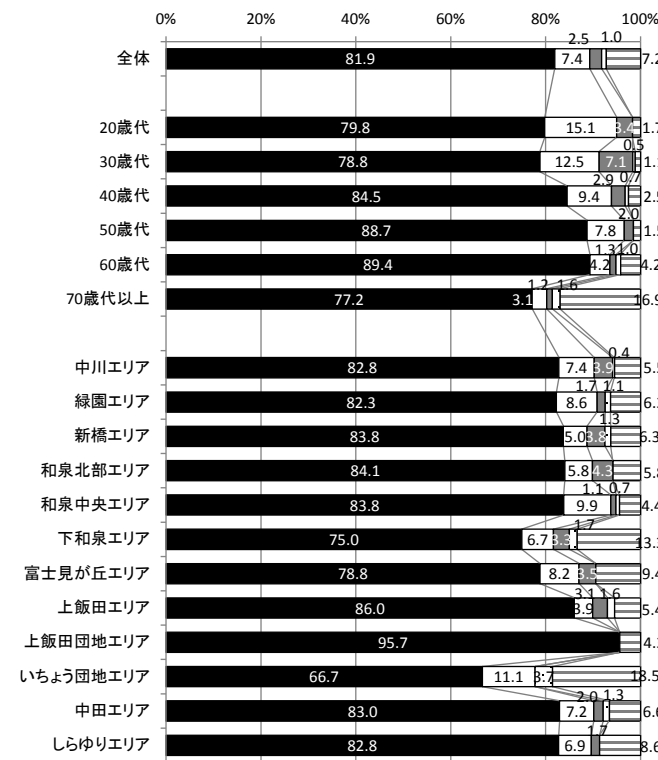
- ・いずれの年代でも「重要」が最も多く、7割台後半～8割台を占めている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、6割台～9割台となっている。上飯田団地で9割を超える一方、いちよう団地では数値が低い。

<実践度>

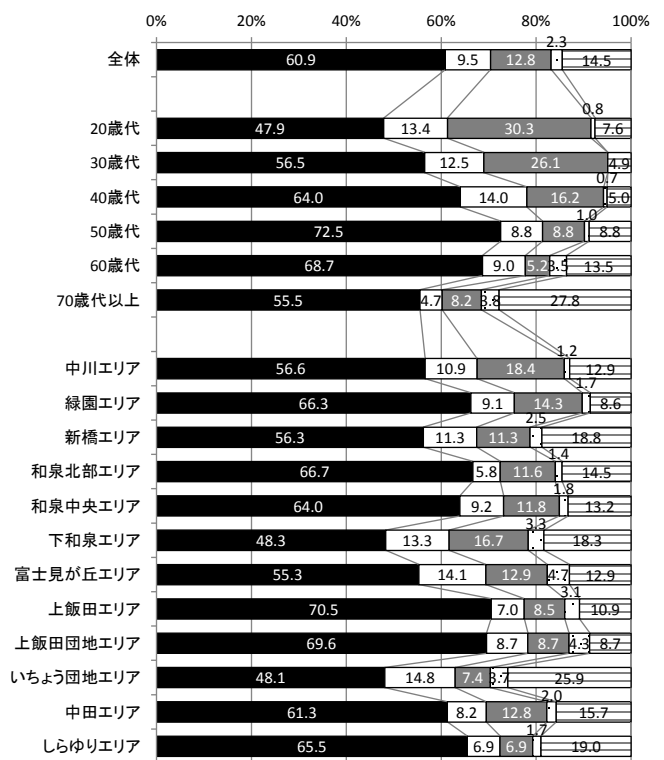
- ・いずれの年代でも「取り組んでいる」が最も多く5割弱から7割台となっているが、20歳代では数値が低く、20歳代、30歳代では「取り組んでいない」の数値も全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が5割弱から7割台となっている。

防犯-5 携帯電話・スマートフォン・ヘッドホンをしてながら歩かないこと

<重要度>



<実践度>



■重要 □どちらでもない ■重要でない □わからない □無回答 ■取り組んでいる □どちらともいえない ■取り組んでいない □わからない □無回答

※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防犯-6 子どもの見守り活動に参加すること

<重要度>

- ・いずれの年代でも「重要」が最も多く、70歳代以上では5割台だが、それ以外の世代では7～8割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多いが数値に差があり、中川、緑園、和泉北部、和泉中央、上飯田、中田で7割を超えているのに対し、上飯田団地では数値が低く4割に達しておらず、「どちらでもない」の数値が全体値に比べて高くなっている。

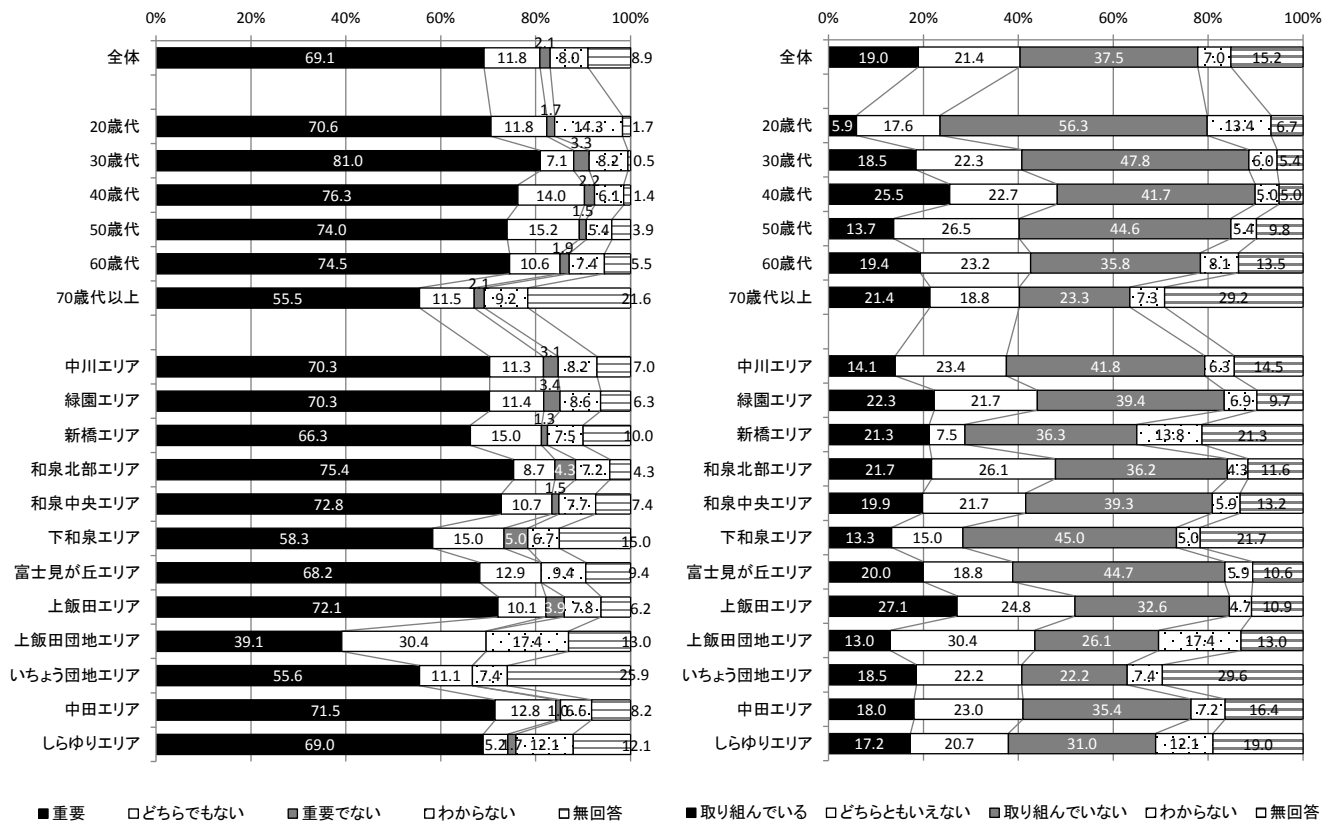
<実践度>

- ・いずれの年代でも「取り組んでいない」が最も多く、特に若い年齢層ほど数値が高くなっている。「取り組んでいる」の数値が最も高いのは40歳代、次いで70歳代以上である。
- ・上飯田団地では「どちらともいえない」、いちょう団地では「どちらともいえない」「取り組んでいない」が同率、それ以外の地区では「取り組んでいない」が最も多くなっている。「取り組んでいる」の数値が最も高いのは上飯田、次いで緑園である。

防犯-6 子どもの見守り活動に参加すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防犯－7 防犯講習会に参加すること

<重要度>

- ・20歳代では「どちらでもない」、30歳代以上の世代では「重要」が最も多くなっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、4割台～6割台で、いちょう団地のみ6割を超えている。

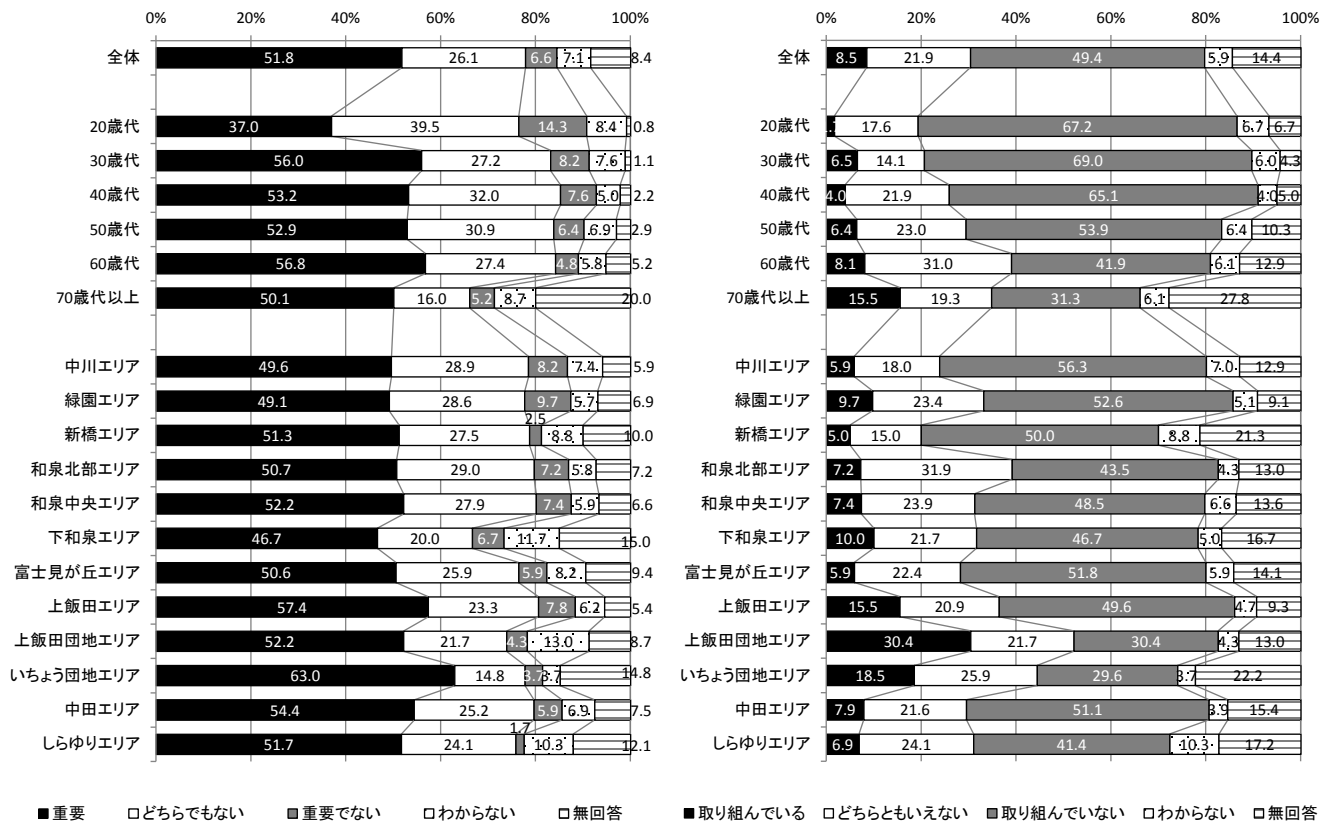
<実践度>

- ・いずれの年代でも「取り組んでいない」が最も多く、30歳代を中心に若い年齢層で数値が高くなっている。
- ・上飯田団地では「取り組んでいる」「取り組んでいない」が同率、それ以外の地区では「取り組んでいない」が最も多くなっている。また、いちょう団地で「取り組んでいる」、和泉北部で「どちらともいえない」の数値が全体値に比べて10ポイント高くなっている。

防犯－7 防犯講習会に参加すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防災－1 いざという時の避難場所を把握すること

<重要度>

- ・いづれの年齢でも「重要」が圧倒的に多く、60歳代までの世代では9割を超えている。
- ・いづれの地区でも「重要」が圧倒的に多く、中川、緑園、新橋、和泉中央、富士見が丘、上飯田、中田で9割を超えている。

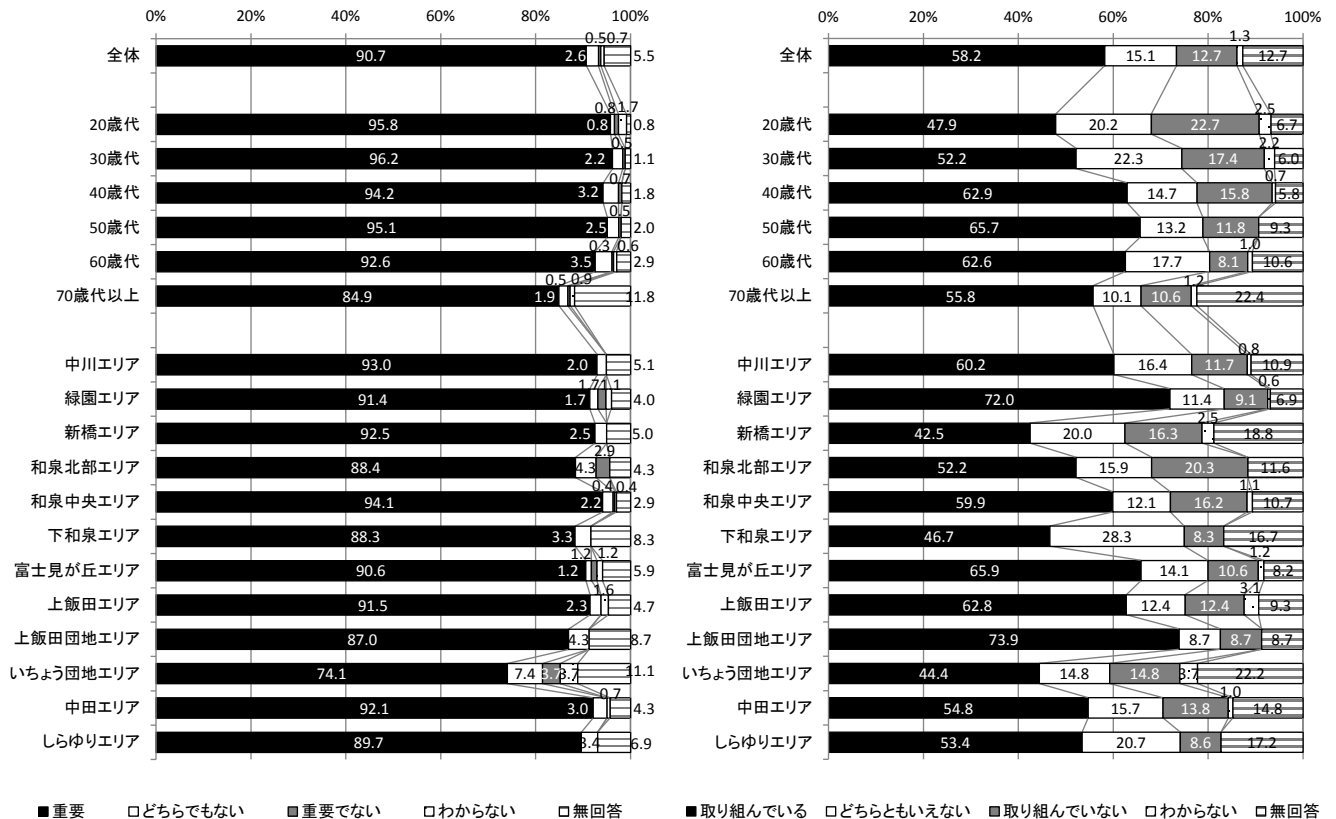
<実践度>

- ・いづれの年代でも「取り組んでいる」が4割台～6割台で最も多くなっている。20歳代では実践度が低くなっている。
- ・いづれの地区でも「取り組んでいる」が最も多く、緑園、上飯田団地で7割を超えている。一方、新橋、いちょう団地では実践度が低く、下和泉で「どちらともいえない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

防災－1 いざという時の避難場所を把握すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計
「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計
<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防災-2 家具の転倒防止措置を講じること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、20歳代、30歳代の若い世代で9割を超えている。
- ・いずれの地区でも「重要」が7割台～8割台を占める。

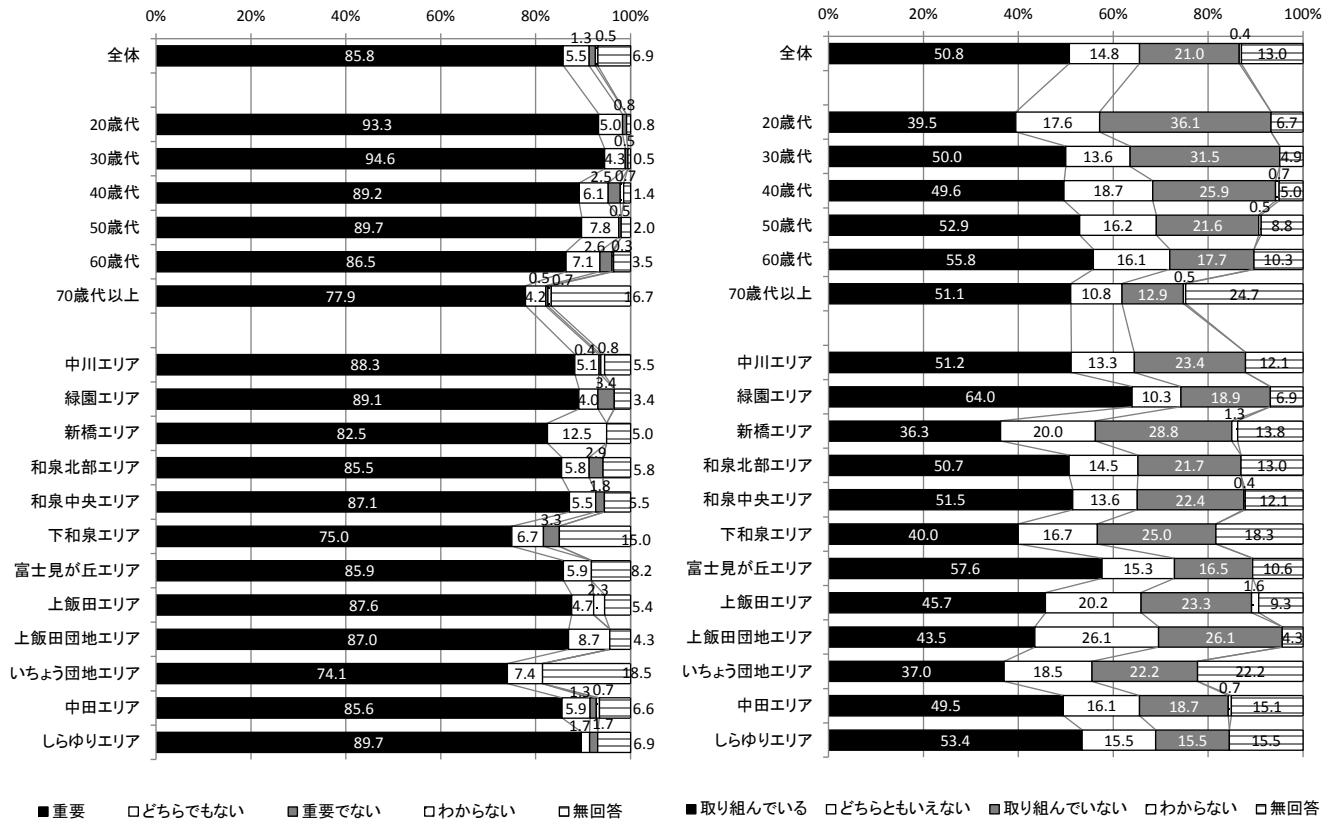
<実践度>

- ・いずれの年代でも「取り組んでいる」が4割弱～5割台で最も多くなっている。20歳代では実践度が低く、20歳代、30歳代では「取り組んでいない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が最も多く、最も実践度が高いのは緑園である。新橋、いちょう団地で実践度が低く、上飯田団地で「どちらともいえない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

防災-2 家具の転倒防止措置を講じること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防災-3 避難袋セットを用意すること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、20歳代、30歳代の若い世代で9割を超えている。
- ・いずれの地区でも「重要」が6割台～8割台を占めるが、下和泉、いちょう団地で数値が低い。

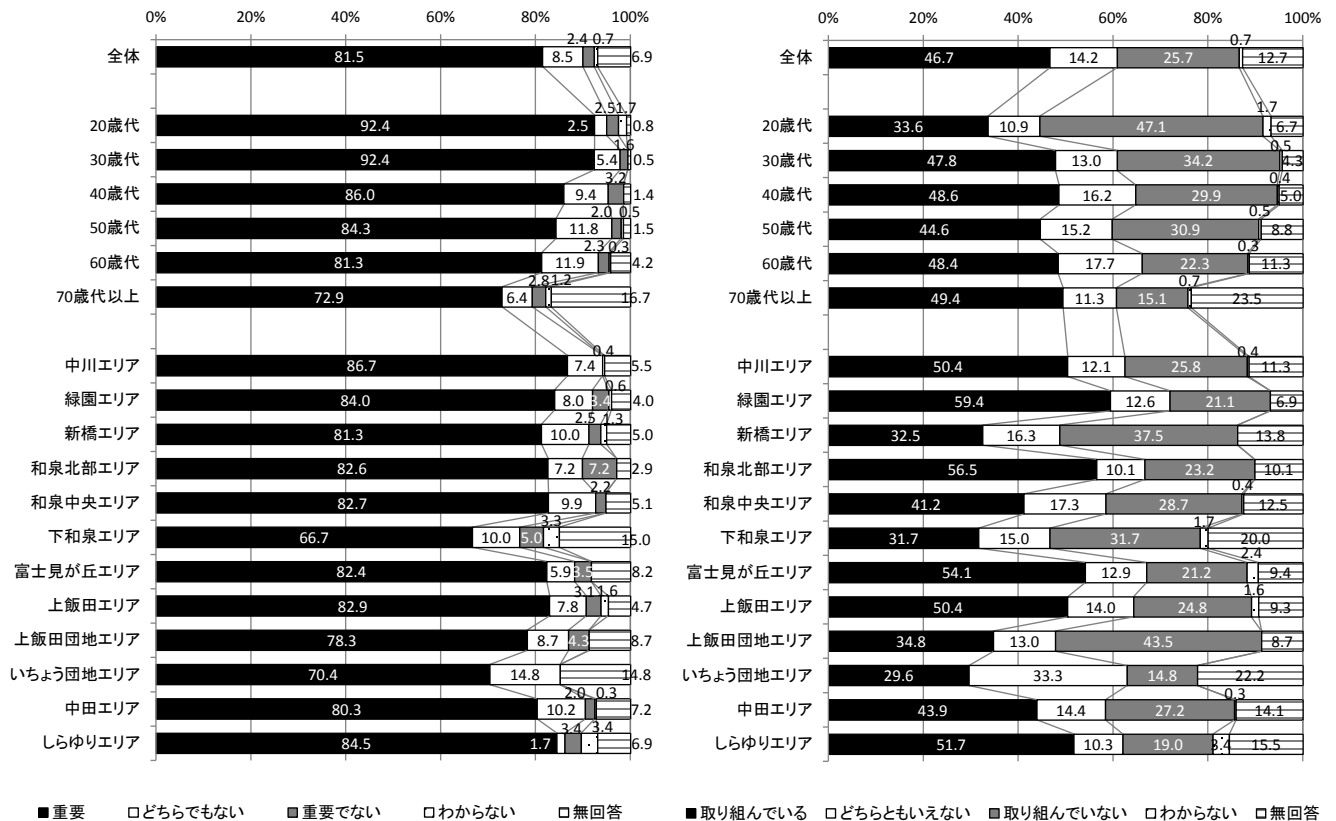
<実践度>

- ・20歳代では「取り組んでいない」、30歳代以上の世代では「取り組んでいる」が最も多くなっており、30歳代を境に傾向が分かれた。
- ・新橋、上飯田団地で「取り組んでいない」、いちょう団地で「どちらともいえない」、下和泉で「取り組んでいる」「取り組んでいない」が同率、それ以外の地区では「取り組んでいる」が最も多くなっている。

防災-3 避難袋セットを用意すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防災-4 地域の防災訓練に参加すること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、6割台～7割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、6割台～7割台となっており、顕著な地域差は見られない。

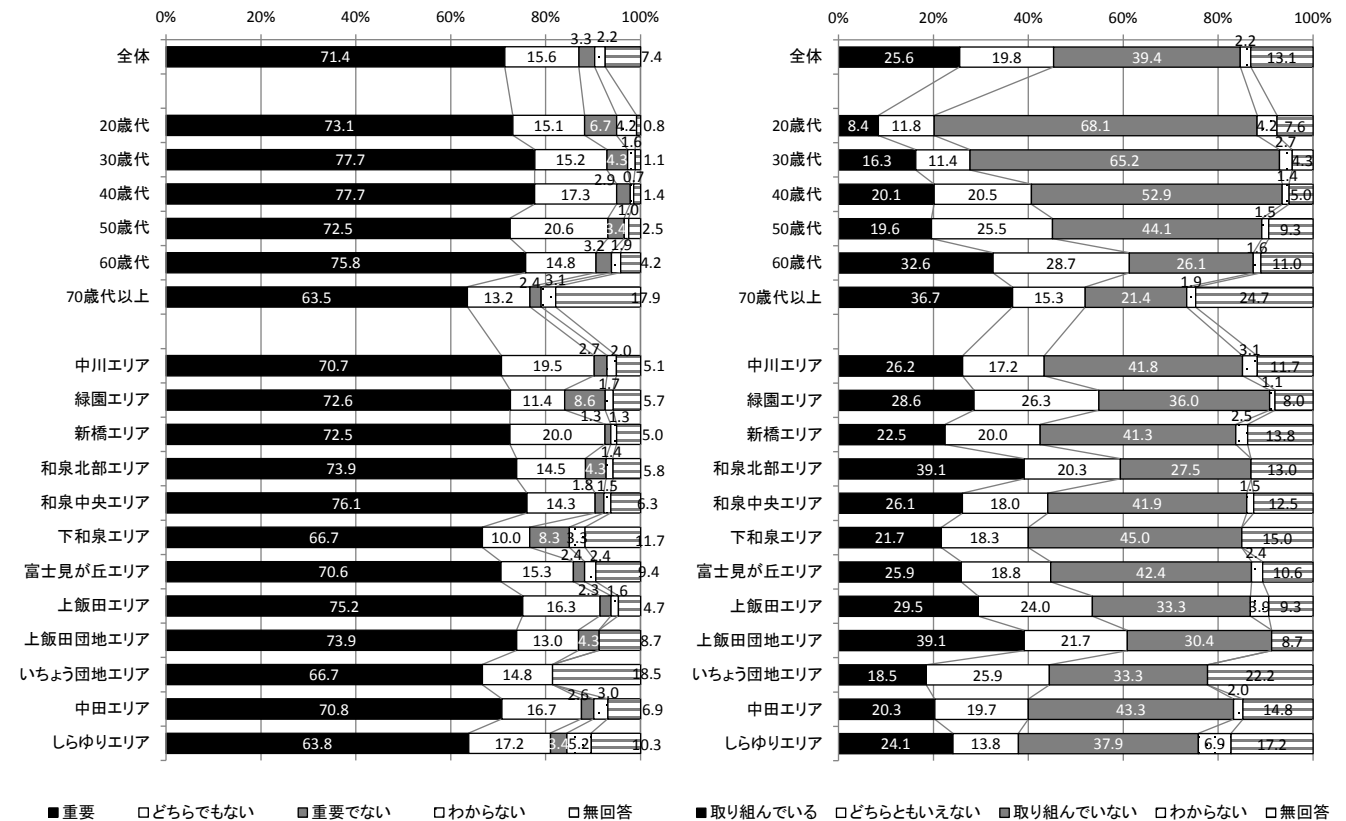
<実践度>

- ・20歳代から50歳代までの世代では「取り組んでいない」、60歳代以上の世代では「取り組んでいる」が最も多くなっており、60歳代を境に傾向が分かれた。
- ・和泉北部と上飯田団地で「取り組んでいる」、それ以外の地区では「取り組んでいない」が最も多くなっている。

防災-4 地域の防災訓練に参加すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防災-5 近所で災害時の要援護者を把握すること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、30歳代で8割を超えている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、6割弱～7割台となっている。また、しらゆりでは「わからない」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。

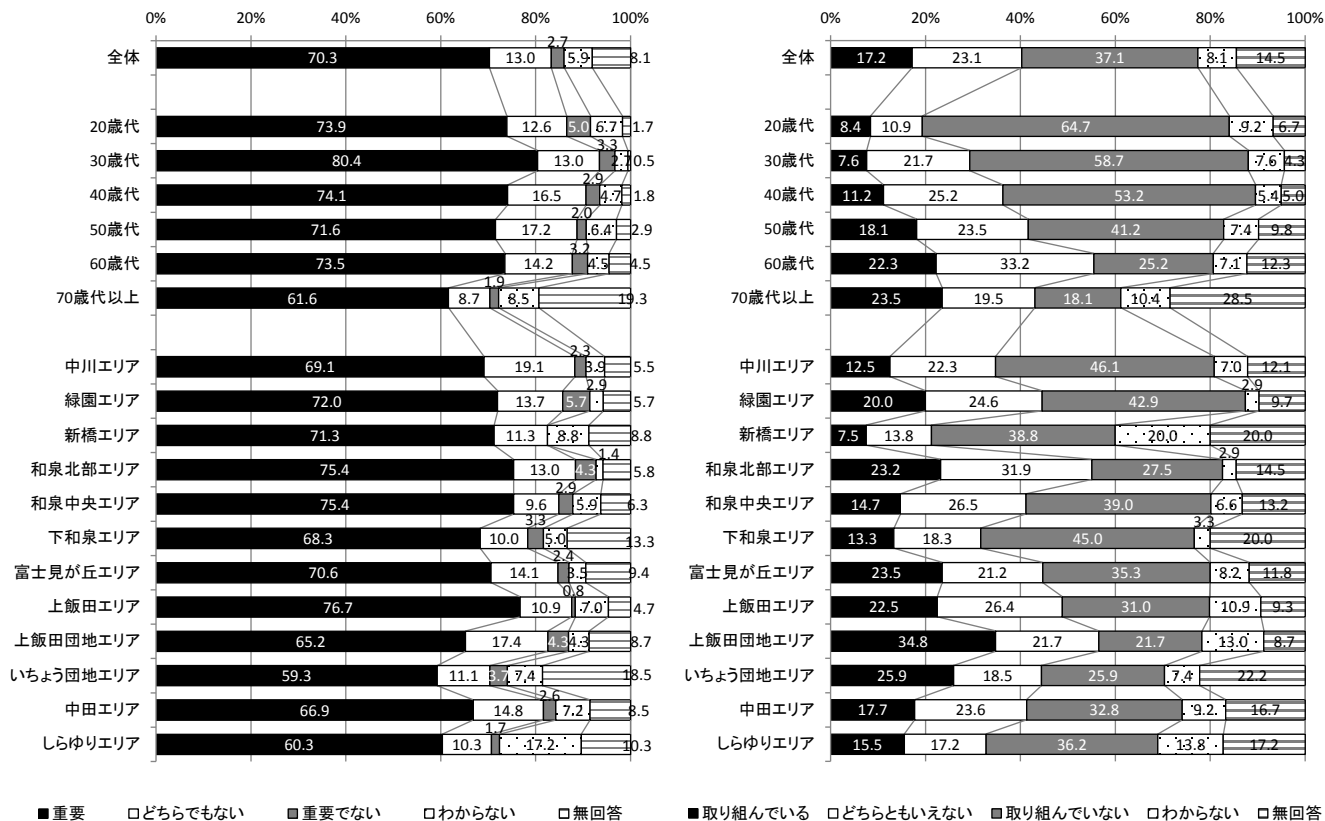
<実践度>

- ・20歳代から50歳代までの世代では「取り組んでいない」、60歳代では「どちらともいえない」、70歳代以上の世代では「取り組んでいる」が最も多くなっており、年齢層が高いほど実践度も高くなっている。
- ・上飯田団地で「取り組んでいる」、「取り組んでいない」が同率、それ以外の地区では「取り組んでいない」が最も多くなっている。新橋では実践度が低く、「わからない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

防災-5 近所で災害時の要援護者を把握すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

防災－6 災害時に家族が帰宅できないときの対応を確認すること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、70歳代以上で7割強なのを除き9割を超えている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、特に緑園では9割強、和泉北部では約9割となっている。

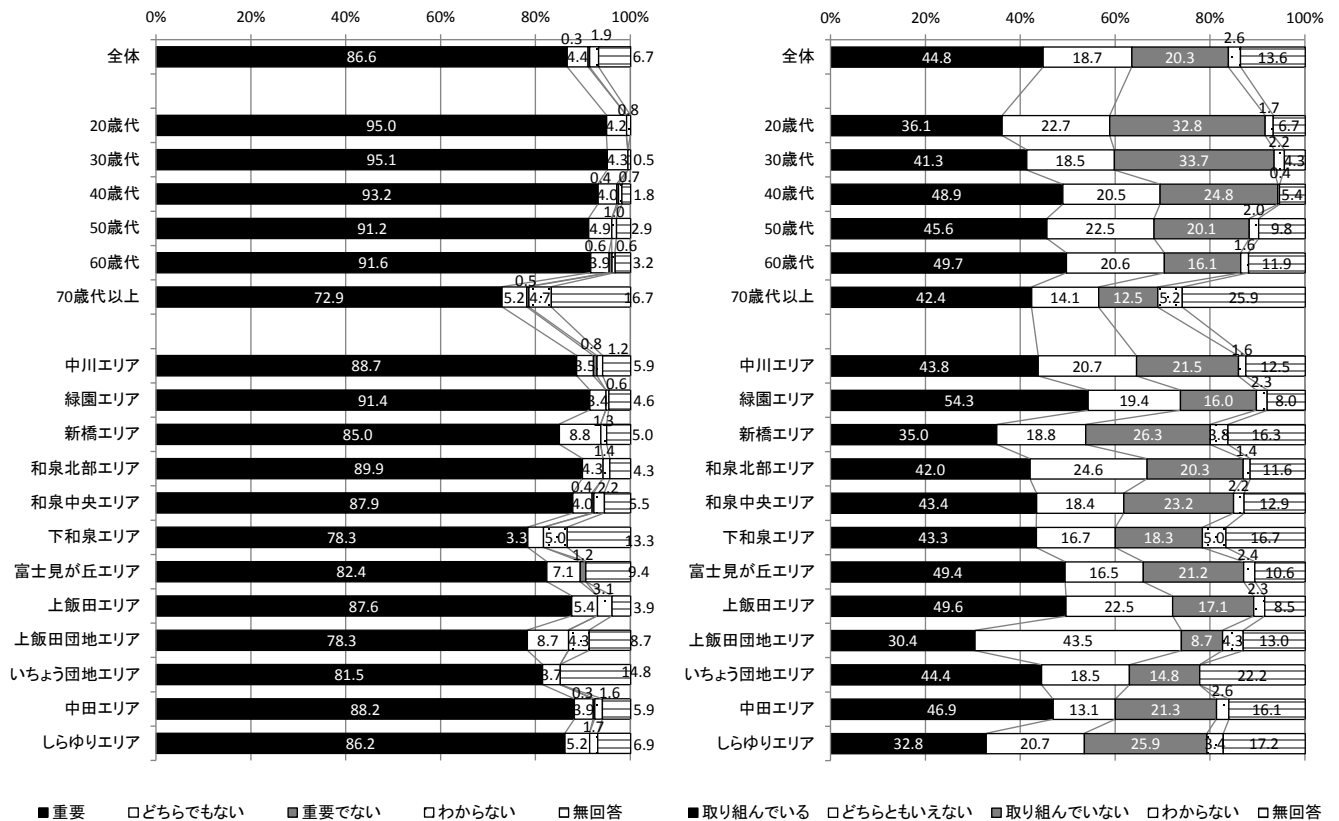
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が3割台～4割台で最も多くなっている。また、20歳代、30歳代では「取り組んでいない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。
- ・上飯田団地で「わからない」、それ以外の地区では「取り組んでいる」が最も多くなっている。実践度が最も高いのは緑園である。

防災－6 災害時に家族が帰宅できないときの対応を確認すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計
「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計
<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

ごみ・資源物-1 ごみを決められた日に出すこと

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が圧倒的に多く、9割弱～9割台後半の高い水準となっている。最も数値が高いのは20歳代である。
- ・いずれの地区でも「重要」が8割台～9割台を占め、顕著な地域差は見られない。

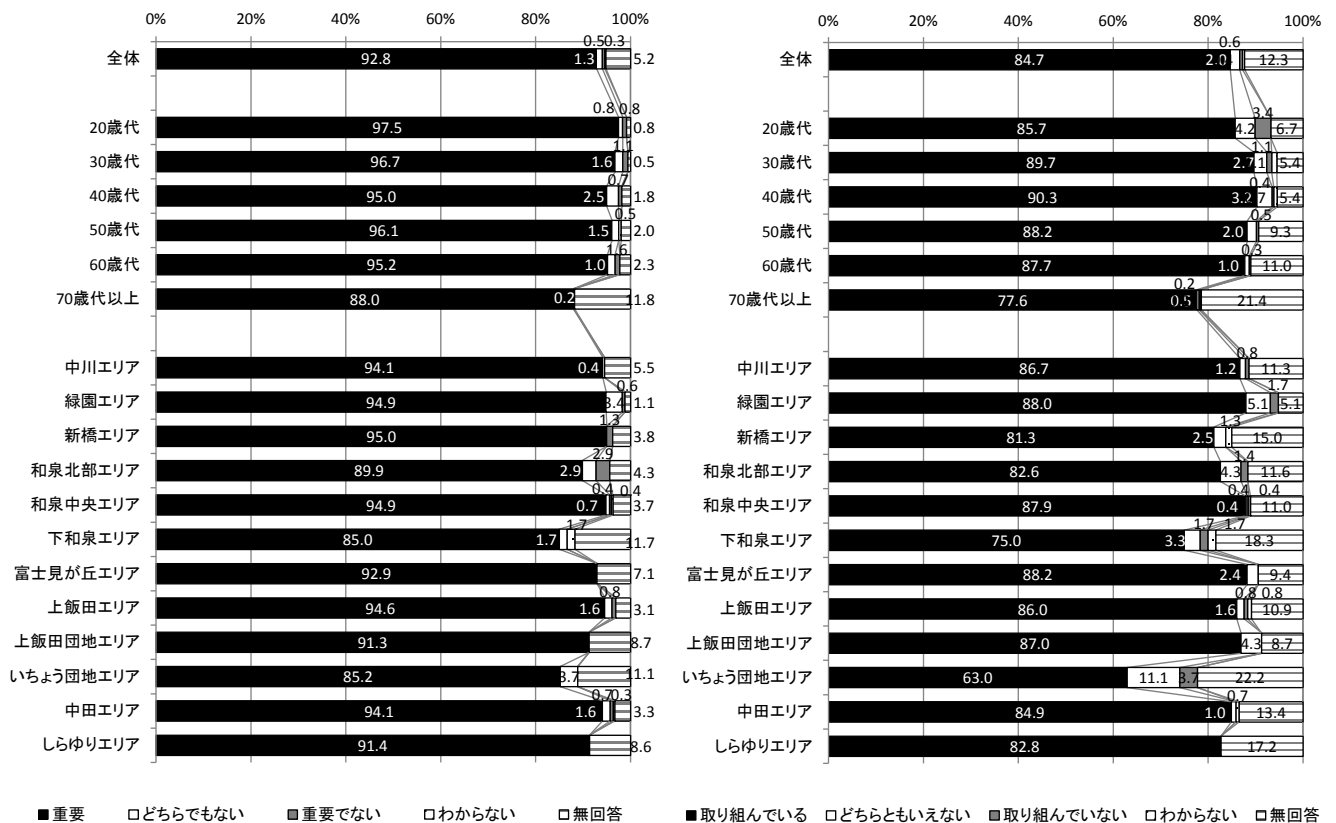
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が8割弱～9割台で最も多くなっている。最も実践度が高いのは40歳代で9割に達している。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が6割台～8割台で最も多くなっている。いちよう団地で実践度が低くなっている。

ごみ・資源物-1 ごみを決められた日に出すこと

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

ごみ・資源物-2 ごみと資源物の分別をきちんとすること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が圧倒的に多く、9割弱～9割後半の高い水準となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が8割台～9割台を占める。いちょう団地では8割前半で他と比べて数値が低い。

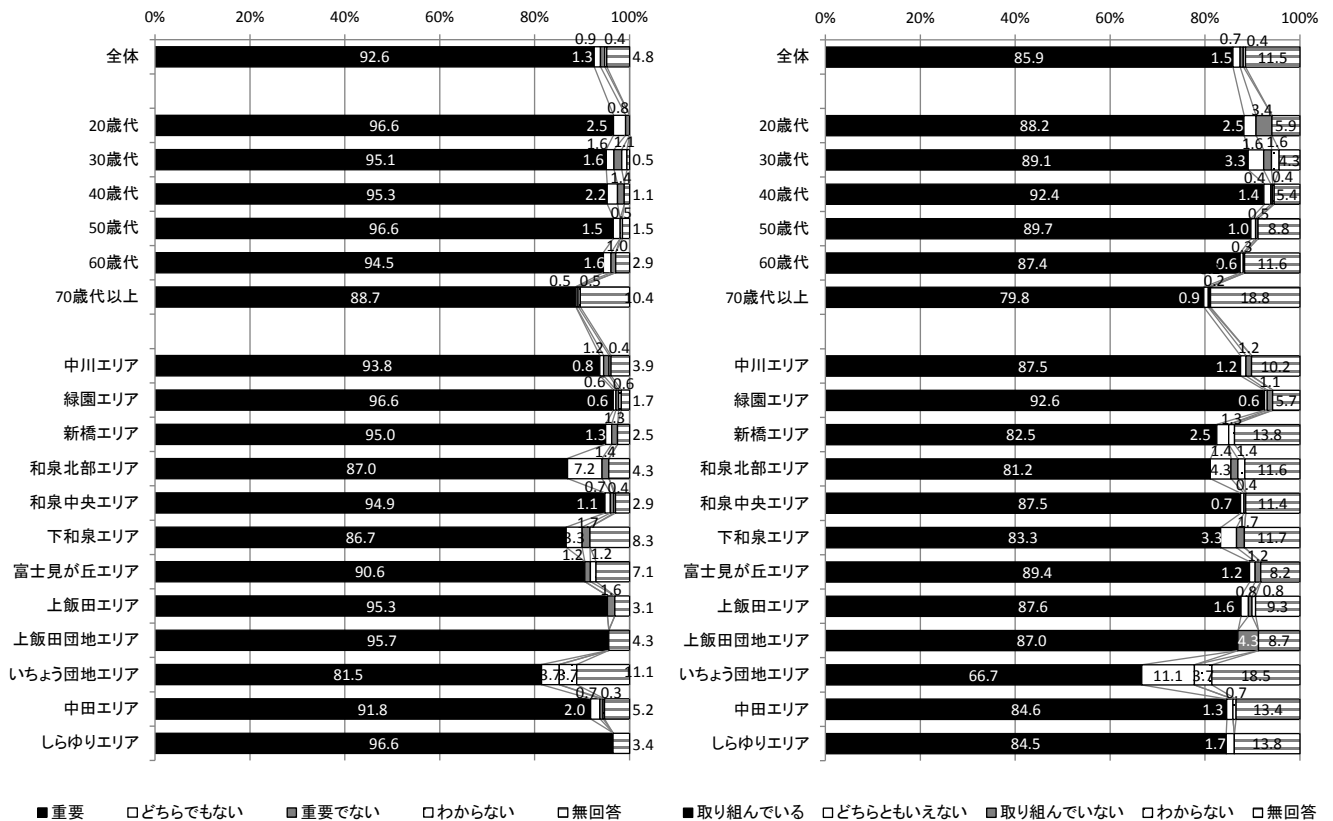
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が8割弱～9割台で最も多くなっている。最も実践度が高いのは40歳代で9割を超えている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が6割台～8割台で最も多くなっている。最も実践度が高いのは緑園で、9割を超えている。いちょう団地では実践度が低くなっている。

ごみ・資源物-2 ごみと資源物の分別をきちんとすること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

ごみ・資源物-3 ごみを減らすためにマイバッグやマイボトルを持つこと

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、7割台～8割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、7割台～8割台となっている。下和泉、いちょう団地では約7割で他に比べて数値が低い。

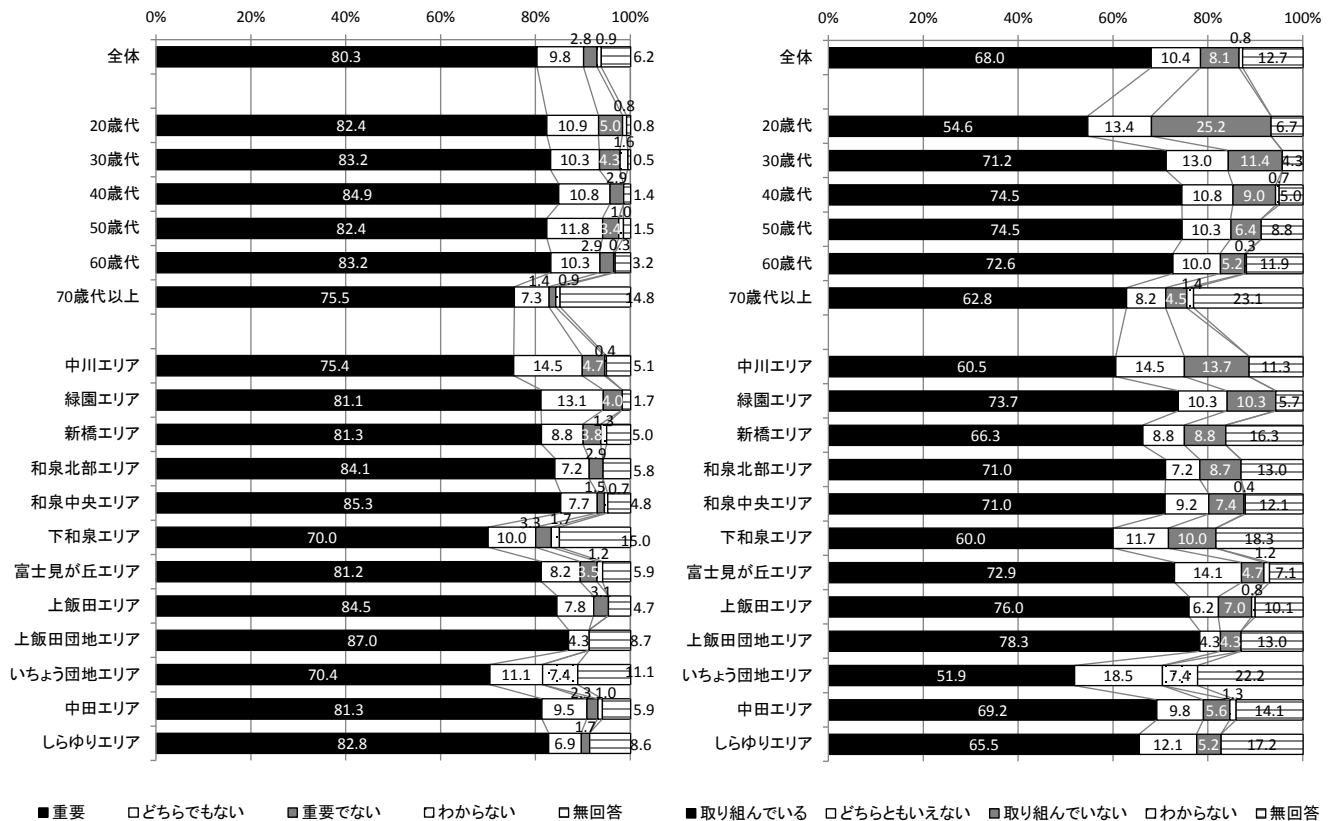
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が最も多いが、20歳代では実践度が低く、「取り組んでいない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が5割台～7割台で最も多くなっている。いちょう団地では実践度が低くなっている。

ごみ・資源物-3 ごみを減らすためにマイバッグやマイボトルを持つこと

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

ごみ・資源物-4 ごみを減らすために生ごみの水切りをすること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、7割台～8割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、7割台～8割台となっている。

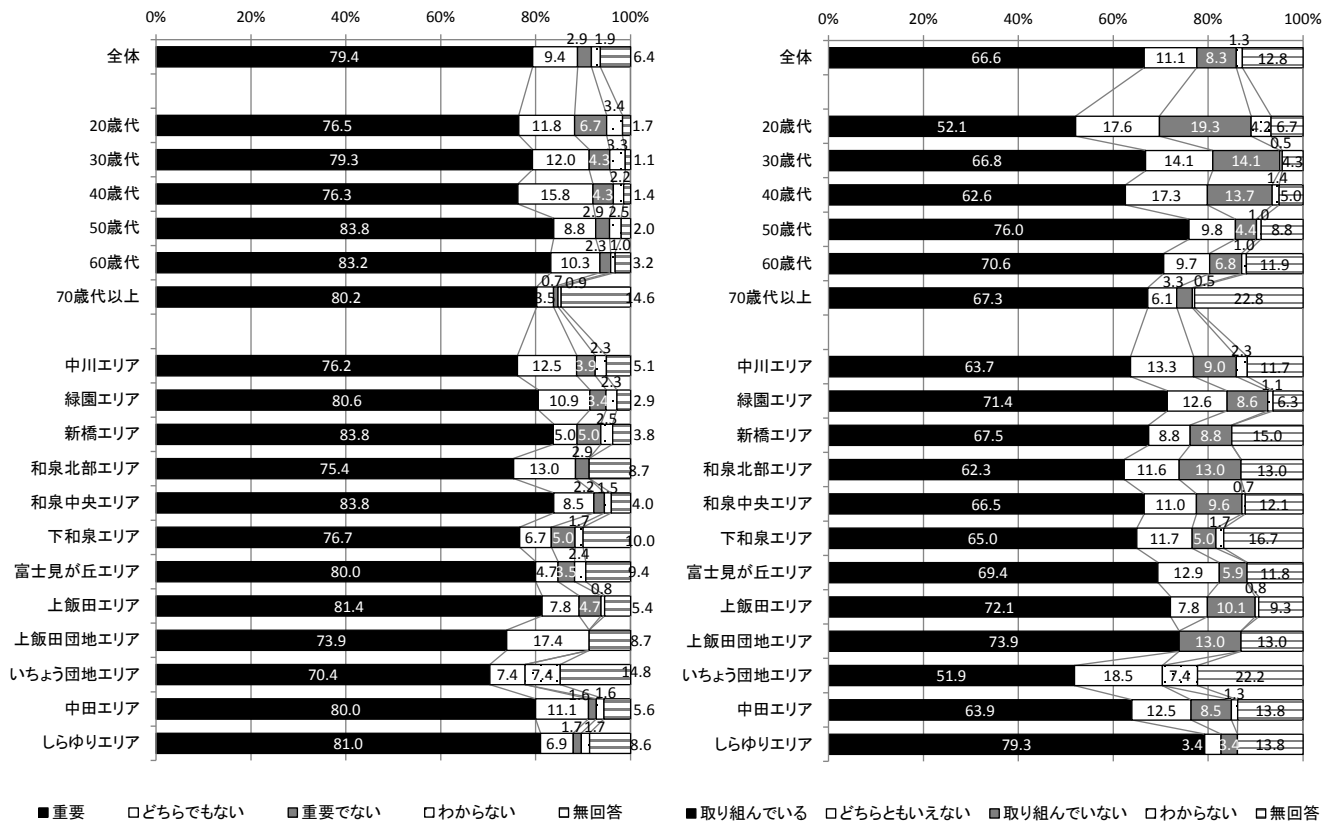
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が最も多いが、20歳代では実践度が低く、「取り組んでいない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。最も実践度が高いのは50歳代である。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が5割台～7割台で最も多く、実践度が高いのはしらゆりで8割弱に達している。いちよう団地では実践度が低くなっている。

ごみ・資源物-4 ごみを減らすために生ごみの水切りをすること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

ごみ・資源物-5 ごみを減らすために生ごみを堆肥化すること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く5割台～6割台で、20歳代で6割を超えている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、4割台～6割台となっている。上飯田団地では「どちらでもない」が全体値に比べて高くなっている。

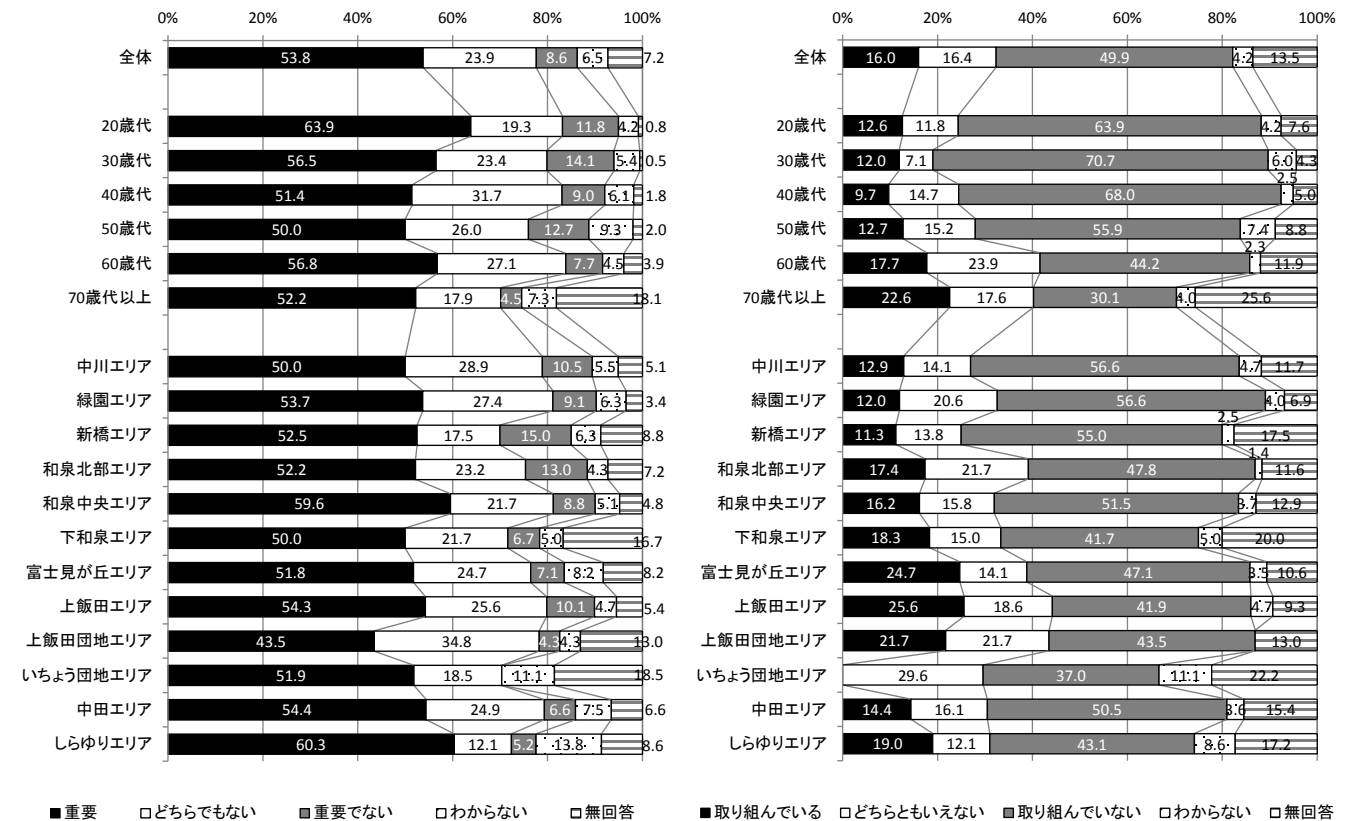
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいない」が最も多くなっている。高齢者層で実践度が高い傾向にある。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいない」が4割弱～5割台で最も多い。いちょう団地では「取り組んでいる」との回答はなく、「どちらともいえない」が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

ごみ・資源物-5 ごみを減らすために生ごみを堆肥化すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

健康づくり-1 野菜を多く食べること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が8割以上を占めており、20歳代から50歳代までの世代では9割を超える。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、7割台～9割台となっている。緑園、富士見が丘で9割を超えている。

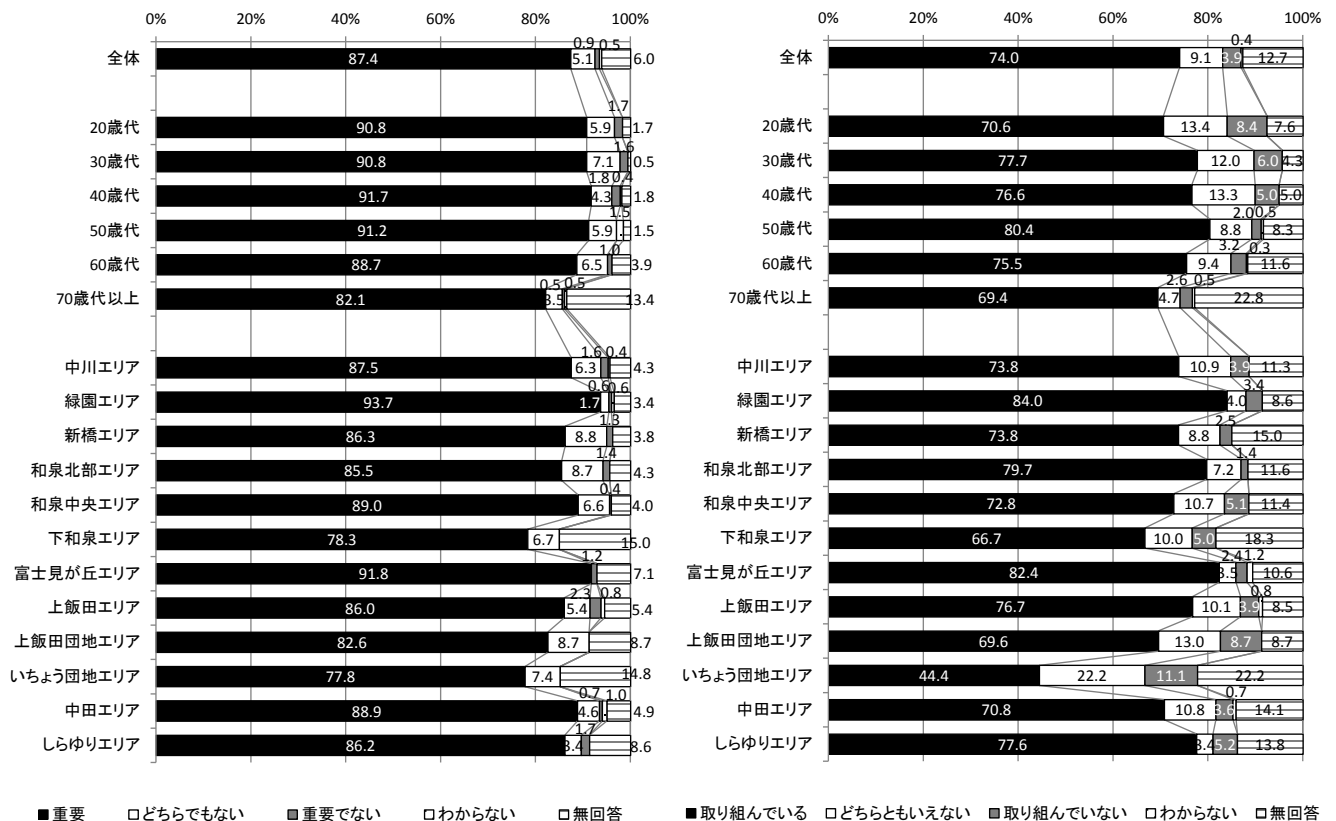
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が7割弱～8割台で最も多く、50歳代で8割に達している。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が最も多い。緑園、富士見が丘で8割を超えている一方、いちよう団地では実践度が低く、「どちらともいえない」が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

健康づくり-1 野菜を多く食べること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

健康づくりー2 塩分を控えた食事をとること

<重要度>

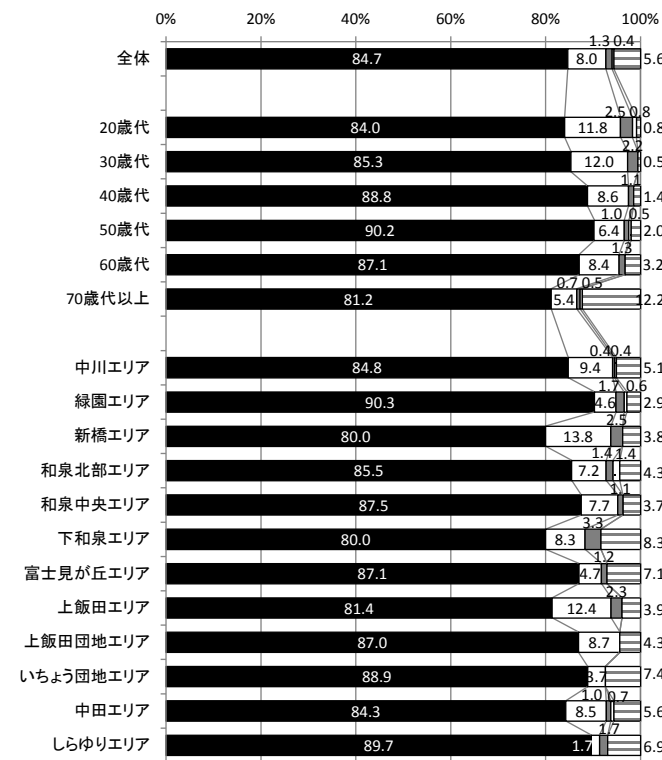
- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、8割以上を占めている。50歳代で9割に達している。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く8割台～9割台で、緑園で9割に達しているが、顕著な地域差は見られない。

<実践度>

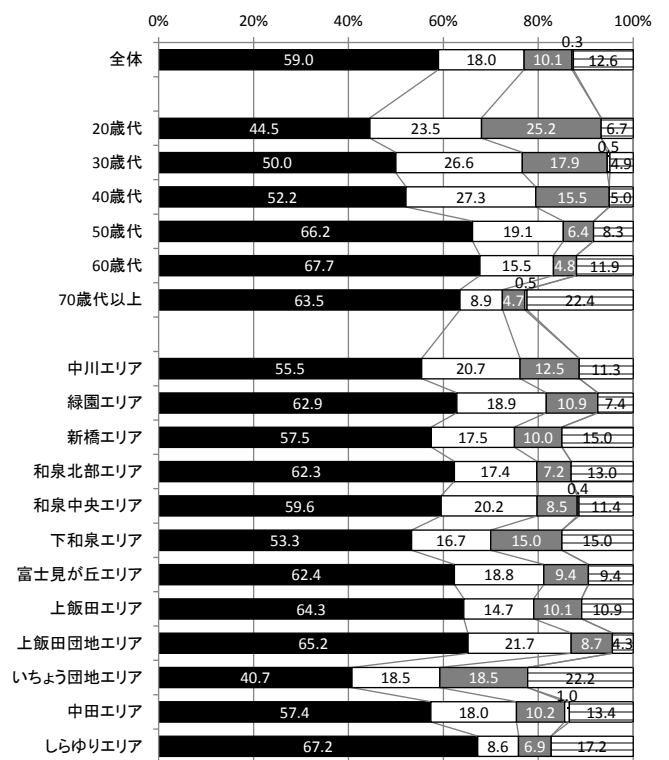
- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が4割台～6割台で最も多いが、20歳代では実践度が低く、「取り組んでいない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が4割台～6割台で最も多い。いちょう団地では実践度が低くなっている。

健康づくりー2 塩分を控えた食事をとること

<重要度>



<実践度>



■重要 □どちらでもない ■重要でない □わからない □無回答 ■取り組んでいる □どちらともいえない ■取り組んでいない □わからない □無回答

※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

健康づくりー3 定期的に歯のチェックをすること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多くなっている。最も低いのは70歳代以上の7割台、高いのは30歳代で9割に達している。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多くなっているが数値に差があり、緑園では9割近い一方、上飯田団地では約6割と低く、「どちらでもない」が全体値に比べて高くなっている。

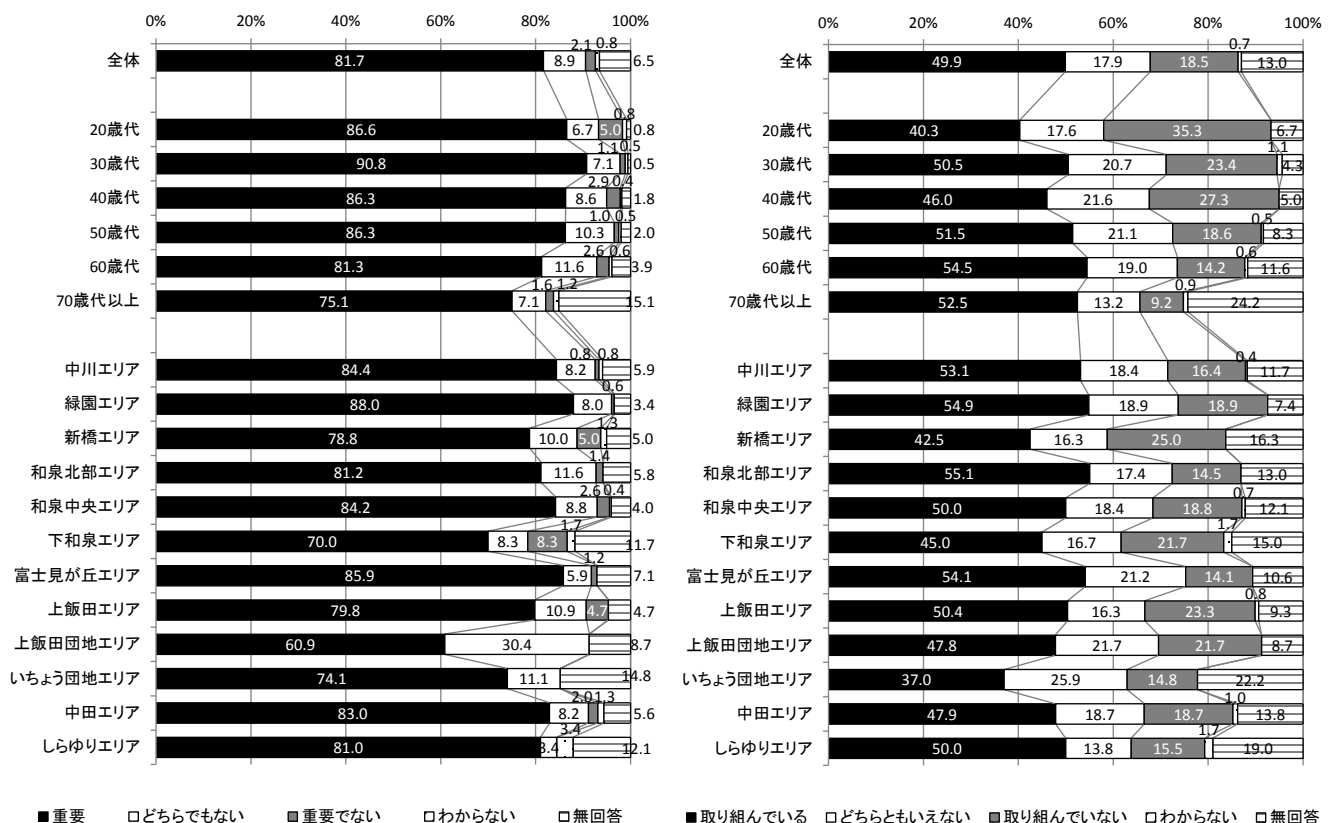
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が4割台～5割台で最も多い。また、「取り組んでいない」は若い世代で数値が高い傾向にあり、20歳代では「取り組んでいない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が3割台～5割台で最も多い。いちよう団地では実践度が低くなっている。

健康づくりー3 定期的に歯のチェックをすること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

健康づくり-4 受動喫煙の機会を減らすこと

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多くなっている。最も低いのは70歳代以上の7割台、高いのは30歳代で9割に達している。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多くなっている。和泉北部で9割近い一方で、下和泉、上飯田団地では6割台となっている。また、上飯田団地では「どちらでもない」が全体値に比べて高くなっている。

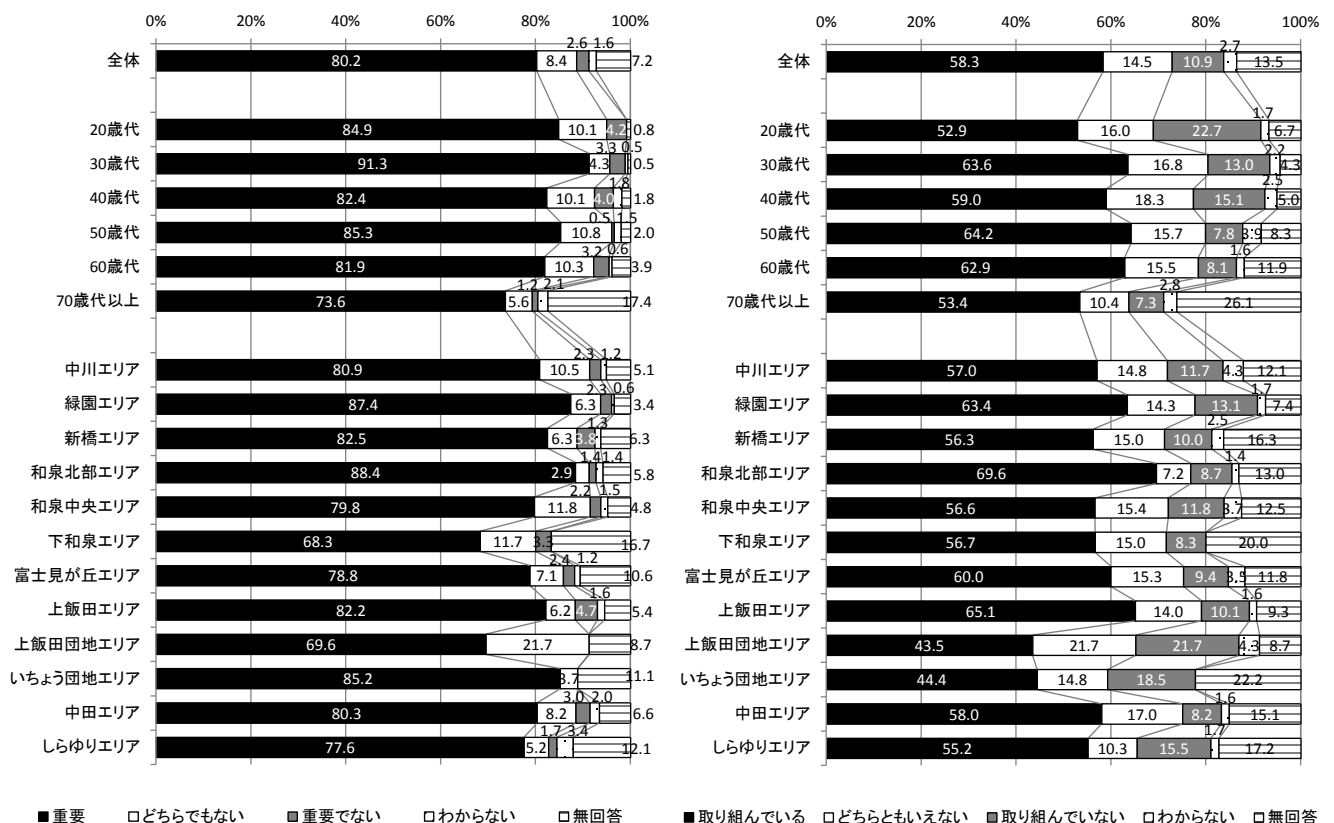
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が5割台～6割台で最も多い。また、「取り組んでいない」は若い世代で数値が高い傾向にあり、20歳代では「取り組んでいない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が4割台～6割台で最も多く、和泉北部では7割近くに達している。いちょう団地、上飯田団地では実践度が低く、特に上飯田団地では「取り組んでいない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

健康づくり-4 受動喫煙の機会を減らすこと

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

健康づくり-5 定期的に運動すること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多くなっている。最も低いのは70歳代以上の7割台、高いのは30歳代で9割を超えている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、和泉北部で9割を超えている。上飯田団地では「どちらでもない」が全体値に比べて高くなっている。

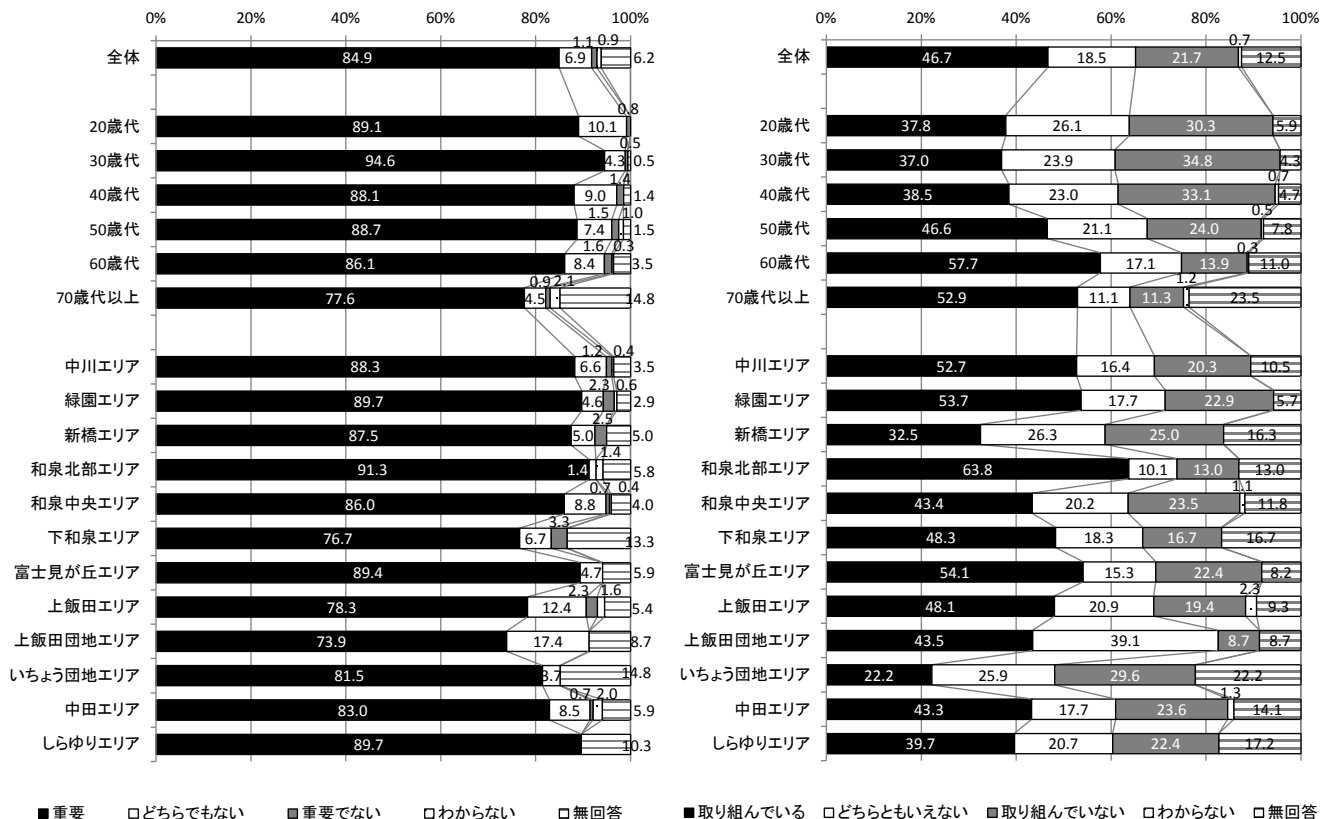
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が3割台～5割台で最も多く、実践度が最も高いのは60歳代である。また、30歳代、40歳代で「取り組んでいない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。
- ・いちょう団地で「取り組んでいない」、それ以外はいずれの地区でも「取り組んでいる」が最も多くなっている。上飯田団地では「どちらともいえない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

健康づくり-5 定期的に運動すること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」 = 「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」 = 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」 = 「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」 = 「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

健康づくり－6 定期的にがん検診を受けること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く、7割台～8割台となっている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、7割弱～8割台となっている。上飯田団地では「どちらでもない」が全体値に比べて高くなっている。

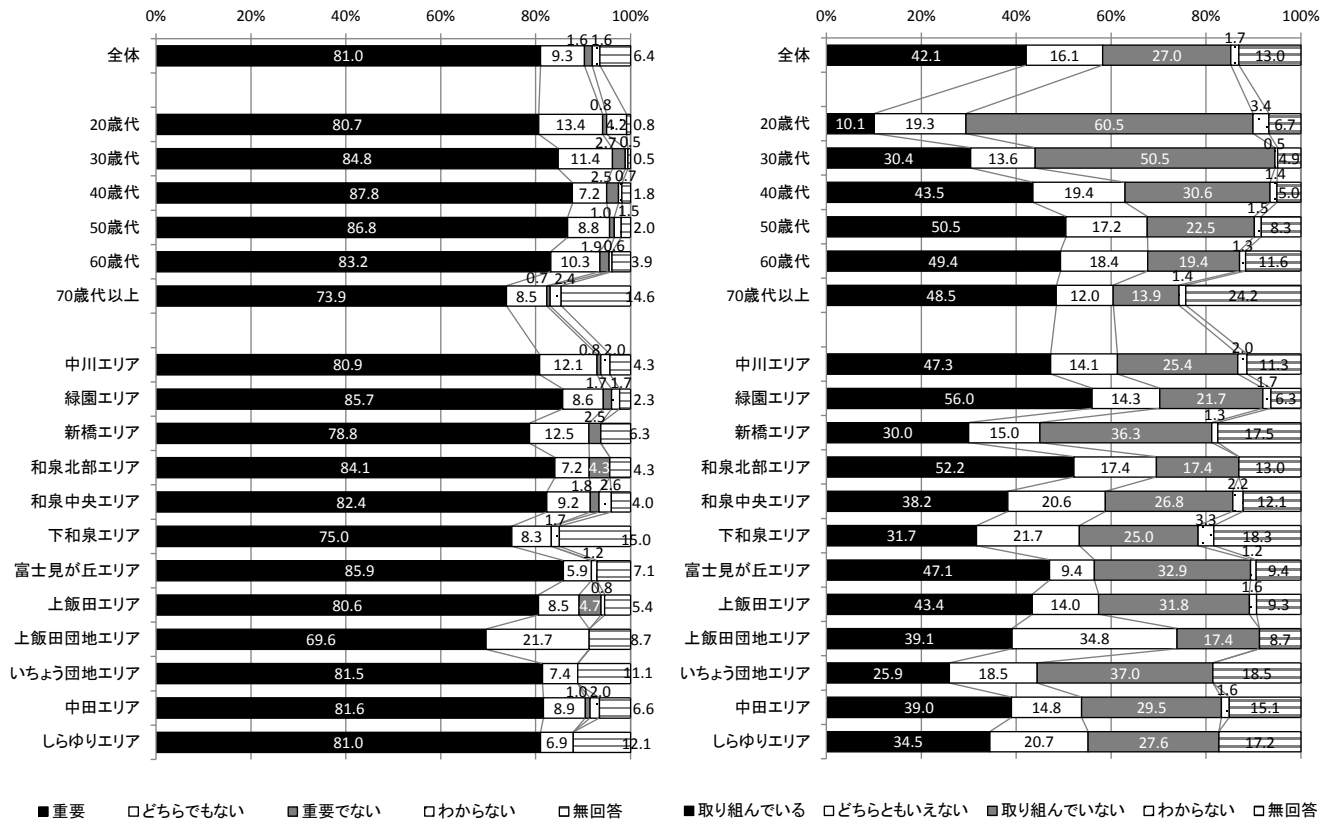
<実践度>

- ・20歳代、30歳代では「取り組んでいない」、40歳代以上の世代では「取り組んでいる」が最も多く、40歳代を境に傾向が分かれた。
- ・新橋、いちょう団地で「取り組んでいない」、それ以外はいずれの地区でも「取り組んでいる」が最も多く、最も実践度が高いのは緑園である。上飯田団地では「どちらともいえない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

健康づくり－6 定期的にがん検診を受けること

<重要度>

<実践度>



※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計

「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計

「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

健康づくり7 1年に1回健診を受けること

<重要度>

- ・いずれの年齢でも「重要」が最も多く8割弱～9割強となっており、30歳代では9割を超えている。
- ・いずれの地区でも「重要」が最も多く、7割弱～9割台を占め、富士見が丘で9割を超えている。上飯田団地は数値が低く、「どちらでもない」が全体値に比べて高くなっている。

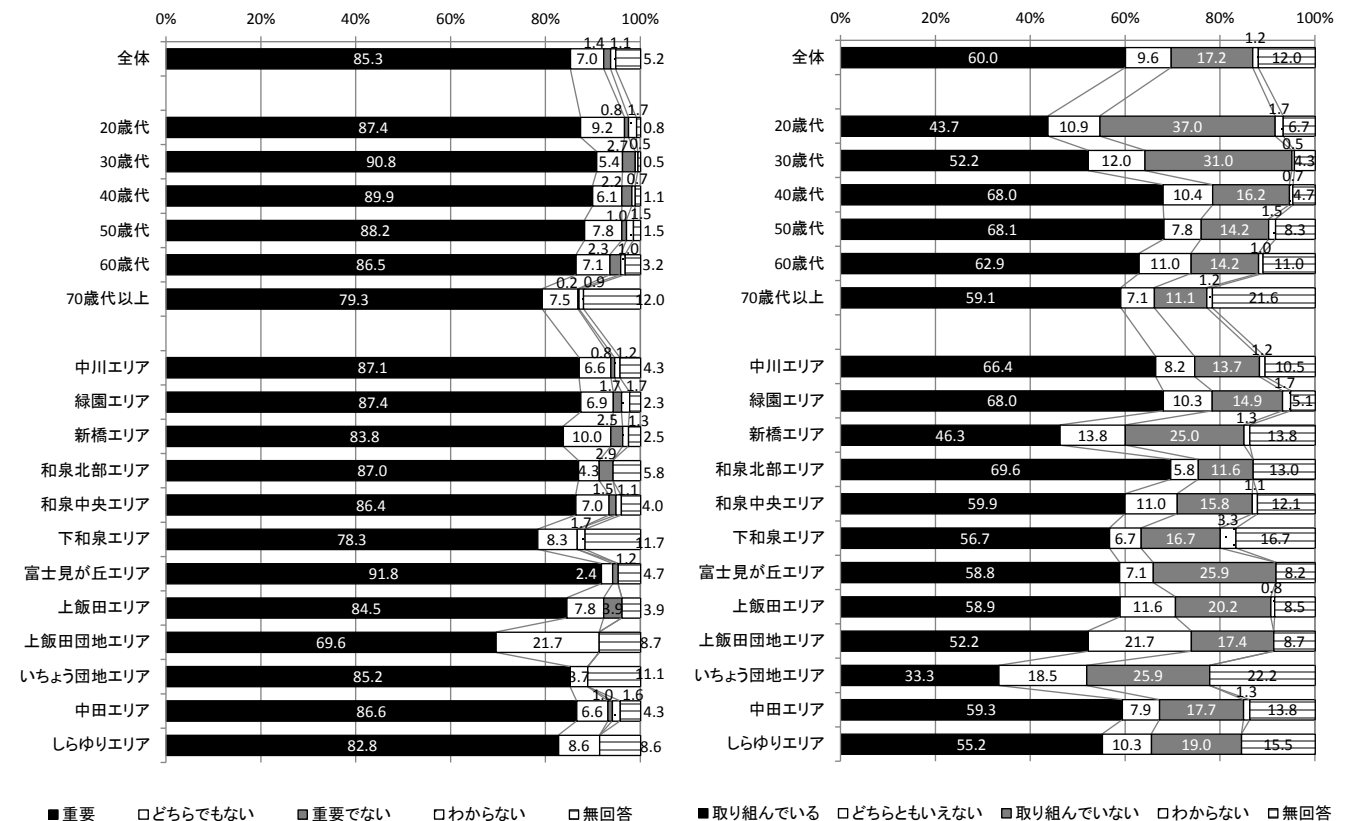
<実践度>

- ・いずれの世代でも「取り組んでいる」が最も多く、4割台～6割台となっている。20歳代、30歳代では「取り組んでいない」が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。
- ・いずれの地区でも「取り組んでいる」が3割台～6割台で最も多く、和泉北部で実践度が高く7割近くに達している。いちょう団地では実践度が低い。上飯田団地では「どちらともいえない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

健康づくり7 1年に1回健診を受けること

<重要度>

<実践度>

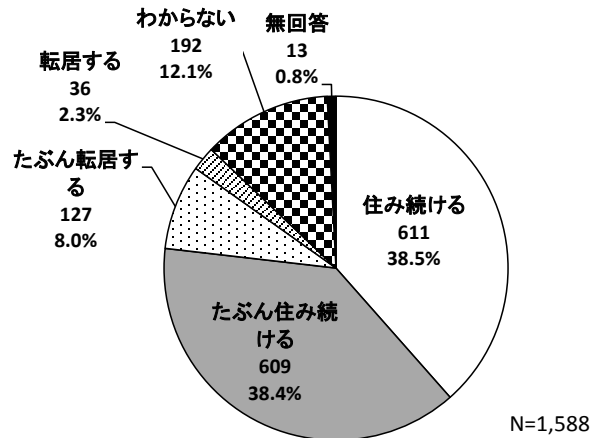


※<重要度> 「重要」＝「重要」「やや重要」の合計
 「重要でない」＝「あまり重要でない」「重要でない」の合計
 <実践度> 「取り組んでいる」＝「積極的に取り組んでいる」「比較的取り組んでいる」の合計
 「取り組んでいない」＝「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」の合計

2. 定住意向について

問4 あなたは、これからもずっと泉区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- ・「住み続ける」(38.5%)「たぶん住み続ける」(38.4%)がほぼ同率となっており、これらを合わせると76.9%と、全体の4分の3以上の人に定住意向がある。「たぶん転居する」(8.0%)と「転居する」(2.3%)は合わせて約1割となっている。



■ 性別・年齢別 定住意向 (問4×F1, 2)

- ・男性は「住み続ける」、女性は「たぶん住み続ける」が最も多くなっている。
- ・年齢別で見ると、20歳代から50歳代までの世代では「たぶん住み続ける」、60歳代以上の世代では「住み続ける」が最も多くなっている。また20歳代では「たぶん転居する」「わからない」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。

		合計	問4 定住意向					
			住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん転居する	転居する	わからない	無回答
全体		1588	38.5	38.4	8.0	2.3	12.1	0.8
F 1 性別	男性	691	39.1	37.0	7.5	3.0	13.0	0.3
	女性	847	37.9	40.5	8.1	1.8	11.5	0.2
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	10.9	30.3	23.5	10.9	24.4	0.0
	30歳代	184	25.5	37.0	15.8	1.6	20.1	0.0
	40歳代	278	30.6	48.2	7.6	1.8	11.5	0.4
	50歳代	204	33.3	39.7	5.9	3.4	17.6	0.0
	60歳代	310	44.8	41.3	3.5	1.0	9.0	0.3
	70歳代以上	425	56.0	33.9	3.5	0.9	5.4	0.2

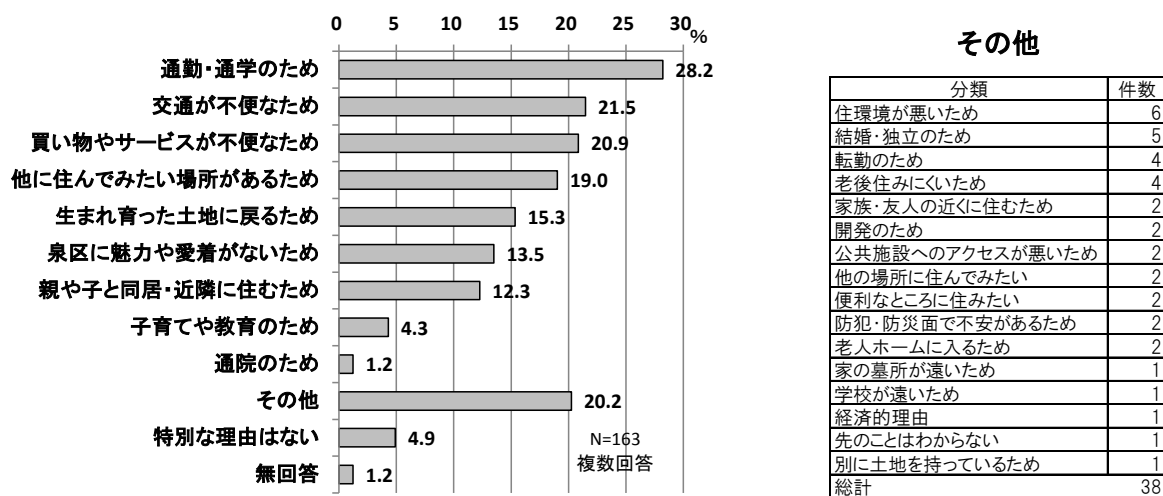
■ 居住地区別 定住意向（問4×F3）

- ・和泉北部、和泉中央、下和泉、いちょう団地、中田では「住み続ける」、中川、緑園、新橋、富士見が丘、上飯田、上飯田団地、しらゆりでは「たぶん住み続ける」が最も多くなっている。また、いちょう団地では「わからない」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。

		合計	問4 定住意向					
			住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん転居する	転居する	わからない	無回答
	全体	1588	38.5	38.4	8.0	2.3	12.1	0.8
F3 連合	中川エリア	256	32.0	43.0	8.2	2.0	14.8	0.0
	緑園エリア	175	36.6	38.3	9.1	2.9	12.6	0.6
	新橋エリア	80	35.0	50.0	5.0	1.3	8.8	0.0
	和泉北部エリア	69	53.6	34.8	2.9	1.4	7.2	0.0
	和泉中央エリア	272	44.5	35.7	5.9	3.3	10.7	0.0
	下和泉エリア	60	48.3	35.0	8.3	1.7	6.7	0.0
	富士見が丘エリア	85	38.8	40.0	4.7	1.2	15.3	0.0
	上飯田エリア	129	38.0	39.5	8.5	0.8	11.6	1.6
	上飯田団地エリア	23	26.1	52.2	8.7	0.0	13.0	0.0
	いちょう団地エリア	27	37.0	25.9	11.1	0.0	25.9	0.0
	中田エリア	305	38.4	36.1	10.5	3.3	11.1	0.7
	しらゆりエリア	58	37.9	44.8	5.2	0.0	12.1	0.0

問4-1 (問4で「3 たぶん転居する」「4 転居する」と回答された方)その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「通勤・通学のため」が最も多く 28.2%で、3割弱の人が挙げている。次いで「交通が不便なため」(21.5%)、「買い物やサービスが不便なため」(20.9%)を2割強の人が挙げており、利便性の低さが指摘されている。以下「他に住んでみたい場所があるため」(19.0%)、「生まれ育った土地に戻るため」(15.3%)、「泉区に魅力や愛着がないため」(13.5%)、「親や子と同居・近隣に住むため」(12.3%)などと続く。
- ・「その他」(20.2%)のうち 37 件に具体的な記述があり、「住環境が悪いため」(6件)、「結婚・独立のため」(5件)、「転勤のため」(4件)、「老後住みにくいため」(4件)など、計 38 件の意見が上がっている。



■ 性別・年齢別 転居理由 (問4-1 × F1, 2)

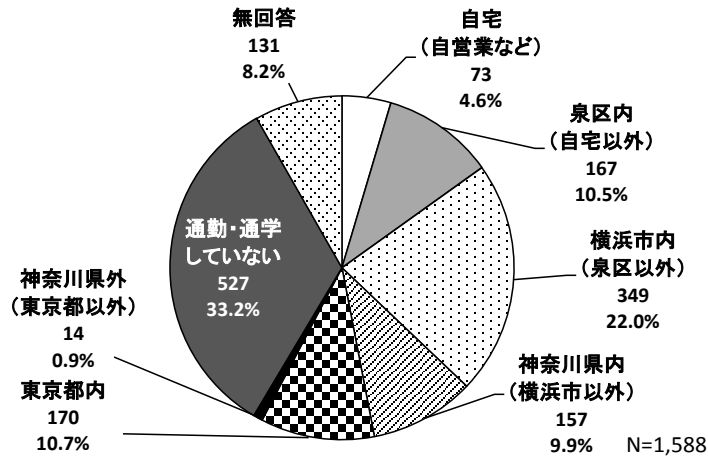
- ・男性は「通勤・通学のため」が最も多く、女性より 13 ポイント高い。女性は「交通が不便なため」が最も多くなっている。
- ・年齢別で見ると、20~30 歳代では「通勤・通学のため」、40~50 歳代では「他に住んでみたい場所があるため」、60 歳代では「生まれ育った土地に戻るため」が最も多くなっている。

		合計	問4-1 転居する・するかもしれない理由											
			通勤・通学のため	親や子と同居・近	生まれ育った土地	交通が不便なため	買い物やサービス	子育てや教育のため	通院のため	他に住んでみたい	泉区に魅力や愛着	その他	特別な理由はない	無回答
全体		163	28.2	12.3	15.3	21.5	20.9	4.3	1.2	19.0	13.5	20.2	4.9	1.2
F 1 性別	男性	73	35.6	11.0	19.2	16.4	21.9	5.5	1.4	21.9	17.8	16.4	4.1	1.4
	女性	84	22.6	13.1	13.1	25.0	19.0	2.4	1.2	16.7	10.7	23.8	4.8	1.2
F 2 年齢(年代別)	20歳代	41	51.2	4.9	9.8	17.1	19.5	2.4	0.0	14.6	14.6	9.8	14.6	2.4
	30歳代	32	34.4	12.5	12.5	31.3	25.0	9.4	0.0	3.1	12.5	31.3	0.0	0.0
	40歳代	26	26.9	15.4	26.9	23.1	11.5	3.8	0.0	30.8	23.1	15.4	0.0	0.0
	50歳代	19	10.5	15.8	21.1	26.3	0.0	0.0	0.0	31.6	5.3	15.8	0.0	0.0
	60歳代	14	7.1	14.3	42.9	0.0	7.1	7.1	0.0	28.6	7.1	21.4	0.0	0.0
	70歳代以上	19	0.0	10.5	0.0	21.1	31.6	0.0	10.5	21.1	21.1	36.8	5.3	5.3

3. 日常の交通行動について

問5 あなたの通勤・通学先はどこですか。(〇は1つ)

- ・「通勤・通学していない」が最も多く 33.2%で、全体の約3割である。
- ・これを除くと、「横浜市内（泉区以外）」が最も多く 22.0%、次いで「東京都内」（10.7%）、「泉区内（自宅以外）」（10.5%）、「神奈川県内（横浜市以外）」（9.9%）がほぼ並ぶ。



■ 性別・年齢別 通勤・通学先（問5×F1, 2）

- ・男女とも「通勤・通学していない」が最も多く、女性は男性より 13.9 ポイント高い。男性は「横浜市内（泉区以外）」も同率で最も多くなっている。また、女性より「東京都内」が 11.4 ポイント高い。
- ・年齢別で見ると、20～50 歳代では「横浜市内（泉区以外）」、60 歳代以上の世代では「通勤・通学していない」が最も多くなっている。また 20 歳代で「東京都内」、50 歳代で「泉区内（自宅以外）」が全体値に比べて高い数値となっている。

		合計	問5 通勤・通学先							
			ど 宅 （ 自 営 業 な ど ）	外 泉 区 内 （ 自 宅 以 外 ）	外 泉 区 外 （ 自 宅 以 外 ）	横 濱 市 内 （ 泉 区 以 外 ）	市 神 奈 川 県 内 （ 横 濱 以 外 ）	東 京 都 内	都 神 奈 川 県 外 （ 東 京 都 以 外 ）	な い 通 勤 ・ 通 学 し て い ない
	全体	1588	4.6	10.5	22.0	9.9	10.7	0.9	33.2	8.2
F 1 性別	男性	691	3.9	6.2	26.0	13.7	17.2	1.2	26.0	5.6
	女性	847	4.7	14.0	19.0	6.8	5.8	0.7	39.9	9.0
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	2.5	5.0	41.2	10.9	32.8	0.0	7.6	0.0
	30歳代	184	0.5	8.7	35.3	15.8	14.7	1.1	23.4	0.5
	40歳代	278	3.2	14.0	33.1	16.9	13.3	2.5	15.8	1.1
	50歳代	204	5.4	21.6	23.0	13.7	13.2	1.0	20.6	1.5
	60歳代	310	6.8	9.7	15.8	8.1	7.1	0.3	45.5	6.8
	70歳代以上	425	5.9	5.2	8.5	0.9	2.1	0.2	56.9	20.2

■ 居住地区別 通勤・通学先（問5×F3）

・いずれの地区でも「通勤・通学していない」が最も多く、富士見が丘では「横浜市内（泉区以外）」も同率となっている。このほか、中川で「東京都内」、下和泉で「神奈川県内（横浜市以外）」、いちょう団地で「泉区内（自宅以外）」も全体値に比べてやや高くなっている。

	合計	問5 通勤・通学先									
		ど 自 宅 （ 自 営 業 な ど）	外 泉 区 内 （ 自 宅 以 外）	外 泉 区 内 （ 自 宅 以 外）	横 浜 市 内 （ 泉 区 以 外）	市 神 奈 川 県 内 （ 横 浜 市 以 外）	東 京 都 内	都 神 奈 川 県 外 （ 東 京 都 以 外）	不 明 な 通 勤 ・ 通 学 先	無 回 答	
全体	1588	4.6	10.5	22.0	9.9	10.7	0.9	33.2	8.2		
F3 連合											
中川エリア	256	3.1	10.9	23.0	7.8	19.1	0.8	28.1	7.0		
緑園エリア	175	3.4	6.3	20.6	9.7	16.6	2.9	37.1	3.4		
新橋エリア	80	3.8	15.0	22.5	5.0	10.0	0.0	35.0	8.8		
和泉北部エリア	69	11.6	8.7	20.3	5.8	5.8	0.0	42.0	5.8		
和泉中央エリア	272	3.3	12.5	21.7	11.4	8.8	0.4	34.2	7.7		
下和泉エリア	60	5.0	8.3	21.7	18.3	1.7	1.7	26.7	16.7		
富士見が丘エリア	85	4.7	12.9	30.6	7.1	7.1	1.2	30.6	5.9		
上飯田エリア	129	4.7	12.4	15.5	17.1	6.2	0.8	37.2	6.2		
上飯田団地エリア	23	0.0	13.0	21.7	8.7	4.3	0.0	39.1	13.0		
いちょう団地エリア	27	0.0	18.5	14.8	11.1	0.0	0.0	51.9	3.7		
中田エリア	305	5.2	9.5	23.6	9.2	9.5	1.0	32.1	9.8		
しらゆりエリア	58	8.6	5.2	24.1	10.3	12.1	0.0	31.0	8.6		

■ 就労状況別 通勤・通学先（問5×F9）

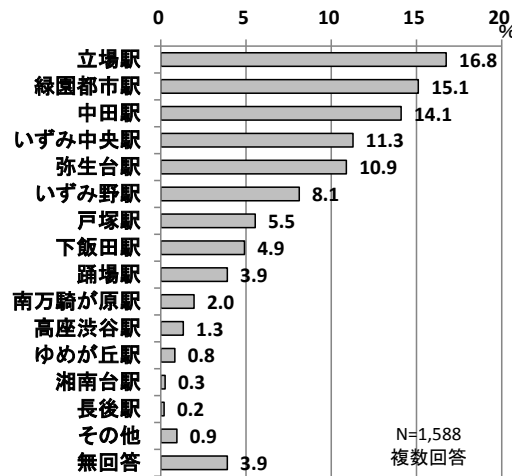
・自営業では「自宅（自営業など）」、正社員・正職員、契約社員・委託社員・派遣社員・嘱託員等では「横浜市内（泉区以外）」、パート・アルバイト等では「泉区内（自宅以外）」、学生は「東京都内」、それ以外は「通勤・通学していない」が最も多くなっている。また、正社員・正職員では「東京都内」「神奈川県内（横浜市以外）」、契約社員・委託社員・派遣社員・嘱託員等では「東京都内」、パート・アルバイト等では「横浜市内（泉区以外）」も全体値に比べて高い数値となっている。

	合計	問5 通勤・通学先									
		ど 自 宅 （ 自 営 業 な ど）	外 泉 区 内 （ 自 宅 以 外）	外 泉 区 内 （ 自 宅 以 外）	横 浜 市 内 （ 泉 区 以 外）	市 神 奈 川 県 内 （ 横 浜 市 以 外）	東 京 都 内	都 神 奈 川 県 外 （ 東 京 都 以 外）	不 明 な 通 勤 ・ 通 学 先	無 回 答	
全体	1588	4.6	10.5	22.0	9.9	10.7	0.9	33.2	8.2		
F9 就労状況											
自営業	83	38.6	19.3	14.5	14.5	6.0	1.2	4.8	1.2		
正社員・正職員	427	0.5	8.0	41.0	21.5	25.8	2.6	0.2	0.5		
契約社員・委託社員等※	74	1.4	6.8	44.6	16.2	28.4	0.0	2.7	0.0		
パート・アルバイト等	207	0.5	42.0	37.2	14.5	3.4	0.5	1.9	0.0		
専業主婦・専業主夫	354	5.9	3.7	5.1	0.0	0.0	0.0	67.8	16.9		
学生	24	0.0	0.0	25.0	16.7	58.3	0.0	0.0	0.0		
就業していない	285	2.8	2.1	4.2	0.4	0.7	0.0	79.3	10.5		
その他	80	6.3	5.0	11.3	2.5	8.8	1.3	43.8	21.3		

※契約社員・委託社員・派遣社員・嘱託員等

問6 鉄道を利用する際、主にどの駅を利用していますか。(○は1つ)

- ・「立場駅」が最も多く16.8%、次いで「緑園都市駅」(15.1%)、「中田駅」(14.1%)、「いずみ中央駅」(11.3%)、「弥生台駅」(10.9%)などの順で、横浜市営地下鉄線、相模鉄道線の駅が中心となっている。



■ 居住地区別 主な鉄道利用駅 (問6 × F3)

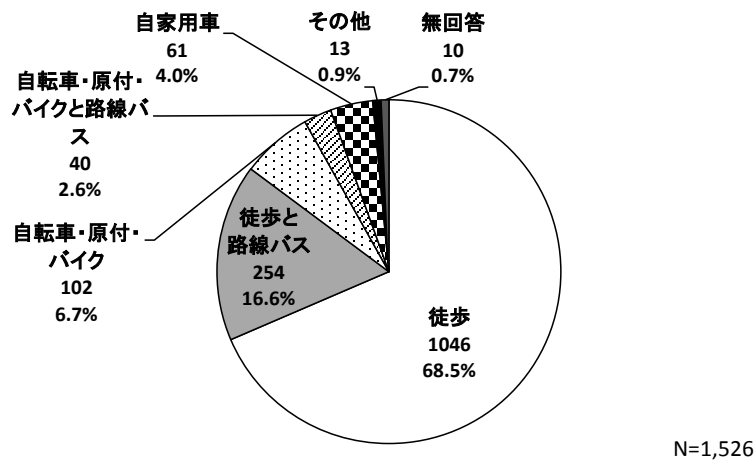
- ・中川では「弥生台駅」、緑園と新橋では「緑園都市駅」、和泉北部では「いずみ野駅」、和泉中央と下和泉では「立場駅」、富士見が丘では「下飯田駅」、上飯田と上飯田団地では「いずみ中央駅」、いちょう団地では「高座渋谷駅」、中田としらゆりでは「中田駅」が、それぞれ最も多くなっている。

また、中川では「戸塚駅」、緑園では「南万騎が原駅」、新橋では「弥生台駅」、和泉中央では「いずみ中央駅」、下和泉では「下飯田駅」、上飯田では「いずみ野駅」、上飯田団地といちょう団地では「立場駅」、しらゆりでは「踊場駅」が、それぞれ全体値を10ポイント以上上回っている。

		問6 主に利用する鉄道の駅																
		合計	踊場駅	中田駅	立場駅	下飯田駅	緑園都市駅	弥生台駅	いずみ野駅	いずみ中央駅	ゆめが丘駅	戸塚駅	湘南台駅	南万騎が原駅	高座渋谷駅	長後駅	その他	無回答
全体		1588	3.9	14.1	16.8	4.9	15.1	10.9	8.1	11.3	0.8	5.5	0.3	2.0	1.3	0.2	0.9	3.9
F3 連合	中川エリア	256	2.7	0.4	0.4	0.0	21.1	46.1	0.0	0.0	0.0	25.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8	2.7
	緑園エリア	175	0.0	0.0	0.0	0.0	81.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	16.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
	新橋エリア	80	0.0	0.0	0.0	0.0	48.8	47.5	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5
	和泉北部エリア	69	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	89.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	4.3
	和泉中央エリア	272	0.4	0.0	46.0	0.7	0.4	1.1	10.3	34.9	1.1	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	4.0
	下和泉エリア	60	1.7	1.7	56.7	21.7	0.0	0.0	0.0	8.3	1.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	3.3
	富士見が丘エリア	85	0.0	1.2	4.7	70.6	0.0	0.0	1.2	4.7	5.9	9.4	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
	上飯田エリア	129	0.0	0.0	8.5	2.3	0.0	0.0	22.5	48.8	3.1	0.0	0.0	0.0	3.9	1.6	4.7	4.7
	上飯田団地エリア	23	4.3	0.0	30.4	0.0	0.0	0.0	8.7	39.1	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	8.7
	いちょう団地エリア	27	0.0	0.0	40.7	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	0.0	0.0	3.7
	中田エリア	305	13.4	57.7	20.3	0.0	0.0	3.3	0.3	0.3	0.0	0.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
しらゆりエリア	58	19.0	67.2	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.7	

問6-1 その駅までの交通手段は何ですか。(〇は1つ)

- ・「徒歩」が最も多く 68.5% で、7割近くを占める。以下「徒歩と路線バス」(16.6%)、「自転車・原付・バイク」(6.7%)、「自家用車」(4.0%)、「自転車・原付・バイクと路線バス」(2.6%)、「その他」(0.9%)の順である。



■ 居住地区別 駅までの交通手段 (問6-1 × F3)

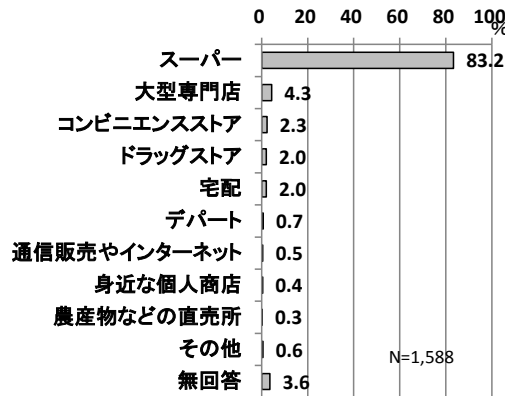
- ・上飯田団地といちょう団地では「徒歩と路線バス」、それ以外の地区では「徒歩」が最も多くなっている。特に緑園では1人を除いて全員が徒歩と回答している。また、中川と上飯田では「徒歩と路線バス」、下和泉では「徒歩と路線バス」「自転車・原付・バイク」の数値も全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

	合計	問6-1 駅までの交通手段						
		徒歩	徒歩と路線バス	自転車・原付・バイク	自転車・原付・バイクと路線バス	自家用車	その他	無回答
全体	1526	68.5	16.6	6.7	2.6	4.0	0.9	0.7
F3 連合								
中川エリア	249	45.8	34.1	6.8	2.4	8.4	1.6	0.8
緑園エリア	172	99.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新橋エリア	78	83.3	10.3	2.6	0.0	3.8	0.0	0.0
和泉北部エリア	66	74.2	18.2	3.0	0.0	4.5	0.0	0.0
和泉中央エリア	261	81.6	5.0	8.4	1.1	2.7	0.8	0.4
下和泉エリア	58	36.2	34.5	19.0	8.6	1.7	0.0	0.0
富士見が丘エリア	84	45.2	21.4	16.7	2.4	9.5	3.6	1.2
上飯田エリア	123	48.0	30.1	8.9	5.7	6.5	0.0	0.8
上飯田団地エリア	21	9.5	71.4	9.5	9.5	0.0	0.0	0.0
いちょう団地エリア	26	34.6	53.8	0.0	7.7	0.0	0.0	3.8
中田エリア	296	81.1	6.1	6.4	1.7	2.4	1.0	1.4
しらゆりエリア	57	73.7	12.3	1.8	8.8	3.5	0.0	0.0

4. 日頃の買い物行動について

問7 食料品や日用品など日常的な商品を購入する際、主にどのようなお店を利用していますか。(〇は1つ)

- ・「スーパー」が83.2%と圧倒的多数で、回答が集中している。



■ 性別・年齢別 日常的な商品を購入する主な店 (問7×F1, 2)

- ・男女とも「スーパー」が最も多く顕著な男女差は見られないが、男性は女性より「コンビニエンスストア」が4.6ポイント高くなっている。
- ・いずれの年代でも「スーパー」が最も多くなっており、40歳代以上では8割を超える人が挙げている。また、「コンビニエンスストア」「ドラッグストア」は年齢層が低いほど数値が高い。

		合計	問7 食料品や日用品など日常的な商品を購入する主な店										
			身近な個人商店	大型専門店	スーパー	デパート	コンビニエンスストア	ドラッグストア	農産物などの直売所	宅配	通信販売やインターネット	その他	無回答
全体		1588	0.4	4.3	83.2	0.7	2.3	2.0	0.3	2.0	0.5	0.6	3.6
F1 性別	男性	691	0.4	4.8	82.5	0.7	4.8	2.3	0.0	0.9	0.4	0.7	2.5
	女性	847	0.4	3.8	84.9	0.7	0.2	1.9	0.5	3.0	0.6	0.5	3.7
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	0.0	3.4	74.8	0.0	8.4	5.9	0.8	0.0	2.5	0.0	4.2
	30歳代	184	0.0	7.1	75.5	0.5	3.8	3.3	0.0	2.7	0.5	0.5	6.0
	40歳代	278	0.4	1.8	85.3	1.1	1.8	3.2	0.4	2.5	0.0	0.0	3.6
	50歳代	204	0.0	3.4	89.7	1.0	1.0	1.5	0.0	2.0	0.5	0.0	1.0
	60歳代	310	0.0	3.5	88.7	0.3	1.0	1.3	0.0	1.6	0.3	0.6	2.6
	70歳代以上	425	1.2	5.6	82.8	0.9	1.4	0.5	0.5	2.4	0.2	1.4	3.1

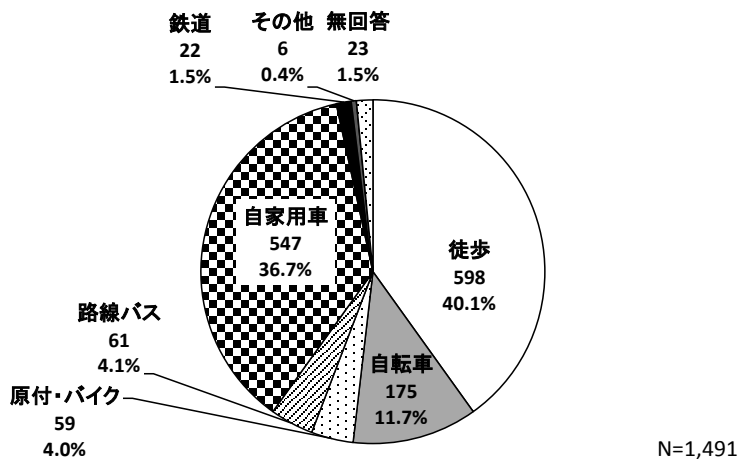
■ 居住地区別 日常的な商品を購入する主な店（問7×F3）

・いずれの地区でも「スーパー」が最も多く、顕著な地域差は見られない。

		問7 食料品や日用品など日常的な商品を購入する主な店											
		合計	身近な個人商店	大型専門店	スーパー	デパート	トア	コンビニエンス	ドラッグストア	所産物などの直売	宅配	通販販売やインターネット	その他
全体		1588	0.4	4.3	83.2	0.7	2.3	2.0	0.3	2.0	0.5	0.6	3.6
F3 連合	中川エリア	256	0.4	3.5	82.4	0.8	2.7	2.7	0.4	1.6	0.4	0.0	5.1
	緑園エリア	175	0.0	2.3	88.6	0.6	3.4	1.1	0.0	1.7	0.0	0.6	1.7
	新橋エリア	80	1.3	2.5	83.8	1.3	2.5	1.3	0.0	2.5	0.0	1.3	3.8
	和泉北部エリア	69	0.0	2.9	88.4	0.0	2.9	1.4	1.4	1.4	0.0	1.4	0.0
	和泉中央エリア	272	0.0	4.0	85.7	0.7	1.8	0.7	0.0	2.6	0.7	0.4	3.3
	下和泉エリア	60	1.7	8.3	80.0	1.7	1.7	1.7	0.0	1.7	1.7	0.0	1.7
	富士見が丘エリア	85	0.0	2.4	76.5	2.4	3.5	4.7	1.2	3.5	0.0	3.5	2.4
	上飯田エリア	129	0.0	7.8	82.2	0.0	3.1	0.0	0.8	1.6	0.8	0.0	3.9
	上飯田団地エリア	23	0.0	0.0	87.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
	いちょう団地エリア	27	0.0	3.7	92.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
	中田エリア	305	1.0	4.6	80.7	0.3	1.3	4.3	0.0	2.3	1.0	0.7	3.9
	しらゆりエリア	58	0.0	6.9	89.7	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0

問7-1 その際の主な交通手段は何ですか。(問7で「8 宅配」「9 通信販売やインターネット」と回答した方を除く、○は1つ)

- ・「徒歩」が最も多く 40.1%で全体の約4割、「自家用車」は 36.7%で、この2つに回答が集中している。次いで「自転車」(11.7%)が1割強である。



■ 性別・年齢別 日常的商品を購入する際の主な交通手段 (問7-1 × F1, 2)

- ・男性は「自家用車」、女性は「徒歩」が最も多く、男女で傾向が分かれた。
- ・年齢別では、20歳代と60歳代、70歳代以上で「徒歩」、それ以外は「自家用車」が最も多くなっている。

		合計	問7-1 その際の主な交通手段							
			徒歩	自転車	原付・バイク	路線バス	自家用車	鉄道	その他	無回答
全体		1491	40.1	11.7	4.0	4.1	36.7	1.5	0.4	1.5
F 1 性別	男性	665	37.6	9.8	5.0	3.0	41.8	1.1	0.5	1.4
	女性	786	42.6	13.1	3.2	4.8	32.8	1.8	0.1	1.5
F 2 年齢(年代別)	20歳代	111	47.7	9.9	6.3	1.8	29.7	2.7	0.0	1.8
	30歳代	167	31.1	8.4	6.0	1.8	50.3	1.2	0.0	1.2
	40歳代	261	37.2	8.8	2.7	1.9	47.5	0.8	0.4	0.8
	50歳代	197	36.5	12.7	2.0	3.6	42.6	1.0	0.0	1.5
	60歳代	296	44.6	10.5	4.4	2.0	36.8	0.3	0.0	1.4
	70歳代以上	401	42.9	15.2	3.7	8.7	23.9	2.2	1.0	2.2

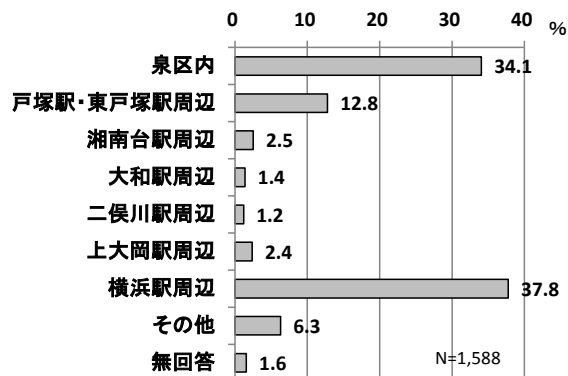
■ 居住地区別 日常的な商品を購入する際の主な交通手段（問7-1×F1, 2）

- ・中川、緑園、和泉北部、和泉中央、いちょう団地では「徒歩」、新橋、下和泉、富士見が丘、上飯田、中田、しらゆりでは「自家用車」が最も多く、上飯田団地では「徒歩」「自転車」が同率となっている。

		合計	問7-1 その際の主な交通手段							
			徒歩	自転車	原付・バイク	路線バス	自家用車	鉄道	その他	無回答
	全体	1491	40.1	11.7	4.0	4.1	36.7	1.5	0.4	1.5
F3 連合	中川エリア	238	50.0	5.5	2.9	1.7	37.4	0.4	0.0	2.1
	緑園エリア	169	66.3	0.6	0.6	0.0	30.2	1.2	0.0	1.2
	新橋エリア	75	30.7	1.3	5.3	10.7	48.0	2.7	0.0	1.3
	和泉北部エリア	68	50.0	1.5	4.4	2.9	41.2	0.0	0.0	0.0
	和泉中央エリア	254	40.9	18.1	3.1	4.3	30.7	0.8	1.2	0.8
	下和泉エリア	57	8.8	26.3	15.8	8.8	38.6	0.0	0.0	1.8
	富士見が丘エリア	80	16.3	11.3	8.8	8.8	42.5	6.3	2.5	3.8
	上飯田エリア	121	31.4	10.7	5.8	8.3	43.0	0.0	0.0	0.8
	上飯田団地エリア	21	28.6	28.6	0.0	23.8	14.3	0.0	0.0	4.8
	いちょう団地エリア	26	57.7	15.4	0.0	11.5	11.5	0.0	0.0	3.8
	中田エリア	283	33.9	19.8	2.8	0.4	39.2	2.5	0.0	1.4
	しらゆりエリア	57	31.6	10.5	5.3	1.8	45.6	1.8	0.0	3.5

問8 日常的に購入する商品以外(衣料品・贈答品・家電製品等)を購入する際、よく利用する場所はどこですか。(〇は1つ)

- ・「横浜駅周辺」が最も多く 37.8%、続いて「泉区内」が 34.1%で、この2つが中心となっている。次いで「戸塚駅・東戸塚駅周辺」が 12.8%である。



■ 性別・年齢別 日常的な商品以外を購入する場所 (問8×F1, 2)

- ・男性は「泉区内」、女性は「横浜駅周辺」が最も多く、男女で傾向が分かれた。
- ・年齢別では、20歳代から50歳代までの世代では「横浜駅周辺」、60歳代では「泉区内」「横浜駅周辺」が同率、70歳代以上で「泉区内」が最も多くなっており、60歳代を境に傾向が分かれた。

		合計	問8 日常的に購入する商品以外を購入する場所								
			泉区内	戸塚駅・東戸塚駅周辺	湘南台駅周辺	大和駅周辺	二俣川駅周辺	上大岡駅周辺	横浜駅周辺	その他	無回答
全体		1588	34.1	12.8	2.5	1.4	1.2	2.4	37.8	6.3	1.6
F1 性別	男性	691	36.2	13.6	3.3	1.0	1.3	1.6	35.0	7.4	0.6
	女性	847	31.8	12.4	1.9	1.7	1.2	3.2	40.6	5.8	1.5
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	15.1	15.1	0.0	2.5	2.5	4.2	52.1	8.4	0.0
	30歳代	184	20.1	15.2	4.3	3.3	0.5	1.1	43.5	10.9	1.1
	40歳代	278	28.4	16.9	2.2	1.8	1.4	2.5	35.3	10.8	0.7
	50歳代	204	33.3	14.7	2.9	1.0	0.5	2.5	37.7	6.9	0.5
	60歳代	310	39.7	9.4	2.6	1.0	1.3	2.3	39.7	3.5	0.6
	70歳代以上	425	44.9	10.1	2.6	0.5	1.4	2.8	32.5	3.1	2.1

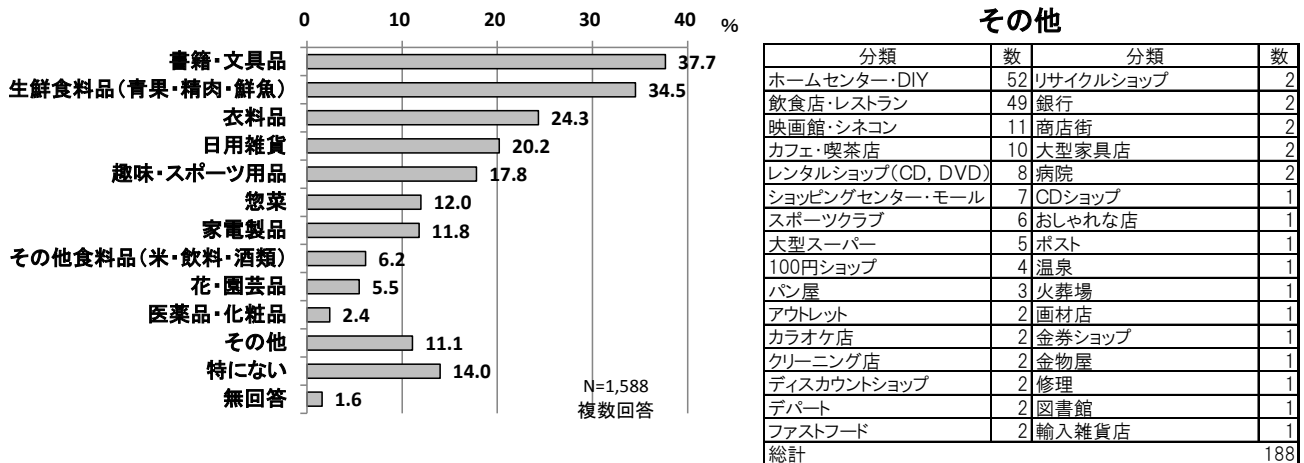
■ 居住地区別 日常的商品以外を購入する場所（問8×F3）

- ・中川、緑園、新橋、和泉北部、しらゆりでは「横浜駅周辺」、それ以外の地区では「泉区内」が最も多くなっている。

		合計	問8 日常的に購入する商品以外を購入する場所								
			泉区内	周辺塚駅・東戸塚駅	湘南台駅周辺	大和駅周辺	二俣川駅周辺	上大岡駅周辺	横浜駅周辺	その他	無回答
	全体	1588	34.1	12.8	2.5	1.4	1.2	2.4	37.8	6.3	1.6
F3 連合	中川エリア	256	18.4	21.9	0.0	1.6	2.0	0.4	47.7	6.3	2.0
	緑園エリア	175	10.9	10.3	0.0	0.6	4.6	0.6	68.6	4.6	0.0
	新橋エリア	80	33.8	15.0	2.5	2.5	2.5	0.0	42.5	1.3	0.0
	和泉北部エリア	69	40.6	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	52.2	4.3	0.0
	和泉中央エリア	272	47.8	8.5	2.9	1.1	0.0	2.6	30.1	5.5	1.5
	下和泉エリア	60	51.7	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	23.3	5.0	0.0
	富士見が丘エリア	85	35.3	9.4	14.1	0.0	0.0	3.5	28.2	8.2	1.2
	上飯田エリア	129	48.8	0.8	5.4	3.9	0.0	0.8	27.1	10.1	3.1
	上飯田団地エリア	23	34.8	17.4	4.3	8.7	4.3	0.0	21.7	4.3	4.3
	いちょう団地エリア	27	44.4	7.4	0.0	11.1	0.0	0.0	14.8	18.5	3.7
	中田エリア	305	34.4	20.0	1.0	0.3	0.0	7.5	27.9	8.2	0.7
しらゆりエリア	58	34.5	17.2	0.0	0.0	0.0	3.4	39.7	5.2	0.0	

問9 泉区にもっとあったら良いと思うお店はどれですか。(〇は3つまで)

- ・「書籍・文具品」が37.7%で最も多く、4割弱の人が挙げている。次いで「生鮮食料品(青果・精肉・鮮魚)」が34.5%である。以下「衣料品」(24.3%)、「日用雑貨」(20.2%)、「趣味・スポーツ用品」(17.8%)、「惣菜」(12.0%)、「家電製品」(11.8%)などと続く。
- ・「その他」(11.1%)のうち171件に具体的な記述があり、188の意見が出された。このうち最も多かったのは「ホームセンター・DIY」の52件で、以下「飲食店・レストラン」(49件)、「映画館・シネコン」(11件)、「カフェ・喫茶店」(10件)などが多くなっている。



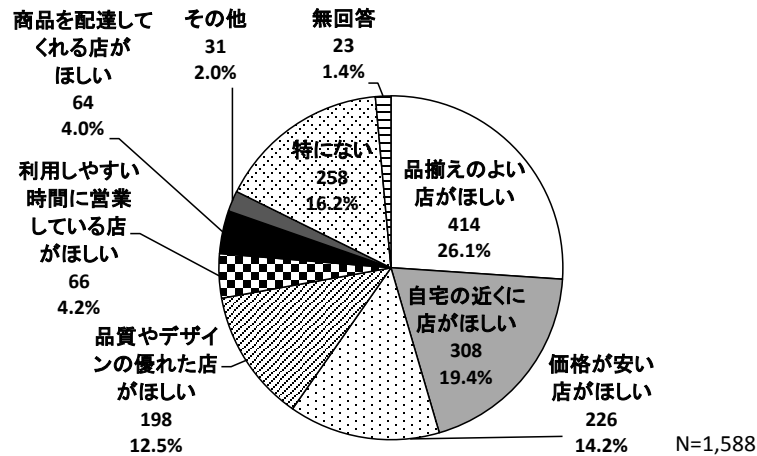
■ 性別・年齢別 泉区にもっとあったら良いと思うお店 (問9×F1, 2)

- ・男女とも「書籍・文具品」が最も多くなっている。また、男性は女性より「趣味・スポーツ用品」が13.7ポイント高く、女性は男性より「衣料品」が11.0ポイント高くなっている。
- ・年齢別では、20歳代から50歳代までの世代では「書籍・文具品」、60歳代以上の世代では「生鮮食料品(青果・精肉・鮮魚)」が最も多くなっており、60歳代を境に傾向が分かれた。また、年齢層が高いほど「特にない」の数値は高くなっている。

		問9 泉区にもっとあったら良いと思うお店													
		合計	果生惣(米・その他日用衣医書家品趣花そ特無	鮮食菜(米・他他雑料品薬籍電味・園その他に回	肉料品・飲食食貨品・化具品製・ス・芸他ない答	魚)類)品)品)品)品)品)品)品)品)品)品)品)									
全体		1588	34.5	12.0	6.2	20.2	24.3	2.4	37.7	11.8	17.8	5.5	11.1	14.0	1.6
F1 性別	男性	691	31.8	9.8	7.5	18.8	18.8	2.5	37.5	12.7	25.9	4.3	10.4	15.6	0.7
	女性	847	37.0	13.8	5.0	21.4	29.8	2.5	38.7	11.1	12.2	6.4	12.0	12.0	1.4
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	20.2	8.4	5.9	21.0	28.6	6.7	46.2	18.5	21.0	3.4	18.5	8.4	0.0
	30歳代	184	31.0	11.4	3.3	27.7	32.1	4.3	45.7	9.2	19.6	6.5	13.6	8.7	0.0
	40歳代	278	33.5	11.5	7.2	22.3	27.0	4.3	46.4	12.6	21.6	1.8	16.9	8.3	1.1
	50歳代	204	34.8	19.6	8.3	19.6	21.1	0.5	39.7	8.3	15.2	3.4	12.7	12.7	0.0
	60歳代	310	37.1	10.3	4.8	15.2	26.8	0.6	36.5	9.7	22.6	9.0	10.0	16.1	1.3
	70歳代以上	425	39.8	10.8	7.1	19.3	18.1	1.6	27.5	13.6	12.9	6.8	5.2	20.2	2.4

問10 泉区内の商業施設・店舗の立地やサービスについてどのように感じていますか。(〇は1つ)

- ・「品揃えのよい店がほしい」が最も多く 26.1%で、全体の4分の1強を占めている。次いで「自宅の近くに店がほしい」が 19.4%で2割弱である。また、「特にない」は 16.2%となっている。以下「価格が安い店がほしい」(14.2%)、「品質やデザインの優れた店がほしい」(12.5%)などと続く。



■ 性別・年齢別 泉区内の商業施設・店舗の立地やサービス (問10×F1, 2)

- ・男女とも「品揃えのよい店がほしい」が最も多く、男女によってさほど大きな差は見られないが、「品質やデザインの優れた店がほしい」は女性が男性を5ポイント上回っている。
- ・年齢別では、70歳代以上では「自宅の近くに店がほしい」、60歳代以下の世代では「品揃えのよい店がほしい」が最も多くなっている。

		合計	問10 泉区内の商業施設・店舗の立地やサービス								
			ほ自 し宅 いの 近く に 店 が	ほ品 し揃 えの よい 店 が	優品 れた や 店 が ザ イン の	し価 い 格 が 安 い 店 が ほ	がに 利 用 し や し て す い る 時 間	れ商 る品 を配 達し て く	そ 他	特 に な い	無 回 答
全体		1588	19.4	26.1	12.5	14.2	4.2	4.0	2.0	16.2	1.4
F 1 性別	男性	691	20.1	25.9	10.0	15.3	5.6	3.0	1.7	17.5	0.7
	女性	847	18.8	26.6	15.0	13.9	2.8	4.7	2.2	14.8	1.2
F 2 年齢(年 代別)	20歳代	119	12.6	30.3	16.0	16.0	7.6	3.4	2.5	11.8	0.0
	30歳代	184	19.0	29.9	13.0	19.6	5.4	0.5	1.1	11.4	0.0
	40歳代	278	19.4	27.7	15.1	13.3	6.1	2.5	2.9	12.6	0.4
	50歳代	204	20.1	29.9	11.3	16.7	2.5	3.9	2.0	13.2	0.5
	60歳代	310	15.5	25.2	15.5	11.9	2.9	3.2	2.6	22.3	1.0
	70歳代以上	425	24.0	21.9	8.7	12.9	2.4	7.3	1.4	19.5	1.9

■ 居住地区別 泉区内の商業施設・店舗の立地やサービス (問10×F3)

- ・中川、緑園、和泉北部、和泉中央、中田では「品揃えのよい店がほしい」、新橋、下和泉、富士見が丘、上飯田、しらゆりで「自宅の近くに店がほしい」、上飯田団地では「価格が安い店がほしい」、いちょう団地では「特にない」が、それぞれ最も多くなっている。

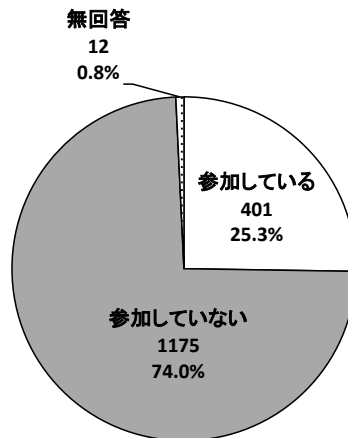
		合計	問10 泉区内の商業施設・店舗の立地やサービス								
			ほ し 宅 の 近 く に 店 が	ほ し 品 揃 え の よ い 店 が	優 品 質 の た だ が ほ い の	し ほ い 格 が 安 い 店 が ほ	が に 利 用 し や す い 時 間	れ る 商 品 を 配 達 し て く	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		1588	19.4	26.1	12.5	14.2	4.2	4.0	2.0	16.2	1.4
F3 連合	中川エリア	256	16.4	27.7	14.5	12.5	3.5	4.3	2.7	17.6	0.8
	緑園エリア	175	15.4	36.6	14.3	10.3	3.4	5.1	4.6	9.7	0.6
	新橋エリア	80	27.5	26.3	10.0	16.3	1.3	3.8	1.3	12.5	1.3
	和泉北部エリア	69	21.7	27.5	11.6	17.4	1.4	0.0	0.0	18.8	1.4
	和泉中央エリア	272	12.1	27.9	14.3	18.4	4.4	4.0	2.6	15.1	1.1
	下和泉エリア	60	30.0	20.0	5.0	18.3	3.3	3.3	0.0	20.0	0.0
	富士見が丘エリア	85	42.4	28.2	8.2	7.1	5.9	0.0	0.0	8.2	0.0
	上飯田エリア	129	24.0	19.4	11.6	11.6	7.0	1.6	0.8	21.7	2.3
	上飯田団地エリア	23	21.7	17.4	4.3	30.4	4.3	17.4	0.0	4.3	0.0
	いちょう団地エリア	27	11.1	18.5	7.4	11.1	3.7	7.4	0.0	40.7	0.0
	中田エリア	305	17.0	24.3	14.1	14.4	4.9	3.6	2.3	18.0	1.3
	しらゆりエリア	58	25.9	13.8	13.8	20.7	3.4	8.6	0.0	13.8	0.0

5. 地域での支え合いについて

問11 あなたは現在、仕事や学業以外で、地域活動に参加者またはボランティアとして参加していますか。

(○は1つ)

- ・「参加していない」が 74.0%で全体の4分の3近くを占め、「参加している」は 25.3%で4分の1程度にとどまっている。



N=1,588

■ 性別・年齢別 地域活動やボランティアへの参加（問11×F1, 2）

- ・男女とも「参加していない」の方が多く、男女による大きな差は見られない。
- ・年齢別では、いずれの年齢も「参加していない」の方が多い。「参加している」の数値は年齢層が上がるほど高くなっている。

		合計	問11 仕事や学業以外で地域活動やボランティアに参加		
			参加している	参加していない	無回答
	全体	1588	25.3	74.0	0.8
F 1 性別	男性	691	24.5	75.5	0.0
	女性	847	26.0	73.6	0.5
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	10.9	89.1	0.0
	30歳代	184	16.3	83.7	0.0
	40歳代	278	19.4	80.6	0.0
	50歳代	204	25.5	74.5	0.0
	60歳代	310	29.4	70.3	0.3
	70歳代以上	425	34.1	65.4	0.5

■ 居住地区別 地域活動やボランティアへの参加（問11×F3）

- ・いずれの地区でも「参加していない」の方が多くなっている。また、和泉北部では「参加している」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

	合計	問11 仕事や学業以外で地域活動やボランティアに参加		
		参加している	参加していない	無回答
全体	1588	25.3	74.0	0.8
F3 連合				
中川エリア	256	23.8	75.8	0.4
緑園エリア	175	26.3	73.7	0.0
新橋エリア	80	21.3	77.5	1.3
和泉北部エリア	69	39.1	60.9	0.0
和泉中央エリア	272	23.5	76.5	0.0
下和泉エリア	60	23.3	76.7	0.0
富士見が丘エリア	85	28.2	71.8	0.0
上飯田エリア	129	26.4	72.9	0.8
上飯田団地エリア	23	26.1	69.6	4.3
いちょう団地エリア	27	18.5	81.5	0.0
中田エリア	305	25.6	74.1	0.3
しらゆりエリア	58	31.0	69.0	0.0

■ 就労状況別 地域活動やボランティアへの参加（問11×F9）

- ・いずれも「参加していない」の方が多いが、特に正社員・正職員で8割強、学生では9割弱が「参加していない」としている。専業主婦・専業主夫と就業していない人では参加率が3割を超える。

	合計	問11 仕事や学業以外で地域活動やボランティアに参加		
		参加している	参加していない	無回答
全体	1588	25.3	74.0	0.8
F9 就労状況				
自営業	83	26.5	73.5	0.0
正社員・正職員	427	17.8	82.2	0.0
契約社員・委託社員等※	74	28.4	71.6	0.0
パート・アルバイト等	207	23.2	76.3	0.5
専業主婦・専業主夫	354	30.5	68.6	0.8
学生	24	12.5	87.5	0.0
就業していない	285	31.2	68.4	0.4
その他	80	26.3	73.8	0.0

※契約社員・委託社員・派遣社員・嘱託員等

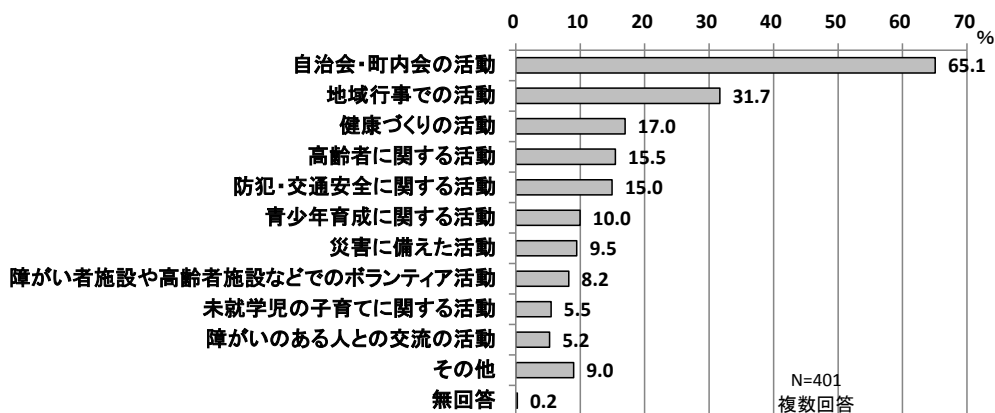
■ 自治会町内会加入状況別 地域活動やボランティアへの参加（問11×F10）

- ・いずれも「参加していない」の方が多いが、特に自治会町内会に「加入していない」ケースでは9割を超え、「加入している」ケースを22.3ポイント上回っている。「加入している」ケースでは「参加している」が3割近くに達している。

	合計	問11 仕事や学業以外で地域活動やボランティアに参加		
		参加している	参加していない	無回答
全体	1588	25.3	74.0	0.8
F10 自治会町内会加入状況				
加入している	1339	28.2	71.3	0.4
加入していない	187	6.4	93.6	0.0

問11-1 (問11で「1 参加している」と回答した方のみ)それはどのような活動ですか。(〇はいくつでも)

- ・「自治会・町内会の活動」が突出して多く 65.1%に達している。次いで「地域行事での活動」が 31.7%である。以下「健康づくりの活動」(17.0%)、「高齢者に関する活動」(15.5%)、「防犯・交通安全に関する活動」(15.0%)などと続く。



■ 性別・年齢別 参加している活動 (問 11-1 × F 1, 2)

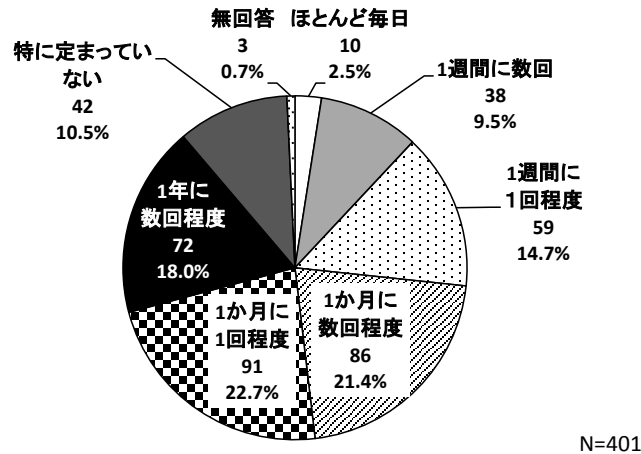
- ・男女とも「自治会・町内会の活動」が最も多く、特に男性は女性より 15.8 ポイント高くなっている。このほか男性は「防犯・交通安全に関する活動」で 11.3 ポイント、「災害に備えた活動」で 12.9 ポイント女性を上回っている。一方女性は「未就学児の子育てに関する活動」で 8.5 ポイント、「青少年育成に関する活動」で 7.7 ポイント男性を上回っている。
- ・年齢別では、いずれの年代も「自治会・町内会の活動」が最も多くなっている。また、ややサンプル数が少ないが、20歳代で「未就学児の子育てに関する活動」、30,40歳代で「青少年育成に関する活動」、70歳代以上で「高齢者に関する活動」「健康づくりの活動」が、全体値を 10 ポイント以上上回っている。

		合計	問11-1 参加している活動											
			自治会・町内会の活動	防犯・交通安全に関する活動	災害に備えた活動	未就学児の子育てに関する活動	青少年育成に関する活動	高齢者に関する活動	障がいのある人との交流の活動	健康づくりの活動	地域行事での活動	障がい者施設や高齢者施設などでのボランティア活動	障がいのある人との交流の活動	その他
全体		401	65.1	15.0	9.5	5.5	10.0	15.5	5.2	17.0	31.7	8.2	9.0	0.2
F 1 性別	男性	169	74.0	21.3	16.6	0.6	5.9	13.6	5.3	15.4	33.7	6.5	13.6	0.6
	女性	220	58.2	10.0	3.6	9.1	13.6	16.4	5.5	17.7	29.5	9.1	5.9	0.0
F 2 年齢(年代別)	20歳代	13	53.8	7.7	15.4	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0
	30歳代	30	73.3	13.3	0.0	10.0	23.3	0.0	3.3	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	54	63.0	18.5	7.4	7.4	24.1	3.7	7.4	1.9	33.3	5.6	5.6	0.0
	50歳代	52	76.9	5.8	7.7	5.8	15.4	9.6	7.7	3.8	19.2	0.0	1.9	0.0
	60歳代	91	64.8	13.2	11.0	6.6	9.9	12.1	5.5	13.2	29.7	13.2	17.6	0.0
	70歳代以上	145	62.1	20.0	11.7	2.1	0.7	28.3	4.8	33.1	35.2	10.3	9.7	0.7

問11-2 (問11で「1 参加している」と回答した方のみ)参加の頻度はどのくらいですか。(〇は1つ)

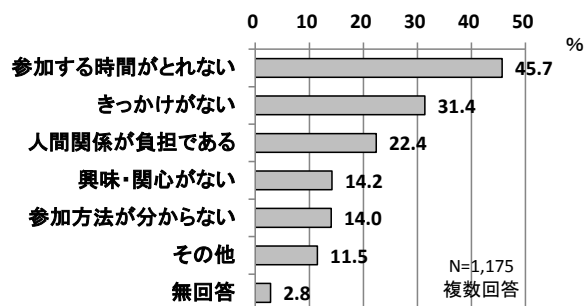
※ 複数の活動に参加されている方は、全ての活動を含めて回答してください

- ・「1か月に1回程度」が22.7%で最も多く、「1か月に数回程度」が21.4%と僅差で続く。以下「1年に数回程度」(18.0%)、「1週間に1回程度」(14.7%)、「特に定まっていない」(10.5%)、「1週間に数回」(9.5%)、「ほとんど毎日」(2.5%)となっており、週に数回以上と頻繁な活動をしている人も1割程度存在している。



問11-3 (問11で「2 参加していない」と回答した方)その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「参加する時間がとれない」が45.7%で最も多く、半数近くの人が挙げている。以下「きっかけがない」(31.4%)、「人間関係が負担である」(22.4%)、「興味・関心がない」(14.2%)、「参加方法が分からない」(14.0%)、「その他」(11.5%)と続く。



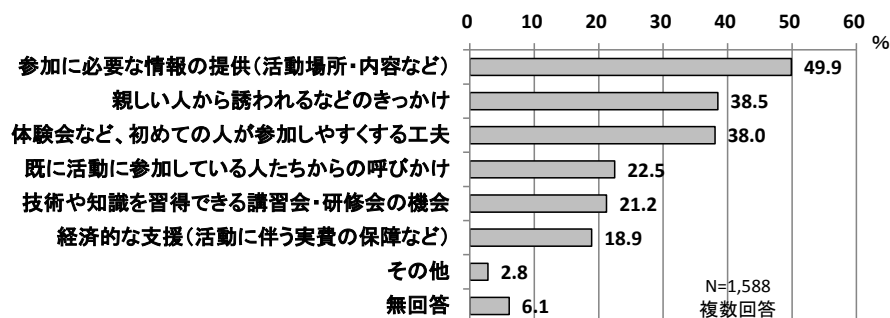
■ 性別・年齢別 参加していない理由 (問11-3 × F1, 2)

- ・男女とも「参加する時間がとれない」が最も多くなっている。
- ・年齢別では、70歳代の「その他」を除きいずれの年代も「参加する時間がとれない」が最も多くなっている。また、20歳代で「興味・関心がない」「参加方法が分からない」が、全体値を10ポイント以上上回っている。

		合計	問11-3 参加していない理由						
			興味・関心がない	参加する時間がとれない	参加方法が分からない	きっかけがない	人間関係が負担である	その他	無回答
全体		1175	14.2	45.7	14.0	31.4	22.4	11.5	2.8
F1 性別	男性	522	18.2	46.6	16.5	34.9	21.5	9.4	2.3
	女性	623	10.8	45.6	12.0	28.9	23.4	13.0	2.7
F2 年齢(年代別)	20歳代	106	27.4	56.6	28.3	32.1	20.8	0.9	0.0
	30歳代	154	16.9	59.7	18.8	40.3	22.7	2.6	0.6
	40歳代	224	12.9	61.2	10.7	25.4	28.1	5.4	1.3
	50歳代	152	11.8	61.2	9.2	38.2	13.2	5.9	0.7
	60歳代	218	9.6	37.2	15.6	35.8	21.6	12.8	1.8
	70歳代以上	278	13.3	20.5	10.4	25.2	23.4	27.7	7.6

問12 多くの人が地域活動に参加できるようになるためには、どのような働きかけがあるとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・「参加に必要な情報の提供（活動場所・内容など）」が最も多く 49.9%で、ほぼ半数の人が挙げている。次いで「親しい人から誘われるなどのきっかけ」（38.5%）、「体験会など、初めての人が参加しやすくする工夫」（38.0%）がほぼ並ぶ。以下「既に活動に参加している人たちからの呼びかけ」（22.5%）、「技術や知識を習得できる講習会・研修会の機会」（21.2%）、「経済的な支援（活動に伴う実費の保障など）」（18.9%）、「その他」（2.8%）と続く。



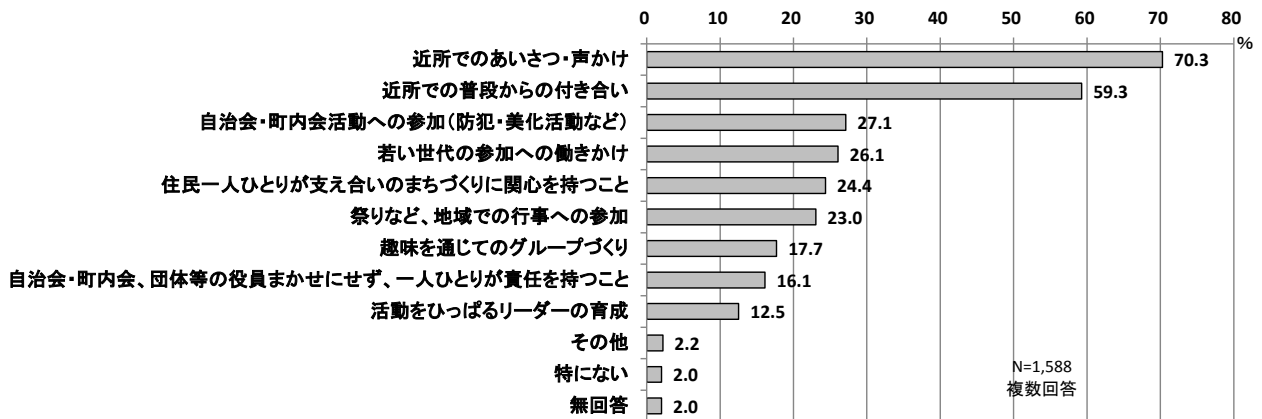
■ 性別・年齢別 地域活動に参加できるようになるための働きかけ（問12×F1，2）

- ・男女とも「参加に必要な情報の提供（活動場所・内容など）」が最も多くなっている。
- ・年齢別では、20歳代で「親しい人から誘われるなどのきっかけ」、30歳代で「体験会など、初めての人が参加しやすくする工夫」、40歳代以上では「参加に必要な情報の提供（活動場所・内容など）」が最も多くなっている。

		合計	問12 多くの人が地域活動に参加できるようになるためにあるとよい働きかけ							
			ど親 のき つ つ 人 か ら 誘 わ れ る な な	（参加 に必 要な 情報 の提 供）	う 経 済 的 な 支 援 （活 動に 伴	講 技 術 や 知 識 を 習 得 で き る	が 体 験 会 な ど、 初 め て の 人 が 参 加 し よ く す る 工 夫	人 既 に 活 動 に 参 加 し て い る 人 た ち か ら の 呼 び か け	そ の 他	無 回 答
	全体	1588	38.5	49.9	18.9	21.2	38.0	22.5	2.8	6.1
F 1 性別	男性	691	37.0	53.8	19.5	21.0	37.3	21.7	3.0	4.3
	女性	847	40.6	47.5	18.5	22.3	39.8	23.5	2.6	5.4
F 2 年齢(年 代別)	20歳代	119	52.9	48.7	22.7	20.2	31.9	17.6	0.0	2.5
	30歳代	184	38.6	50.5	21.2	17.9	51.1	10.9	3.8	1.1
	40歳代	278	41.7	46.4	21.6	24.5	44.2	19.4	2.5	1.8
	50歳代	204	36.8	55.4	24.0	25.0	36.8	24.5	1.0	2.9
	60歳代	310	28.7	56.1	20.3	25.5	41.9	25.2	2.6	5.5
	70歳代以上	425	42.4	46.1	11.5	18.6	29.9	29.4	4.7	10.1

問13 地域で「身近な支え合いの関係を築いていくためには、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・「近所でのあいさつ・声かけ」が最も多く 70.3%で、7割の人が挙げている。次いで「近所での普段からの付き合い」が 59.3%で、近所での人間関係づくりに関する項目が上位2項目となっている。以下「自治会・町内会活動への参加(防犯・美化活動など)」(27.1%)、「若い世代の参加への働きかけ」(26.1%)、「住民一人ひとりが支え合いのまちづくりに関心を持つこと」(24.4%)、「祭りなど、地域での行事への参加」(23.0%)を2割以上の人が挙げている。



■ 性別・年齢別 「身近な支え合いの関係を築いていくために必要なこと(問13×F1, 2)

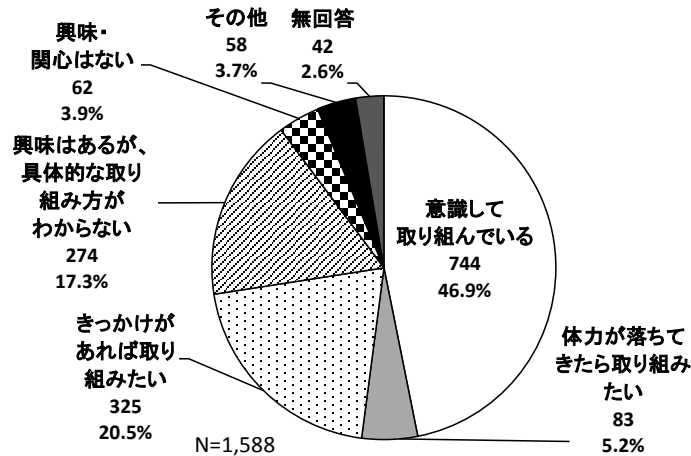
- ・男女とも「近所でのあいさつ・声かけ」が最も多くなっている。
- ・年齢別では、20歳代から60歳代までの世代では「近所でのあいさつ・声かけ」、70歳代以上では「近所での普段からの付き合い」が最も多くなっている。また、20歳代で「若い世代の参加への働きかけ」、50歳代で「住民一人ひとりが支え合いのまちづくりに関心を持つこと」、70歳代以上で「趣味を通じてのグループづくり」の数値が、全体値を10ポイント以上上回っている。

	合計	問13 地域で「身近な支え合いの関係を築いていくために必要だと思うこと											
		近所でのあいさつ・声かけ	近所での普段からの付き合い	祭りなど、地域での行事への参加	自治会(防犯・美化活動など)	自治会・町内会活動への参加	趣味を通じてのグループづくり	住民一人ひとりが支え合いのまちづくりに関心を持つこと	ひとりひとりが責任を持つこと	自治会・町内会、団体等	活動をひっぱりリーダーの育成	若い世代の参加への働きかけ	その他
全体	1588	70.3	59.3	23.0	27.1	17.7	24.4	16.1	12.5	26.1	2.2	2.0	2.0
F1 性別													
男性	691	69.2	61.1	27.2	31.0	21.6	22.4	17.1	13.9	25.3	2.0	2.0	1.6
女性	847	72.0	58.6	20.7	24.7	15.2	26.2	15.6	11.7	27.0	2.4	1.9	1.2
F2 年齢(年代別)													
20歳代	119	68.1	57.1	32.8	16.0	10.1	16.0	10.1	5.9	37.8	0.0	0.8	0.0
30歳代	184	77.2	51.6	30.4	25.0	14.7	17.9	11.4	6.0	33.2	2.7	1.6	0.5
40歳代	278	77.7	57.6	25.9	25.5	13.7	21.6	13.7	14.0	21.6	2.2	0.7	0.7
50歳代	204	72.1	56.9	18.6	27.5	10.3	35.3	20.1	12.7	26.0	1.0	2.5	1.5
60歳代	310	70.0	59.7	18.4	26.1	18.7	26.1	17.1	13.5	24.2	2.6	2.6	1.6
70歳代以上	425	65.2	66.6	23.1	34.4	27.8	25.9	20.0	16.2	23.3	3.1	2.6	2.6

6. 健康づくりについて

問14 あなたは現在、健康づくりに取り組んでいますか。(〇は1つ)

- ・「意識して取り組んでいる」が最も多く 46.9%で、半数近くに達する。次いで「きっかけがあれば取り組みたい」が 20.5%で約 2 割、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」が 17.3%で 2 割弱となっている。「興味・関心はない」は 3.9%にとどまっている。



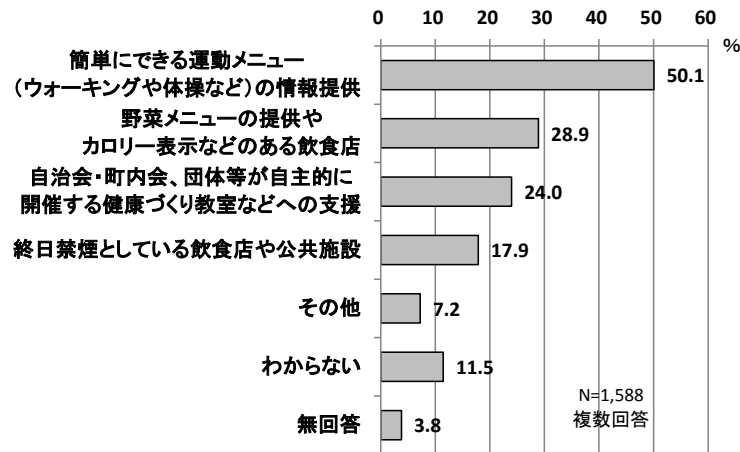
■ 性別・年齢別 健康づくりに取り組んでいるか (問14×F1, 2)

- ・男女とも「意識して取り組んでいる」が最も多く、男性は女性より 8.2 ポイント高くなっている。
- ・年齢別では、いずれの世代でも「意識して取り組んでいる」が最も多くなっており、年齢層が高いほど数値も高い傾向にある。また、20 歳代、30 歳代で「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」の数値が、全体値を 10 ポイント以上上回っている。

	合計	問14 現在、健康づくりに取り組んでいるか						
		意識して取り組んでいる	体力が落ちてきたら取り組みたい	きっかけがあれば取り組みたい	興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない	興味・関心はない	その他	無回答
全体	1588	46.9	5.2	20.5	17.3	3.9	3.7	2.6
F 1 性別								
男性	691	51.8	6.1	18.2	15.8	4.2	2.5	1.4
女性	847	43.6	4.5	22.3	18.8	3.8	4.6	2.5
F 2 年齢(年代別)								
20歳代	119	31.9	9.2	21.0	28.6	7.6	0.8	0.8
30歳代	184	31.5	9.2	24.5	31.0	2.2	1.6	0.0
40歳代	278	35.3	4.7	28.1	23.4	4.3	3.6	0.7
50歳代	204	47.5	7.8	19.1	16.2	4.4	3.4	1.5
60歳代	310	55.8	3.2	20.3	13.5	2.9	2.9	1.3
70歳代以上	425	59.3	3.1	14.4	8.7	4.0	5.6	4.9

問15 あなたが健康づくりを進めるうえで、どのような環境が整備されているとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・「簡単にできる運動メニュー（ウォーキングや体操など）の情報提供」が50.1%で最も多く、約半数の人が挙げている。次いで「野菜メニューの提供やカロリー表示などのある飲食店」（28.9%）、「自治会・町内会、団体等が自主的に開催する健康づくり教室などへの支援」（24.0%）、「終日禁煙としている飲食店や公共施設」（17.9%）、「その他」（7.2%）と続く。「わからない」は11.5%となっている。



■ 性別・年齢別 健康づくりを進めるうえで整備されているとよい環境（問15×F1, 2）

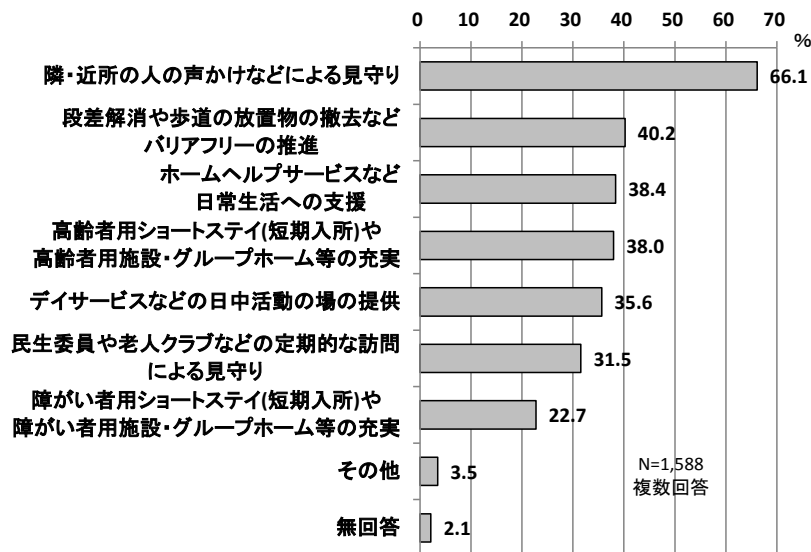
- ・男女とも「簡単にできる運動メニュー（ウォーキングや体操など）の情報提供」が最も多い。また、女性は男性より「野菜メニューの提供やカロリー表示などのある飲食店」の数値が9.6ポイント高くなっている。
- ・年齢別では、いずれの世代でも「簡単にできる運動メニュー（ウォーキングや体操など）の情報提供」が最も多くなっている。また、「自治会・町内会、団体等が自主的に開催する健康づくり教室などへの支援」は年齢層が高いほど数値が高く、70歳代以上では全体値を10ポイント以上上回っている。「終日禁煙としている飲食店や公共施設」は若い年齢層で数値が高い傾向にある。

	合計	問15 健康づくりを進めるうえで、整備されているとよいと思う環境							
		食店	野菜メニューの提供やカロリー表示などのある飲食店	体操など（ウォーキングや）の情報提供	簡単にできる運動メニュー（ウォーキングや体操など）の情報提供	自治会・町内会、団体等が自主的に開催する健康づくり教室などへの支援	終日禁煙としている飲食店や公共施設	その他	わからない
全体	1588	28.9	50.1	24.0	17.9	7.2	11.5	3.8	
F1 性別	男性	691	24.3	50.1	23.0	16.1	9.6	13.3	2.5
	女性	847	33.9	51.1	25.3	20.0	5.5	9.9	2.7
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	37.8	44.5	10.1	23.5	6.7	13.4	0.0
	30歳代	184	30.4	45.1	17.9	26.6	10.3	12.0	0.0
	40歳代	278	31.3	43.9	19.8	23.0	9.4	13.3	1.4
	50歳代	204	31.9	51.0	22.5	20.1	5.4	12.7	2.0
	60歳代	310	27.1	56.8	25.5	11.3	6.8	10.6	2.9
	70歳代以上	425	25.9	54.4	35.1	13.6	6.1	9.6	5.9

7. 高齢者福祉・障がい者福祉について

問16 誰もが地域で安心して暮らしていくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・「隣・近所の人声かけなどによる見守り」が66.1%で最も多い。次いで「段差解消や歩道の放置物の撤去などバリアフリーの推進」(40.2%)を4割が挙げている。以下「ホームヘルプサービスなど日常生活への支援」(38.4%)、「高齢者用ショートステイ(短期入所)や高齢者用施設・グループホーム等の充実」(38.0%)、「デイサービスなどの日中活動の場の提供」(35.6%)、「民生委員や老人クラブなどの定期的な訪問による見守り」(31.5%)をいずれも3割以上が挙げている。



■ 性別・年齢別 誰もが地域で安心して暮らしていくために力を入れるべきこと (問16×F1, 2)

- ・男女とも「隣・近所の人声かけなどによる見守り」が最も多い。
- ・年齢別では、いずれの世代でも「隣・近所の人声かけなどによる見守り」が最も多くなっている。また、50歳代では「段差解消や歩道の放置物の撤去などバリアフリーの推進」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

	合計	問16 誰もが地域で安心して暮らしていくために力を入れるべきだと思うこと									
		隣・近所の人声かけなどによる見守り	見守り	民生委員や老人クラブによる定期的な訪問	ホームヘルプサービスなど日常生活への支援	活動の場の提供	デイサービスなどの日中活動の場の提供	施設・グループホーム等の充実	高齢者用ショートステイ(短期入所)やグループホーム等の充実	障がい者用施設・グループホーム等の充実	その他
全体	1588	66.1	31.5	38.4	35.6	38.0	22.7	40.2	3.5	2.1	
F1 性別											
男性	691	66.0	33.1	36.2	33.3	34.3	19.1	37.0	3.3	1.3	
女性	847	67.1	30.7	40.1	38.8	42.1	26.2	43.4	3.8	1.5	
F2 年齢(年代別)											
20歳代	119	62.2	20.2	31.9	37.8	25.2	19.3	37.8	1.7	0.0	
30歳代	184	65.8	31.0	34.2	40.2	32.6	22.3	32.6	5.4	1.1	
40歳代	278	61.5	33.5	45.0	40.3	39.6	28.1	40.3	3.2	1.1	
50歳代	204	60.3	33.3	43.6	35.3	40.2	26.5	51.0	2.9	1.5	
60歳代	310	64.8	25.8	38.4	36.8	38.7	20.0	39.7	3.9	1.9	
70歳代以上	425	76.0	38.4	34.8	30.1	43.1	20.9	40.5	3.5	2.1	

■ 居住地区別 誰もが地域で安心して暮らしていくために力を入れるべきこと（問16×F3）

・いずれの地区でも「隣・近所の人声かけなどによる見守り」が最も多い。なお、サンプル数はやや少ないが、上飯田団地といちよう団地では「民生委員や老人クラブなどの定期的な訪問による見守り」の数値が全体値を大きく上回っている。

	合計	問16 誰もが地域で安心して暮らしていくために力を入れるべきだと思うこと																	
		ど隣に・近所の人声かけなどによる見守り	見守りの定期的な訪問による見守り	民生委員や老人クラブによる見守り	日常生活への支援	活動の場の提供	デイサービスの提供	施設の実施	（短期入所）グループホーム等	高齢者用施設の実施	障害者用施設の実施	障がい者用施設の実施	の推進	の撤去	の解消	の歩道の整備	の放置物の撤去	その他	無回答
全体	1588	66.1	31.5	38.4	35.6	38.0	22.7	40.2	3.5	2.1									
F3 連合																			
中川エリア	256	70.3	26.2	41.8	43.0	40.6	24.2	39.1	3.1	0.0									
緑園エリア	175	61.7	29.1	40.0	36.0	45.1	22.3	40.6	4.6	0.0									
新橋エリア	80	66.3	38.8	35.0	36.3	33.8	20.0	35.0	5.0	2.5									
和泉北部エリア	69	73.9	37.7	39.1	34.8	46.4	20.3	37.7	1.4	0.0									
和泉中央エリア	272	64.7	32.4	36.4	33.8	36.0	20.2	44.9	4.4	0.7									
下和泉エリア	60	78.3	31.7	28.3	35.0	35.0	23.3	35.0	3.3	0.0									
富士見が丘エリア	85	61.2	34.1	43.5	38.8	40.0	24.7	27.1	3.5	3.5									
上飯田エリア	129	66.7	34.1	38.0	37.2	38.0	24.8	40.3	4.7	2.3									
上飯田団地エリア	23	78.3	52.2	26.1	30.4	30.4	13.0	39.1	0.0	8.7									
いちよう団地エリア	27	63.0	48.1	29.6	40.7	40.7	25.9	40.7	7.4	3.7									
中田エリア	305	66.2	28.9	39.3	32.1	35.1	23.3	43.6	2.6	3.0									
しらゆりエリア	58	60.3	32.8	39.7	31.0	34.5	27.6	46.6	1.7	1.7									

■ 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者、要介護者の有無別 誰もが地域で安心して暮らしていくために力を入れるべきこと（問16×F5）

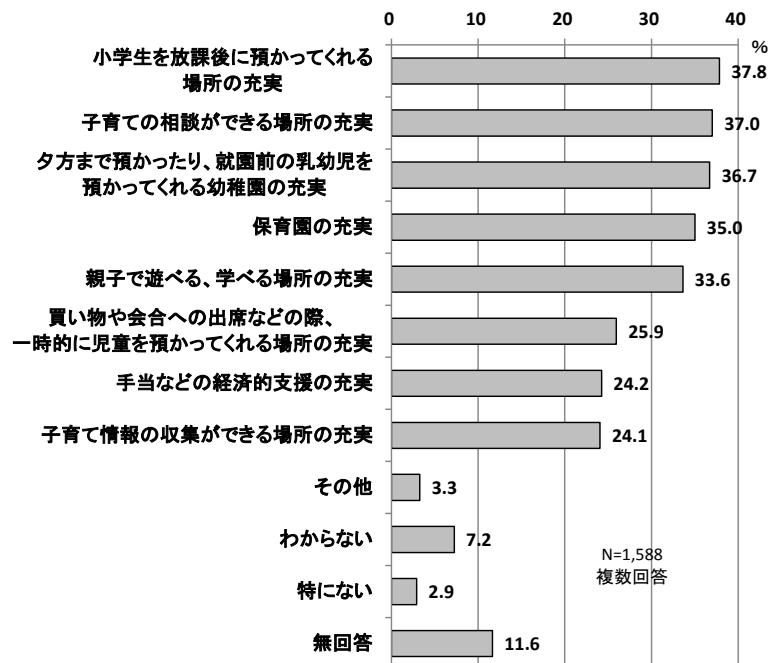
・いずれのケースでも「隣・近所の人声かけなどによる見守り」が最も多い。また、要介護など支援を要する人のいるケースで「高齢者用ショートステイ（短期入所）や高齢者用施設・グループホーム等の充実」「障がい者用ショートステイ（短期入所）や障がい者用施設・グループホーム等の充実」が、それぞれ全体値を10ポイント以上上回っている。

	合計	問16 誰もが地域で安心して暮らしていくために力を入れるべきだと思うこと																	
		ど隣に・近所の人声かけなどによる見守り	見守りの定期的な訪問による見守り	民生委員や老人クラブによる見守り	日常生活への支援	活動の場の提供	デイサービスの提供	施設の実施	（短期入所）グループホーム等	高齢者用施設の実施	障害者用施設の実施	障がい者用施設の実施	の推進	の撤去	の解消	の歩道の整備	の放置物の撤去	その他	無回答
全体	1588	66.1	31.5	38.4	35.6	38.0	22.7	40.2	3.5	2.1									
F5 同居されている方																			
乳幼児・未就学児	166	71.1	28.9	37.3	42.8	37.3	24.1	31.9	2.4	0.0									
小学生・中学生	213	65.7	31.9	40.4	43.7	37.6	25.8	38.5	4.7	1.4									
高校生・専門学校生・大学生	195	62.6	35.4	42.1	35.9	37.4	24.1	44.1	2.6	0.5									
65歳以上の高齢者	457	68.5	31.7	38.5	35.2	41.1	22.3	46.2	3.7	1.8									
要介護など支援を要する人	91	60.4	30.8	39.6	45.1	50.5	38.5	49.5	7.7	2.2									
1～5に当てはまる同居者はいない	357	63.9	30.5	42.0	34.7	37.3	21.8	38.7	3.6	1.4									

8. 子育て支援について

問17 (乳幼児期から小学生くらいまでのお子さんをお持ちの)子育て中の家庭を支援するため、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・「小学生を放課後に預かってくれる場所の充実」が37.8%で最も多いが、「子育ての相談ができる場所の充実」(37.0%)、「夕方まで預かったり、就園前の乳幼児を預かってくれる幼稚園の充実」(36.7%)、「保育園の充実」(35.0%)、「親子で遊べる、学べる場所の充実」(33.6%)についても3割以上が挙げており、要望項目は多くなっている。以下「買い物や会合への出席などの際、一時的に児童を預かってくれる場所の充実」(25.9%)、「手当などの経済的支援の充実」(24.2%)、「子育て情報の収集ができる場所の充実」(24.1%)と続き、「特にない」は2.9%にとどまっている。



■ 性別・年齢別 子育て中の家庭を支援するため力を入れるべきこと（問17×F1, 2）

- ・男性は「夕方まで預かったり、就園前の乳幼児を預かってくれる幼稚園の充実」、女性は「小学生を放課後に預かってくれる場所の充実」が最も多い。
- ・年齢別では、20歳代で「親子で遊べる、学べる場所の充実」、30歳代、40歳代、70歳代以上で「小学生を放課後に預かってくれる場所の充実」、50歳代、60歳代で「子育ての相談ができる場所の充実」が最も多くなっている。また、20歳代では「手当などの経済的支援の充実」、30歳代で「親子で遊べる、学べる場所の充実」「買い物や会合への出席などの際、一時的に児童を預かってくれる場所の充実」「手当などの経済的支援の充実」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

		合計	問17 子育て中の家庭を支援するため力を入れるべきこと													
			所 親 子 で 遊 べ る 、 学 べ る 場 所 の 充 実	所 育 て の 相 談 が で き る 場 所 の 充 実	子 育 て の 情 報 の 取 集 が で き る 場 所 の 充 実	保 育 園 の 充 実	幼 稚 園 の 充 実	夕 方 ま で 預 か つ て く れ る 幼 稚 園 の 充 実	預 か つ て く れ る 幼 稚 園 の 充 実	買 い 物 や 会 合 へ の 出 席 な ど の 際 、 一 時 的 に 児 童 を 預 か つ て く れ る 場 所 の 充 実	小 学 生 を 放 課 後 に 預 か つ て く れ る 場 所 の 充 実	充 実	手 当 な ど の 経 済 的 支 援 の 充 実	そ の 他	わ か ら な い	特 に な い
全体		1588	33.6 [!]	37.0 [!]	24.1 [!]	35.0 [!]	36.7 [!]	25.9 [!]	37.8 [!]	24.2 [!]	3.3 [!]	7.2 [!]	2.9 [!]	11.6		
F1 性別	男性	691	34.4 [!]	34.9 [!]	22.4 [!]	37.6 [!]	38.4 [!]	21.3 [!]	34.9 [!]	24.9 [!]	3.6 [!]	8.0 [!]	3.0 [!]	8.5		
	女性	847	33.5 [!]	39.8 [!]	26.3 [!]	34.6 [!]	36.4 [!]	30.0 [!]	40.9 [!]	24.8 [!]	3.0 [!]	6.6 [!]	2.7 [!]	12.5		
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	57.1 [!]	37.8 [!]	33.6 [!]	41.2 [!]	44.5 [!]	25.2 [!]	28.6 [!]	42.0 [!]	0.8 [!]	5.0 [!]	0.0 [!]	6.7		
	30歳代	184	47.3 [!]	38.0 [!]	29.9 [!]	40.2 [!]	44.0 [!]	40.2 [!]	48.4 [!]	45.7 [!]	8.2 [!]	2.7 [!]	1.1 [!]	3.3		
	40歳代	278	40.6 [!]	38.5 [!]	24.8 [!]	33.8 [!]	38.5 [!]	31.7 [!]	44.2 [!]	32.7 [!]	3.2 [!]	8.3 [!]	2.9 [!]	0.7		
	50歳代	204	28.9 [!]	45.1 [!]	26.5 [!]	43.6 [!]	38.7 [!]	22.5 [!]	37.7 [!]	20.1 [!]	2.5 [!]	7.8 [!]	3.9 [!]	6.9		
	60歳代	310	24.5 [!]	41.3 [!]	24.8 [!]	37.4 [!]	38.7 [!]	26.5 [!]	39.7 [!]	19.0 [!]	1.3 [!]	7.4 [!]	1.6 [!]	12.9		
	70歳代以上	425	26.6 [!]	30.1 [!]	18.8 [!]	29.4 [!]	29.4 [!]	18.1 [!]	31.8 [!]	11.8 [!]	3.5 [!]	8.9 [!]	4.2 [!]	22.6		

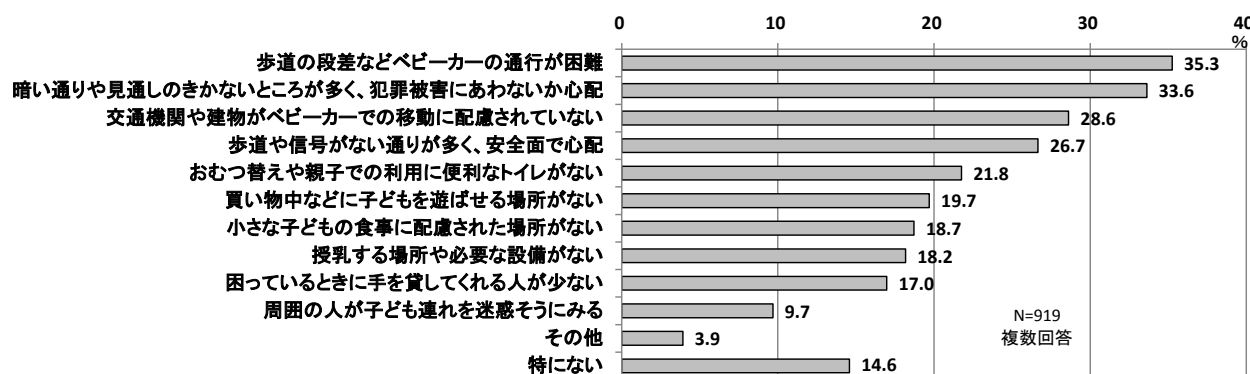
■ 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者、要介護者の有無別 子育て中の家庭を支援するため力を入れるべきこと（問17×F5）

- ・乳幼児・未就学児がいるケースでは「親子で遊べる、学べる場所の充実」、小学生・中学生がいるケースでは「小学生を放課後に預かってくれる場所の充実」、高校生・専門学校生・大学生がいるケースでは「夕方まで預かったり、就園前の乳幼児を預かってくれる幼稚園の充実」、65歳以上の高齢者、要介護など支援を要する人がいるケースでは「子育ての相談ができる場所の充実」、これらに該当する人がいないケースでは「保育園の充実」が最も多くなっている。また、乳幼児・未就学児で「買い物や会合への出席などの際、一時的に児童を預かってくれる場所の充実」「小学生を放課後に預かってくれる場所の充実」「手当などの経済的支援の充実」が、小学生・中学生のいるケースで「親子で遊べる、学べる場所の充実」「手当などの経済的支援の充実」が、それぞれ全体値を10ポイント以上上回っている。

		合計	問17 子育て中の家庭を支援するため力を入れるべきこと													
			所 親 子 で 遊 べ る 、 学 べ る 場 所 の 充 実	所 育 て の 相 談 が で き る 場 所 の 充 実	子 育 て の 情 報 の 取 集 が で き る 場 所 の 充 実	保 育 園 の 充 実	幼 稚 園 の 充 実	夕 方 ま で 預 か つ て く れ る 幼 稚 園 の 充 実	預 か つ て く れ る 幼 稚 園 の 充 実	買 い 物 や 会 合 へ の 出 席 な ど の 際 、 一 時 的 に 児 童 を 預 か つ て く れ る 場 所 の 充 実	小 学 生 を 放 課 後 に 預 か つ て く れ る 場 所 の 充 実	充 実	手 当 な ど の 経 済 的 支 援 の 充 実	そ の 他	わ か ら な い	特 に な い
全体		1588	33.6 [!]	37.0 [!]	24.1 [!]	35.0 [!]	36.7 [!]	25.9 [!]	37.8 [!]	24.2 [!]	3.3 [!]	7.2 [!]	2.9 [!]	11.6		
F5 同居されている方	乳幼児・未就学児	166	59.0 [!]	32.5 [!]	28.3 [!]	37.3 [!]	38.6 [!]	44.6 [!]	52.4 [!]	51.2 [!]	5.4 [!]	0.0 [!]	0.6 [!]	2.4		
	小学生・中学生	213	45.1 [!]	35.2 [!]	27.7 [!]	28.6 [!]	37.6 [!]	34.3 [!]	50.7 [!]	46.5 [!]	5.6 [!]	1.4 [!]	1.9 [!]	3.3		
	高校生・専門学校生・大学生	195	37.4 [!]	46.2 [!]	29.2 [!]	40.5 [!]	46.7 [!]	25.1 [!]	41.5 [!]	28.2 [!]	1.0 [!]	2.1 [!]	1.5 [!]	3.6		
	65歳以上の高齢者	457	31.5 [!]	38.5 [!]	24.5 [!]	35.0 [!]	36.3 [!]	26.3 [!]	37.0 [!]	18.2 [!]	3.1 [!]	9.8 [!]	3.7 [!]	9.4		
	要介護など支援を要する人	91	34.1 [!]	42.9 [!]	25.3 [!]	31.9 [!]	34.1 [!]	24.2 [!]	35.2 [!]	18.7 [!]	2.2 [!]	9.9 [!]	2.2 [!]	14.3		
	1～5に当てはまる同居者はいない	357	29.4 [!]	40.6 [!]	24.4 [!]	42.0 [!]	38.9 [!]	25.2 [!]	36.4 [!]	24.4 [!]	3.1 [!]	8.7 [!]	1.1 [!]	10.6		

問18 (乳幼児期から小学生くらいまでの子どもと一緒に外出した経験のある方)外出する際に、困ることや困ったことは、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

- ・「歩道の段差などベビーカーの通行が困難」が 35.3%で最も多く、「暗い通りや見通しのきかないところが多く、犯罪被害にあわないか心配」が 33.6%で続いている。以下「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」(28.6%)、「歩道や信号がない通りが多く、安全面で心配」(26.7%)、「おむつ替えや親子での利用に便利なトイレがない」(21.8%)を2割以上の方が挙げている。「特にない」は 14.6%である。



■ 性別・年齢別 子どもと一緒に外出する際に、困ることや困ったこと (問18×F1, 2)

- ・男女とも「歩道の段差などベビーカーの通行が困難」が最も多い。特に女性は男性より9ポイント高くなっている。また、女性は「授乳する場所や必要な設備がない」が男性より8.3ポイント高く、男性は女性より「特にない」が8.2ポイント高くなっている。
- ・年齢別では、20歳代、40歳代、70歳代以上で「暗い通りや見通しのきかないところが多く、犯罪被害にあわないか心配」、30歳代と50歳代、60歳代で「歩道の段差などベビーカーの通行が困難」が最も多くなっている。また、30歳代では「買い物中などに子どもを遊ばせる場所がない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

		合計	問18 外出する際に、困ることや困ったこと														
			多歩道や安全面での心配が	カーの通行が困難	歩道の段差などベビーカー	ていでの移動に配慮され	力交通機関や建物が	授乳する場所や必要な設	用におむつ替えや親子での利	慮された子どもの食事に配	遊ばせる場所がない	買い物中などに子どもを	被害にあわないか心配	暗い通りや見通しのきか	迷惑そうにみる	周囲の人が子ども連れを	困っているときに手を貸
全体		919	26.7	35.3	28.6	18.2	21.8	18.7	19.7	18.6	33.6	9.7	17.0	3.9	14.6		
F 1 性別	男性	401	28.2	30.2	27.4	13.5	20.4	16.0	16.2	29.4	7.0	13.0	4.7	19.0			
	女性	500	25.6	39.2	29.6	21.8	22.6	21.0	22.6	37.4	12.2	20.4	3.4	10.8			
F 2 年齢(年代別)	20歳代	59	33.9	32.2	35.6	23.7	28.8	20.3	18.6	45.8	15.3	11.9	1.7	3.4			
	30歳代	128	33.6	38.3	30.5	25.0	31.3	18.8	32.0	33.6	12.5	22.7	5.5	9.4			
	40歳代	203	27.1	34.5	31.0	20.7	19.7	23.6	22.2	36.5	12.3	15.8	2.5	11.3			
	50歳代	142	19.7	45.1	31.7	16.2	22.5	17.6	15.5	33.1	9.2	13.4	4.2	14.8			
	60歳代	174	26.4	32.2	29.3	13.8	16.7	17.8	17.2	28.7	5.7	16.1	3.4	16.7			
	70歳代以上	182	26.4	31.3	19.2	15.4	19.2	14.3	15.9	33.0	7.7	20.9	5.5	23.1			

■ 居住地区別 子どもと外出する際に、困ることや困ったこと（問18×F3）

- ・中川、和泉北部、和泉中央、しらゆりでは「歩道の段差などベビーカーの通行が困難」、緑園では「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」、新橋、富士見が丘、上飯田、いちょう団地では「暗い通りや見通しのきかないところが多く、犯罪被害にあわないか心配」、下和泉、中田では「歩道や信号がない通りが多く、安全面で心配」が最も多くなっている。上飯田団地ではサンプル数が少ないため回答が分散した。

		合計	問18 外出する際に、困ることや困ったこと													
			多歩道や安全面で心配通りが	カーの段差などベビー	てカ交通機関や建物に配慮され	備授乳する場所や必要な設	用におむつ替えや親子での利	慮された子どもの食事に配	遊ばせる場所がない	買物中などに子どもを	被害にあわないか心配	暗い通りや見通しのきか	迷惑そうにみる	周囲の人が子ども連れを	困っているときに手を貸	その他
全体		919	26.7	35.3	28.6	18.2	21.8	18.7	19.7	33.6	9.7	17.0	3.9	14.6		
F3 連合	中川エリア	162	23.5	39.5	32.1	19.8	23.5	20.4	17.9	32.7	9.3	19.1	5.6	11.7		
	緑園エリア	106	11.3	34.0	37.7	17.0	23.6	17.9	25.5	17.9	8.5	17.0	9.4	17.9		
	新橋エリア	42	31.0	31.0	28.6	28.6	26.2	16.7	16.7	57.1	16.7	21.4	4.8	7.1		
	和泉北部エリア	45	11.1	31.1	20.0	17.8	20.0	24.4	17.8	26.7	13.3	20.0	0.0	20.0		
	和泉中央エリア	155	29.7	41.9	31.6	15.5	17.4	20.6	18.7	33.5	7.7	13.5	3.2	12.3		
	下和泉エリア	31	51.6	29.0	16.1	9.7	9.7	16.1	9.7	38.7	3.2	19.4	3.2	22.6		
	富士見が丘エリア	48	39.6	35.4	25.0	16.7	18.8	22.9	14.6	45.8	8.3	16.7	4.2	10.4		
	上飯田エリア	71	23.9	31.0	22.5	23.9	31.0	23.9	25.4	49.3	9.9	14.1	1.4	9.9		
	上飯田団地エリア	9	22.2	33.3	11.1	22.2	33.3	33.3	22.2	33.3	33.3	22.2	0.0	44.4		
	いちょう団地エリア	18	27.8	22.2	16.7	11.1	22.2	16.7	22.2	50.0	16.7	22.2	5.6	22.2		
	中田エリア	179	34.6	33.0	26.8	17.9	20.1	12.8	18.4	31.8	10.1	18.4	1.7	15.1		
	しらゆりエリア	32	18.8	37.5	31.3	18.8	28.1	15.6	25.0	21.9	9.4	6.3	6.3	21.9		

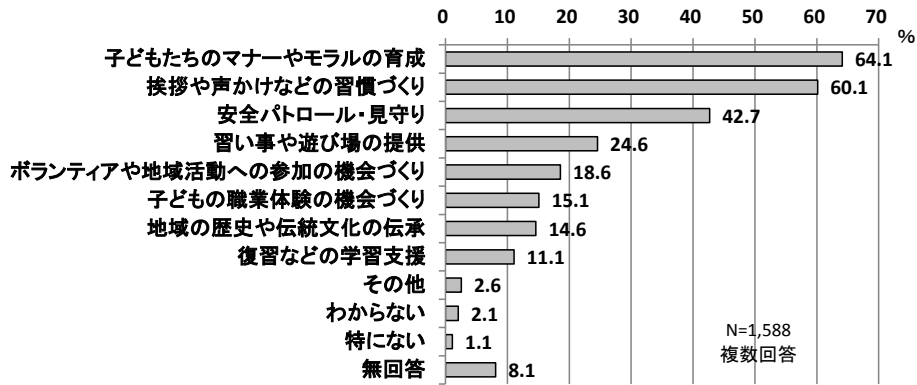
■ 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者、要介護者の有無別 子どもと外出する際に、困ることや困ったこと（問18×F5）

- ・小学生・中学生、高校生・専門学校生・大学生がいるケースでは「暗い通りや見通しのきかないところが多く、犯罪被害にあわないか心配」、それ以外のケースでは「歩道の段差などベビーカーの通行が困難」が最も多くなっている。また、乳幼児・未就学児では「授乳する場所や必要な設備がない」「おむつ替えや親子での利用に便利なトイレがない」「小さな子どもの食事に配慮された場所がない」「買物中などに子どもを遊ばせる場所がない」がそれぞれ全体値を10ポイント以上超え、困りごとが多くなっている。

		合計	問18 外出する際に、困ることや困ったこと													
			多歩道や安全面で心配通りが	カーの段差などベビー	てカ交通機関や建物に配慮され	備授乳する場所や必要な設	用におむつ替えや親子での利	慮された子どもの食事に配	遊ばせる場所がない	買物中などに子どもを	被害にあわないか心配	暗い通りや見通しのきか	迷惑そうにみる	周囲の人が子ども連れを	困っているときに手を貸	その他
全体		919	26.7	35.3	28.6	18.2	21.8	18.7	19.7	33.6	9.7	17.0	3.9	14.6		
F5 同居されている方	乳幼児・未就学児	160	35.0	45.0	36.9	30.6	35.6	31.9	32.5	31.3	17.5	15.0	3.1	3.1		
	小学生・中学生	194	28.4	30.9	27.8	22.2	20.1	18.6	26.8	40.7	11.9	18.0	4.1	9.3		
	高校生・専門学校生・大学生	155	23.2	39.4	31.6	16.1	24.5	20.0	19.4	40.0	12.3	20.0	1.3	7.7		
	65歳以上の高齢者	241	26.1	34.4	25.3	14.1	18.3	18.3	17.8	32.8	5.0	17.8	2.9	16.2		
	要介護など支援を要する人	54	22.2	44.4	27.8	14.8	24.1	16.7	24.1	40.7	9.3	27.8	1.9	13.0		
	1～5に当てはまる同居者はいない	162	24.7	34.6	24.7	14.8	15.4	14.2	10.5	28.4	6.2	13.0	6.2	22.8		

問19 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割として、あなたが特に重要だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「子どもたちのマナーやモラルの育成」が64.1%、「挨拶や声かけなどの習慣づくり」が60.1%で、これらは6割以上の方が挙げている。以下「安全パトロール・見守り」(42.7%)、「習い事や遊び場の提供」(24.6%)などと続く。



■ 性別・年齢別 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割 (問19×F1, 2)

- ・男女とも「子どもたちのマナーやモラルの育成」が最も多い。また女性は男性より「安全パトロール・見守り」が8.3ポイント高くなっている。
- ・年齢別では、70歳代以上で「挨拶や声かけなどの習慣づくり」、60歳代までの世代で「子どもたちのマナーやモラルの育成」が最も多くなっている。また、20歳代、30歳代では「習い事や遊び場の提供」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

		問19 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割として特に重要だと思うもの													
		合計	子どもたちのマナーやモラルの育成	挨拶や声かけなどの習慣づくり	安全パトロール・見守り	活動への参加の機会づくり	ボランティアや地域活動への参加の機会づくり	子どもの職業体験の機会づくり	復習などの学習支援	習い事や遊び場の提供	地域の歴史や伝統文化の伝承	その他	わからない	特にない	無回答
全体		1588	64.1	60.1	42.7	18.6	15.1	11.1	24.6	14.6	2.6	2.1	1.1	8.1	
F 1 性別	男性	691	66.7	58.3	39.1	18.4	13.9	9.7	26.8	16.5	2.9	2.2	1.4	5.5	
	女性	847	63.2	62.9	47.3	19.1	16.3	12.5	23.7	13.5	2.4	1.8	0.8	8.5	
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	64.7	57.1	52.1	16.8	18.5	7.6	51.3	10.9	1.7	1.7	0.0	4.2	
	30歳代	184	64.7	60.9	49.5	19.0	19.6	20.7	38.0	15.8	3.3	2.7	0.0	1.6	
	40歳代	278	70.5	64.0	41.7	17.3	24.8	16.9	30.2	12.2	2.2	2.2	0.7	2.2	
	50歳代	204	72.1	60.3	51.5	16.7	14.2	5.4	15.2	10.8	2.5	1.5	2.0	2.9	
	60歳代	310	66.1	62.6	42.6	22.9	12.9	6.5	21.0	18.7	2.6	2.3	0.6	5.5	
	70歳代以上	425	56.9	59.1	37.2	18.6	8.9	11.1	16.9	16.2	2.8	1.6	1.6	17.2	

■ 居住地区別 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割（問 19×F 3）

- ・緑園と新橋、富士見が丘では「挨拶や声かけなどの習慣づくり」、それ以外の地区では「子どもたちのマナーやモラルの育成」が最も多くなっている。また、上飯田では「安全パトロール・見守り」の数値が全体値を 10 ポイント上回っている。

	合計	問19 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割として特に重要だと思うもの												
		子どもたちのマナーの育成	挨拶や声かけなどの習慣づくり	安全パトロール・見守り	活動への参加の機会	ボランティアや地域の活動	子どもの職業体験の機会づくり	復習などの学習支援	供養や遊び場の提供	習い事や遊び場の提供	地域の歴史や伝統文化の伝承	その他	わからない	特になし
全体	1588	64.1	60.1	42.7	18.6	15.1	11.1	24.6	14.6	2.6	2.1	1.1	8.1	
F 3 連合														
中川エリア	256	69.5	65.6	45.3	18.4	15.6	10.2	24.6	13.7	1.2	2.0	0.4	3.9	
緑園エリア	175	61.1	68.6	45.1	19.4	17.7	7.4	20.6	13.1	5.7	5.1	1.7	2.3	
新橋エリア	80	55.0	65.0	37.5	18.8	15.0	16.3	25.0	12.5	5.0	1.3	0.0	10.0	
和泉北部エリア	69	65.2	63.8	46.4	20.3	8.7	7.2	24.6	13.0	0.0	0.0	2.9	7.2	
和泉中央エリア	272	64.3	58.1	42.3	19.9	16.5	11.8	28.7	18.4	2.9	1.5	1.5	8.5	
下和泉エリア	60	56.7	51.7	33.3	15.0	13.3	15.0	28.3	21.7	0.0	3.3	0.0	20.0	
富士見が丘エリア	85	63.5	65.9	51.8	24.7	18.8	12.9	34.1	18.8	1.2	1.2	0.0	7.1	
上飯田エリア	129	63.6	58.9	52.7	20.9	10.1	13.2	28.7	15.5	4.7	0.8	0.0	7.0	
上飯田団地エリア	23	56.5	47.8	34.8	8.7	8.7	8.7	13.0	13.0	4.3	8.7	4.3	21.7	
いちょう団地エリア	27	77.8	63.0	44.4	11.1	18.5	18.5	25.9	11.1	3.7	0.0	3.7	3.7	
中田エリア	305	66.2	54.8	39.0	17.0	15.4	10.2	21.3	13.4	1.3	1.3	1.6	8.2	
しらゆりエリア	58	70.7	60.3	44.8	19.0	19.0	17.2	22.4	6.9	3.4	3.4	0.0	8.6	

■ 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者、要介護者の有無別 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割（問 19×F 5）

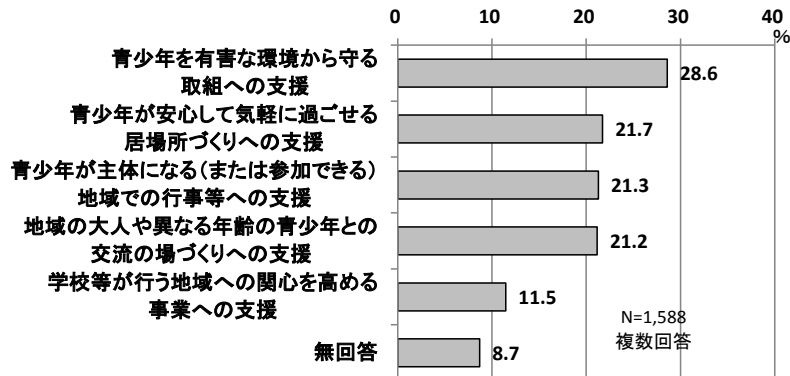
- ・乳幼児・未就学児がいるケースでは「挨拶や声かけなどの習慣づくり」が最も多く、小学生・中学生がいるケースでは「子どもたちのマナーやモラルの育成 挨拶や声かけなどの習慣づくり」が同率となっている。それ以外のケースでは「子どもたちのマナーやモラルの育成」が最も多い。また、乳幼児・未就学児がいるケースで「子どもの職業体験の機会づくり」「習い事や遊び場の提供」、小学生・中学生がいるケースで「子どもの職業体験の機会づくり」「復習などの学習支援」「習い事や遊び場の提供」が、それぞれ全体値を 10 ポイント以上上回っている。

	合計	問19 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割として特に重要だと思うもの												
		子どもたちのマナーの育成	挨拶や声かけなどの習慣づくり	安全パトロール・見守り	活動への参加の機会	ボランティアや地域の活動	子どもの職業体験の機会づくり	復習などの学習支援	供養や遊び場の提供	習い事や遊び場の提供	地域の歴史や伝統文化の伝承	その他	わからない	特になし
全体	1588	64.1	60.1	42.7	18.6	15.1	11.1	24.6	14.6	2.6	2.1	1.1	8.1	
F 5 同居されている方														
乳幼児・未就学児	166	65.1	72.9	52.4	16.3	25.3	20.5	47.6	15.1	2.4	0.6	0.0	0.6	
小学生・中学生	213	68.1	68.1	52.6	22.5	27.2	23.9	36.2	16.4	0.9	0.0	0.9	2.3	
高校生・専門学校生・大学生	195	69.2	62.6	45.6	16.4	16.9	12.3	28.7	15.4	2.6	1.0	1.5	3.1	
65歳以上の高齢者	457	66.5	59.1	40.0	17.9	13.8	9.4	24.1	16.0	2.4	2.2	1.5	8.5	
要介護など支援を要する人	91	63.7	61.5	36.3	20.9	12.1	8.8	17.6	17.6	4.4	3.3	0.0	7.7	
1～5に当てはまる同居者はいない	357	64.4	56.6	44.8	18.8	14.3	7.0	20.4	12.3	3.9	3.4	1.1	5.0	

9. 青少年の育成について

問20 青少年の健全育成のために、区が特に支援すべきことは、次のうちどれだと考えますか。(〇は1つ)

- ・「青少年を有害な環境から守る取組への支援」が28.6%で、3割弱が挙げている。次いで「青少年が安心して気軽に過ごせる居場所づくりへの支援」(21.7%)、「青少年が主体になる(または参加できる)地域での行事等への支援」(21.3%)、「地域の大人や異なる年齢の青少年との交流の場づくりへの支援」(21.2%)がほぼ同率で並ぶ。



■ 性別・年齢別 青少年の健全育成のために、区が特に支援すべきこと (問20×F1, 2)

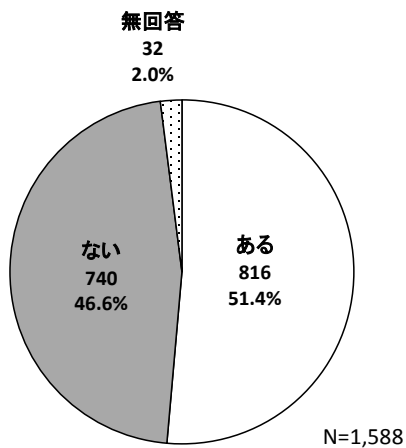
- ・男女とも「青少年を有害な環境から守る取組への支援」が最も多い。さほど顕著な男女差はみられなかった。
- ・年齢別では、20歳代で「青少年が安心して気軽に過ごせる居場所づくりへの支援」、30歳代以上の世代では「青少年を有害な環境から守る取組への支援」が最も多くなっている。

		合計	へる(青 のま少 支地た年 援域はが で参主 の加体 行でに 事きな 等なる	づ軽青 くに少 り過年 へごが のせ安 支る心 援居し 場て 所気	への学 の関校 支心等 援をが 高行 めう る地 事域 業へ	援流年地 の齢域 場のの づ青大 く少人 り年や へと異 ののな 支交る	援か青 ら少 守年 るを 取有 組害 への の環 支境	無 回 答
全体		1588	21.3	21.7	11.5	21.2	28.6	8.7
F 1 性別	男性	691	23.3	19.7	13.0	22.1	27.9	6.8
	女性	847	19.5	23.8	10.4	21.4	29.8	8.6
F 2 年齢(年 代別)	20歳代	119	25.2	28.6	21.0	21.8	15.1	2.5
	30歳代	184	22.3	26.1	11.4	23.4	27.2	2.7
	40歳代	278	19.8	23.7	18.7	25.5	30.2	1.4
	50歳代	204	23.0	17.6	8.3	22.1	37.7	3.9
	60歳代	310	21.3	23.5	10.0	21.6	27.1	7.1
	70歳代以上	425	19.1	18.6	7.1	18.1	30.4	18.4

10. 防災の取組について

問21 地域の防災活動に参加したことがありますか(○は1つ)

- ・「ある」が51.4%で、「ない」の46.6%を4.8ポイント上回っている。



■ 性別・年齢別 地域の防災活動に参加したことの有無 (問21×F1, 2)

- ・男性は「ない」、女性は「ある」が多く、男女で傾向が分かれた。
- ・年齢別では、20歳代から40歳代までの世代では「ない」の方が多く、20歳代では8割を超えている。50歳代以上の世代では「ある」の方が多く、年齢層が高いほど参加率も高い。

	合計	問21 地域の防災活動に参加したことの有無		
		ある	ない	無回答
全体	1588	51.4	46.6	2.0
F 1 性別				
男性	691	48.5	50.4	1.2
女性	847	54.1	44.4	1.5
F 2 年齢(年代別)				
20歳代	119	17.6	82.4	0.0
30歳代	184	21.7	77.2	1.1
40歳代	278	39.9	60.1	0.0
50歳代	204	60.3	39.7	0.0
60歳代	310	66.5	32.6	1.0
70歳代以上	425	68.0	28.0	4.0

■ 居住地区別 地域の防災活動に参加したことの有無（問21×F3）

- ・和泉中央、いちょう団地、中田、しらゆりでは「ない」、それ以外の地区では「ある」の方が多くなっている。和泉北部では参加率が7割を超えている。

		合計	問21 地域の防災活動に参加したことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		1588	51.4	46.6	2.0
F3 連合	中川エリア	256	50.0	48.8	1.2
	緑園エリア	175	56.6	42.9	0.6
	新橋エリア	80	55.0	43.8	1.3
	和泉北部エリア	69	73.9	24.6	1.4
	和泉中央エリア	272	46.3	52.6	1.1
	下和泉エリア	60	50.0	48.3	1.7
	富士見が丘エリア	85	50.6	48.2	1.2
	上飯田エリア	129	58.1	41.1	0.8
	上飯田団地エリア	23	56.5	43.5	0.0
	いちょう団地エリア	27	44.4	55.6	0.0
	中田エリア	305	47.5	49.2	3.3
しらゆりエリア	58	46.6	51.7	1.7	

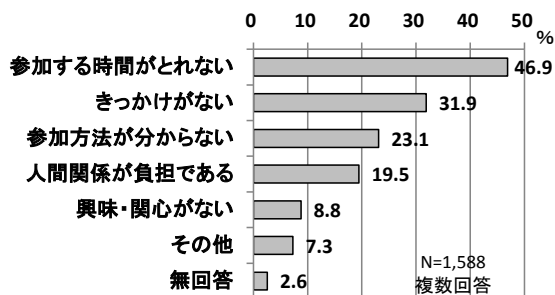
■ 自治会町内会加入状況別 地域の防災活動に参加したことの有無（問21×F10）

- ・自治会町内会に「加入している」ケースでは「ある」が過半数に達し、「加入していない」ケースでは「ない」が8割を超えており、加入率と参加率には顕著な関係性がみられる。

		合計	問21 地域の防災活動に参加したことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		1588	51.4	46.6	2.0
F10 自治会町内会加入状況	加入している	1339	57.0	41.6	1.4
	加入していない	187	14.4	84.5	1.1

問21-1 (問21で「2 ない」と回答した方)その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「参加する時間がとれない」が46.9%で最も多く、半数弱が挙げている。次いで「きっかけがない」(31.9%)、「参加方法が分からない」(23.1%)、「人間関係が負担である」(19.5%)などとなっている。



■ 性別・年齢別 地域の防災活動に参加しない理由 (問21-1 × F1, 2)

- ・男女とも「参加する時間がとれない」が最も多くなっている。
- ・年齢別では、20歳代から50歳代までの世代では「参加する時間がとれない」、60歳代以上の世代では「きっかけがない」が最も多くなっている。

		合計	問21-1 参加したことがない理由						
			興味・関心がない	参加する時間がとれない	参加方法が分からない	きっかけがない	人間関係が負担である	その他	無回答
F1 性別	全体	740	8.8	46.9	23.1	31.9	19.5	7.3	2.6
	男性	348	11.5	45.4	26.1	35.3	19.3	6.9	1.1
	女性	376	6.4	48.1	21.0	29.3	20.5	7.2	3.7
F2 年齢(年代別)	20歳代	98	13.3	55.1	28.6	35.7	17.3	6.1	1.0
	30歳代	142	8.5	54.9	31.0	33.1	16.2	4.2	0.7
	40歳代	167	7.8	57.5	14.4	28.1	22.8	3.6	1.2
	50歳代	81	11.1	61.7	22.2	29.6	17.3	3.7	1.2
	60歳代	101	7.9	31.7	30.7	34.7	22.8	6.9	3.0
	70歳代以上	119	5.9	20.2	15.1	31.9	21.0	19.3	8.4

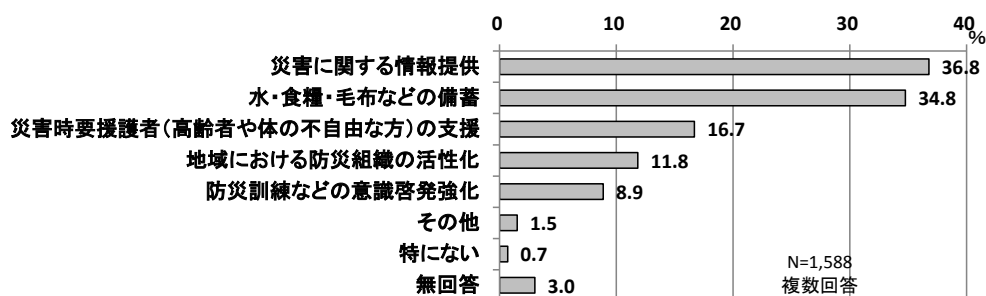
■ 自治会町内会加入状況別 地域の防災活動に参加しない理由 (問21-1 × F10)

- ・自治会町内会に「加入している」「加入していない」とともに「参加する時間がとれない」が最も多くなっている。また、「加入していない」ケースでは「参加方法が分からない」が全体値に比べて10ポイント以上高く、自治会未加入者に対する防災活動への周知が課題となっている。

		合計	問21-1 参加したことがない理由						
			興味・関心がない	参加する時間がとれない	参加方法が分からない	きっかけがない	人間関係が負担である	その他	無回答
全体		740	8.8	46.9	23.1	31.9	19.5	7.3	2.6
F10 自治会町内会加入状況	加入している	557	8.1	50.1	19.9	30.0	19.0	7.7	2.7
	加入していない	158	10.8	40.5	33.5	36.1	21.5	5.7	1.3

問22 災害対策として、行政が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(〇は1つ)

- ・「災害に関する情報提供」が 36.8%、次いで「水・食糧・毛布などの備蓄」が 34.8%となっており、この2つに回答は集中している。以下「災害時要援護者（高齢者や体の不自由な方）の支援」（16.7%）、「地域における防災組織の活性化」（11.8%）などと続く。



■ 性別・年齢別 災害対策として、行政が特に力を入れるべきこと（問22×F1, 2）

- ・男女とも「災害に関する情報提供」が最も多く、男女による差異はみられない。
- ・年齢別では、20歳代から40歳代までの世代では「水・食糧・毛布などの備蓄」が最も多く、年齢層が若いほど数値が高くなっている。50歳代以上の世代では「災害に関する情報提供」が最も多く、50歳代を境に傾向が分かれた。

		合計	問22 災害対策として、行政が特に力を入れるべきこと							
			提 供 に 関 する 情 報	ど の 備 蓄 糧 ・ 毛 布 な	組 織 の 活 性 化 防 災	識 防 災 訓 練 な ど の 意	自 由 な 高 齢 時 要 援 護 者 の 支 援	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		1588	36.8	34.8	11.8	8.9	16.7	1.5	0.7	3.0
F 1 性別	男性	691	35.6	34.9	12.4	9.7	16.2	2.7	1.0	1.2
	女性	847	38.6	35.5	11.7	8.5	17.1	0.5	0.4	3.0
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	29.4	58.0	14.3	7.6	11.8	0.8	0.0	0.0
	30歳代	184	38.0	49.5	7.6	9.2	8.7	2.2	0.0	1.1
	40歳代	278	33.8	48.2	11.9	9.0	13.7	1.4	0.7	0.4
	50歳代	204	48.0	29.4	14.2	9.3	12.7	2.0	0.0	1.0
	60歳代	310	39.7	25.2	12.3	9.7	18.4	0.6	1.0	3.9
	70歳代以上	425	33.6	23.8	12.0	9.2	24.5	1.9	1.2	4.2

■ 居住地区別 災害対策として、行政が特に力を入れるべきこと（問 22×F3）

・新橋、和泉北部、下和泉、中田では「水・食糧・毛布などの備蓄」、それ以外の地区では「災害に関する情報提供」が最も多くなっている。

		合計	問22 災害対策として、行政が特に力を入れるべきこと							
			災害に関する情報提供	水・食糧・毛布などの備蓄	地域における防災の活性化	防災訓練などの意識啓発強化	自由（高齢者や体の不自由な方）の支援	災害時要援護者	その他	特になし
全体		1588	36.8	34.8	11.8	8.9	16.7	1.5	0.7	3.0
F3 連合	中川エリア	256	38.3	37.1	12.5	12.1	18.8	2.0	0.0	0.4
	緑園エリア	175	37.1	32.6	16.6	6.3	13.7	2.3	2.3	1.1
	新橋エリア	80	28.8	41.3	12.5	2.5	18.8	1.3	0.0	6.3
	和泉北部エリア	69	23.2	34.8	20.3	13.0	11.6	1.4	0.0	2.9
	和泉中央エリア	272	40.4	34.2	11.8	8.1	14.7	0.4	0.4	1.8
	下和泉エリア	60	31.7	38.3	5.0	8.3	16.7	1.7	1.7	5.0
	富士見が丘エリア	85	40.0	38.8	8.2	10.6	11.8	1.2	0.0	1.2
	上飯田エリア	129	37.2	30.2	7.0	10.1	24.0	0.8	0.0	3.1
	上飯田団地エリア	23	47.8	26.1	4.3	13.0	21.7	4.3	0.0	4.3
	いちよう団地エリア	27	51.9	33.3	18.5	7.4	25.9	3.7	0.0	0.0
中田エリア	305	35.1	37.0	11.5	9.2	16.4	1.6	1.0	4.3	
しらゆりエリア	58	44.8	24.1	12.1	10.3	15.5	1.7	0.0	1.7	

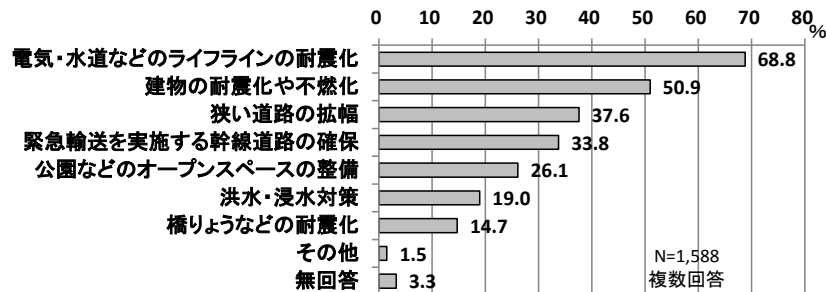
■ 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者、要介護者の有無別 災害対策として、行政が特に力を入れるべきこと（問 22×F5）

・乳幼児・未就学児、小学生・中学生、高校生・専門学校生・大学生がいるケースでは「水・食糧・毛布などの備蓄」、65歳以上の高齢者、要介護など支援を要する人がいるケースとこれらに該当する人がいないケースでは「災害に関する情報提供」が最も多くなっている。また、要介護など支援を要する人がいるケースで「災害時要援護者（高齢者や体の不自由な方）の支援」の数値が特に高く、全体値を大きく上回っている。

		合計	問22 災害対策として、行政が特に力を入れるべきこと							
			災害に関する情報提供	水・食糧・毛布などの備蓄	地域における防災の活性化	防災訓練などの意識啓発強化	自由（高齢者や体の不自由な方）の支援	災害時要援護者	その他	特になし
全体		1588	36.8	34.8	11.8	8.9	16.7	1.5	0.7	3.0
F5 同居されている方	乳幼児・未就学児	166	32.5	54.2	10.8	7.2	7.8	0.6	0.6	1.2
	小学生・中学生	213	36.2	46.0	16.0	10.3	8.5	0.5	0.9	0.0
	高校生・専門学校生・大学生	195	41.5	43.6	13.8	11.3	10.8	2.1	1.0	0.5
	65歳以上の高齢者	457	37.6	27.4	11.2	10.9	20.6	1.3	1.1	3.1
	要介護など支援を要する人	91	36.3	27.5	6.6	6.6	35.2	1.1	0.0	3.3
	1～5に当てはまる同居者はいない	357	36.7	35.9	10.4	8.1	14.6	1.1	0.3	2.0

問23 災害に強いまちづくりを進めるため、重要だと考える施策は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「電気・水道などのライフラインの耐震化」が68.8%で最も多く、7割近い人が挙げている。次いで「建物の耐震化や不燃化」が50.9%である。以下「狭い道路の拡幅」(37.6%)、「緊急輸送を実施する幹線道路の確保」(33.8%)、「公園などのオープンスペースの整備」(26.1%)などと続く。



■ 居住地区別 災害に強いまちづくりを進めるため、重要だと考える施策 (問23×F3)

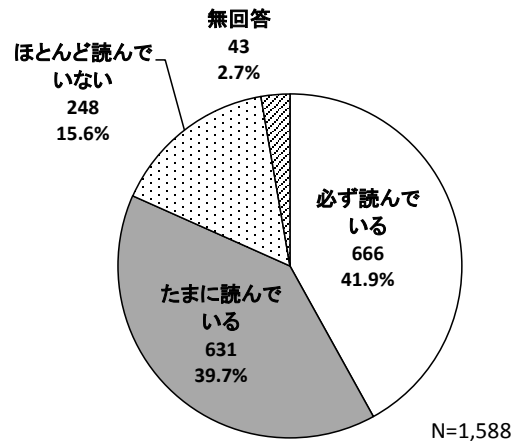
- ・いずれの地区でも「電気・水道などのライフラインの耐震化」が最も多くなっている。

	合計	問23 災害に強いまちづくりを進めるため、重要だと考える施策									
		燃 建 化 物 の 耐 震 化 や 不 燃 化	狭 い 道 路 の 拡 幅	公 園 な ど の オ ー プ ン ス ペ ー ス の 整 備	震 害 に 対 し た 建 物 の 耐 震 化	電 気 ・ 水 道 な ど の ラ イ フ ラ イ ン の 耐 震 化	緊 急 輸 送 を 実 施 す る 幹 線 道 路 の 確 保	震 害 に 対 し た 橋 り ょう な ど の 耐 震 化	洪 水 ・ 浸 水 対 策	そ の 他	無 回 答
全体	1588	50.9	37.6	26.1	68.8	33.8	14.7	19.0	1.5	3.3	
F3 連合											
中川エリア	256	53.1	33.2	29.3	75.4	40.2	20.3	20.3	0.8	1.6	
緑園エリア	175	60.6	18.9	24.0	74.3	33.7	10.3	12.0	2.9	1.1	
新橋エリア	80	51.3	47.5	22.5	72.5	33.8	15.0	17.5	1.3	5.0	
和泉北部エリア	69	56.5	23.2	31.9	66.7	33.3	13.0	17.4	0.0	4.3	
和泉中央エリア	272	44.5	45.2	29.0	64.7	34.9	14.3	20.2	1.8	0.7	
下和泉エリア	60	43.3	51.7	23.3	55.0	35.0	13.3	15.0	1.7	6.7	
富士見が丘エリア	85	49.4	37.6	21.2	74.1	29.4	11.8	22.4	0.0	1.2	
上飯田エリア	129	46.5	41.1	24.8	69.0	28.7	14.0	17.8	3.1	0.8	
上飯田団地エリア	23	69.6	34.8	21.7	73.9	39.1	17.4	34.8	4.3	4.3	
いちょう団地エリア	27	59.3	33.3	33.3	63.0	29.6	29.6	25.9	7.4	3.7	
中田エリア	305	52.1	41.0	25.9	67.9	32.1	13.8	22.0	0.3	5.6	
しらゆりエリア	58	46.6	46.6	20.7	65.5	32.8	12.1	13.8	1.7	1.7	

11. 広報・広聴について

問24 『広報よこはま泉区版』を毎月お配りしていますが、どの程度読まれていますか。(○は1つ)

- ・「必ず読んでいる」が最も多く 41.9%、次いで「たまに読んでいる」が 39.7%で、これらを合わせると 8 割以上の方が広報紙に目を通す機会を持っている。「ほとんど読んでいない」は 15.6%である。



■ 性別・年齢別 『広報よこはま泉区版』の購読程度 (問 24×F 1, 2)

- ・男性は「たまに読んでいる」、女性は「必ず読んでいる」が最も多く、男女で傾向が分かれた。また男性は女性より「ほとんど読んでいない」が 8.7 ポイント高く、男性の購読割合が低い。
- ・年齢別では、20 歳代で「ほとんど読んでいない」、30 歳代から 50 歳代までの世代では「たまに読んでいる」、60 歳代以上の世代では「必ず読んでいる」が最も多く、年齢層が高いほど購読割合も高くなっている。

		合計	問24 『広報よこはま泉区版』の購読程度			
			必ず読んでいる	たまに読んでいる	ほとんど読んでいない	無回答
全体		1588	41.9%	39.7%	15.6%	2.7%
F 1 性別	男性	691	36.8%	40.5%	20.5%	2.2%
	女性	847	46.6%	39.7%	11.8%	1.9%
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	7.6%	35.3%	57.1%	0.0%
	30歳代	184	27.7%	41.3%	29.9%	1.1%
	40歳代	278	28.4%	50.4%	20.1%	1.1%
	50歳代	204	37.3%	49.5%	13.2%	0.0%
	60歳代	310	49.7%	41.0%	6.5%	2.9%
	70歳代以上	425	65.6%	28.0%	2.4%	4.0%

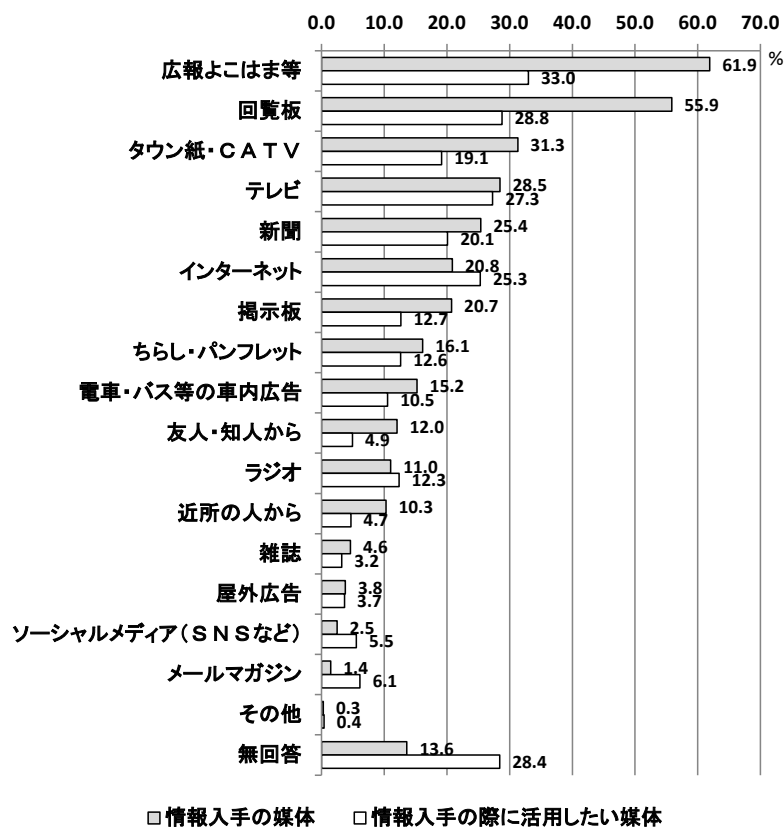
■ 自治会町内会加入状況別 『広報よこはま泉区版』の購読程度 (問 24×F 10)

- ・自治会町内会に「加入している」ケースでは「必ず読んでいる」が最も多いが、「加入していない」ケースでは「たまに読んでいる」が最も多く、「ほとんど読んでいない」も全体値を大きく上回っている。

		合計	問24 『広報よこはま泉区版』の購読程度			
			必ず読んでいる	たまに読んでいる	ほとんど読んでいない	無回答
全体		1588	41.9%	39.7%	15.6%	2.7%
F 10 自治会町内会加入状況	加入している	1339	45.6%	39.1%	13.1%	2.1%
	加入していない	187	20.3%	44.9%	34.2%	0.5%

問25 横浜市や泉区からの情報は、どのような媒体で入手していますか。また、横浜市や泉区からの情報を入手する際に、あれば活用したい媒体は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・情報を入手している媒体としては、「広報よこはま等」が最も多く 61.9%と、6割以上の人が挙げている。次いで「回覧板」が 55.9%である。以下「タウン紙・CATV」(31.3%)、「テレビ」(28.5%)、「新聞」(25.4%)、「インターネット」(20.8%)、「掲示板」(20.7%)などと続く。
- ・活用したい媒体としては、「広報よこはま等」が最も多く 33.0%、次いで「回覧板」が 28.8%で、上位2項目の順位は現在情報を入手している媒体と同様となっている。次いで「テレビ」(27.3%)、「インターネット」(25.3%)の順位が高く、以下「新聞」(20.1%)、「タウン紙・CATV」(19.1%)、「掲示板」(12.7%)などと続く。



■ 性別・年齢別 横浜市や泉区からの情報入手媒体（問 25-1 × F 1, 2）

- ・男女とも「広報よこはま等」が最も多くなっている。また、女性は男性より「友人・知人から」が 8.1 ポイント高い。
- ・年齢別では、20 歳代で「回覧板」、30 歳代以上の世代では「広報よこはま等」が最も多くなっている。また、20 歳代から 40 歳代までの世代で「インターネット」、50 歳代で「タウン紙・CATV」、60 歳代で「回覧板」の数値が全体値に比べてそれぞれ 10 ポイント以上高く、世代による特徴が見られた。

		合計	問25-1 情報入手の媒体																	
			テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	V タウン紙・CAT	ネット	ちらし・パンフ	広報よこはま等	回覧板	掲示板	屋外広告	内広告	電車・バス等の車	友人・知人から	近所の人から	インターネット	メールマガジン	ソーシャルメディア（SNS など）
F 1 性別	全体	1588	28.5	11.0	25.4	4.6	31.3	16.1	61.9	55.9	20.7	3.8	15.2	12.0	10.3	20.8	1.4	2.5	0.3	13.6
	男性	691	27.5	11.9	28.2	3.8	28.4	13.9	59.0	53.1	19.0	2.7	13.7	7.8	8.2	24.0	1.2	2.9	0.4	11.7
	女性	847	30.1	10.4	24.0	5.5	35.3	18.7	66.9	60.3	23.1	4.8	17.1	15.9	12.4	19.2	1.8	2.1	0.1	11.8
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	22.7	3.4	12.5	7.6	21.0	13.4	34.5	44.5	12.6	5.0	21.8	12.6	7.6	33.6	1.7	10.1	1.7	6.7
	30歳代	184	19.6	7.6	15.8	8.7	29.3	19.0	57.6	50.0	23.4	5.4	21.2	15.8	8.7	37.0	4.9	6.5	0.0	8.2
	40歳代	278	26.3	10.4	21.2	4.7	37.4	19.8	61.5	50.0	21.2	5.8	19.4	13.3	11.5	30.9	1.1	2.5	0.0	6.1
	50歳代	204	29.9	7.8	24.0	3.4	42.2	21.1	69.6	62.7	19.6	3.9	14.2	9.3	5.4	19.1	1.0	0.5	0.0	7.8
	60歳代	310	32.9	12.6	31.0	3.2	31.9	14.5	71.6	68.1	21.3	1.3	11.9	10.3	10.0	16.8	0.6	1.0	0.0	10.6
	70歳代以上	425	34.4	16.0	35.1	4.2	29.4	14.4	66.6	58.8	23.8	3.3	12.0	12.9	14.1	8.9	0.9	0.5	0.2	21.2

■ 自治会町内会加入状況別 横浜市や泉区からの情報入手媒体（問 25-1 × F 10）

- ・自治会町内会に「加入している」「加入していない」とともに「広報よこはま等」が最も多くなっているが、「加入している」ケースの方が 16.7 ポイント高くなっている。また、「加入していない」ケースでは「加入している」ケースより「回覧板」で 48.2 ポイント、「新聞」で 12.9 ポイント、「掲示板」が 8.2 ポイント低くなっている一方、「インターネット」で 8.4 ポイント、「電車・バス等の車内広告」では 8.0 ポイント高くなっている。

		合計	問25-1 情報入手の媒体																	
			テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	V タウン紙・CAT	ネット	ちらし・パンフ	広報よこはま等	回覧板	掲示板	屋外広告	内広告	電車・バス等の車	友人・知人から	近所の人から	インターネット	メールマガジン	ソーシャルメディア（SNS など）
F 10 自治会町内会加入状況	全体	1588	28.5	11.0	25.4	4.6	31.3	16.1	61.9	55.9	20.7	3.8	15.2	12.0	10.3	20.8	1.4	2.5	0.3	13.6
	加入している	1339	28.8	11.5	27.3	4.1	32.7	15.5	64.8	62.6	22.1	3.5	14.5	12.0	10.8	20.5	1.5	2.4	0.3	12.6
	加入していない	187	27.3	8.6	14.4	9.1	25.1	20.3	48.1	14.4	13.9	7.0	22.5	13.4	8.0	28.9	1.6	3.7	0.0	11.8

■ 性別・年齢別 横浜市や泉区からの情報入手に活用したい媒体（問 25-2 × F 1, 2）

- ・男女とも「広報よこはま等」が最も多くなっている。
- ・年齢別では、20歳代から40歳代までの世代で「インターネット」、50歳代以上の世代では「広報よこはま等」が最も多くなっている。また、20歳代で「ソーシャルメディア（SNSなど）」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。年齢層が高いほど数値が高い傾向にあるのは「ラジオ」「新聞」「広報よこはま等」など、年齢層が低いほど数値が高いのは「ソーシャルメディア（SNSなど）」である。「インターネット」は30歳代、40歳代で高い。

		合計	問25-2 情報入手の際に活用したい媒体																	
			テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	V タ ウ ン 紙 ・ C A T	レ ッ ト ち ら し ・ パ ン フ	広 報 よ こ は ま 等	回 覧 板	掲 示 板	屋 外 広 告	内 電 車 ・ バ ス 等 の 車	友 人 ・ 知 人 か ら	近 所 の 人 か ら	イ ン タ ー ネ ッ ト	メ ー ル マ ガ ジ ン	ア ー ソ ー シ ヤ ル メ デ ィ ア （ S N S な ど ）	そ の 他	無 回 答
	全体	1588	27.3	12.3	20.1	3.2	19.1	12.6	33.0	28.8	12.7	3.7	10.5	4.9	4.7	25.3	6.1	5.5	0.4	28.4
F 1 性別	男性	691	27.9	12.2	21.4	1.9	17.8	12.2	32.3	28.1	13.9	3.2	9.7	3.6	3.3	30.0	7.2	6.9	0.3	25.5
	女性	847	27.5	12.8	19.8	4.5	21.3	13.3	35.1	30.3	12.3	4.1	11.7	6.3	6.0	22.3	5.2	4.7	0.5	28.2
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	21.0	5.0	11.8	5.0	11.8	10.1	14.3	18.5	11.8	2.5	12.6	4.2	3.4	31.1	3.4	21.8	1.7	18.5
	30歳代	184	23.9	10.3	12.5	4.9	17.9	16.8	29.9	25.5	14.1	5.4	17.9	4.3	3.8	41.8	10.9	14.1	0.0	17.4
	40歳代	278	30.2	10.1	14.7	5.0	22.3	14.0	29.1	23.0	13.7	6.5	14.0	5.0	4.3	40.3	8.6	6.8	0.4	18.0
	50歳代	204	28.4	10.8	19.1	2.0	25.5	16.2	35.8	29.9	11.3	3.4	7.8	2.9	2.9	26.5	9.3	3.4	1.0	23.0
	60歳代	310	30.6	15.8	27.4	1.9	19.0	11.0	42.3	37.4	11.6	2.3	9.0	4.2	4.5	21.3	5.5	2.3	0.3	29.7
	70歳代以上	425	28.5	16.0	26.6	2.8	19.1	11.3	37.9	33.2	14.6	2.4	7.8	7.3	7.1	10.6	2.1	0.5	0.0	38.4

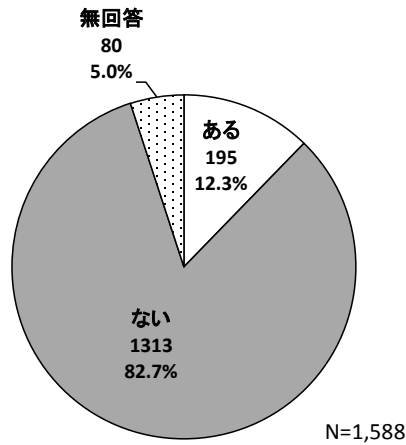
■ 自治会町内会加入状況別 横浜市や泉区からの情報入手に活用したい媒体（問 25-2 × F 10）

- ・自治会町内会に「加入している」ケースでは「広報よこはま等」が、「加入していない」ケースでは「インターネット」が最も多くなっている。また、「加入している」ケースでは「加入していない」ケースより、「回覧板」で24.7ポイント、「広報よこはま等」で15.7ポイント高くなっている。

		合計	問25-2 情報入手の際に活用したい媒体																	
			テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	V タ ウ ン 紙 ・ C A T	レ ッ ト ち ら し ・ パ ン フ	広 報 よ こ は ま 等	回 覧 板	掲 示 板	屋 外 広 告	内 電 車 ・ バ ス 等 の 車	友 人 ・ 知 人 か ら	近 所 の 人 か ら	イ ン タ ー ネ ッ ト	メ ー ル マ ガ ジ ン	ア ー ソ ー シ ヤ ル メ デ ィ ア （ S N S な ど ）	そ の 他	無 回 答
	全体	1588	27.3	12.3	20.1	3.2	19.1	12.6	33.0	28.8	12.7	3.7	10.5	4.9	4.7	25.3	6.1	5.5	0.4	28.4
F 10 自治会町内会加入状況	加入している	1339	27.8	12.8	21.2	2.8	19.9	12.8	35.5	32.2	13.2	3.4	9.9	4.9	4.9	25.7	6.2	5.5	0.4	27.6
	加入していない	187	27.3	9.6	13.4	7.0	16.6	12.3	19.8	7.5	11.8	6.4	16.6	4.3	3.7	27.8	7.0	8.0	0.0	23.5

問26 横浜市や泉区に要望を伝えたことがありますか。(〇は1つ)

- ・「ない」が82.7%と8割以上を占め、「ある」の12.3%を70.4ポイント上回っている。



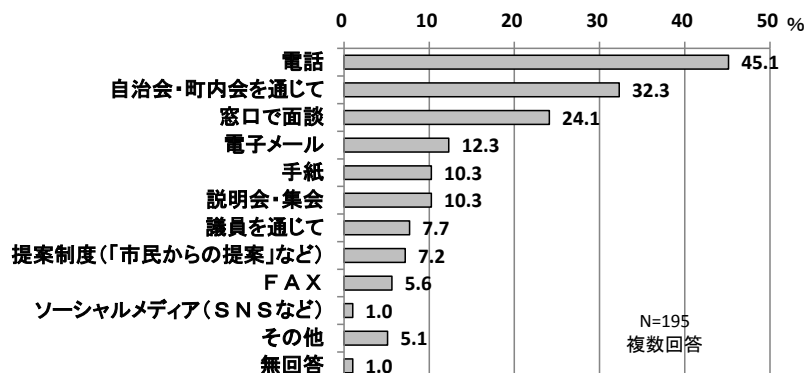
■ 性別・年齢別 横浜市や泉区に要望を伝えたことの有無 (問26×F1, 2)

- ・男女とも「ない」が8割を超える。
- ・年齢別では、いずれの年代でも「ない」が多くなっているが、年齢層が高いほど数値は低く、70歳代以上では「ある」が全体値より10ポイント以上高くなっている。

		合計	問26 横浜市や泉区に要望を伝えたことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		1588	12.3	82.7	5.0
F 1 性別	男性	691	16.2	81.8	2.0
	女性	847	9.2	87.1	3.7
F 2 年齢(年代別)	20歳代	119	3.4	95.8	0.8
	30歳代	184	7.1	92.4	0.5
	40歳代	278	8.3	91.4	0.4
	50歳代	204	7.8	90.7	1.5
	60歳代	310	9.7	86.1	4.2
	70歳代以上	425	24.5	68.9	6.6

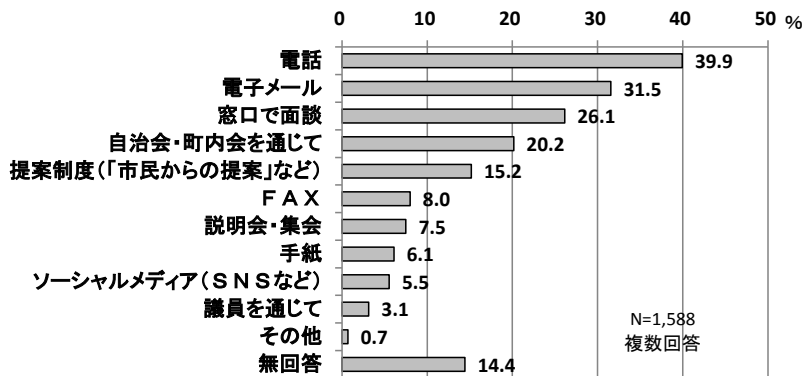
問26-1 (問26で「1 ある」と回答した方)どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)

- ・「電話」が最も多く45.1%、次いで「自治会・町内会を通じて」が32.3%となっている。以下「窓口で面談」(24.1%)、「電子メール」(12.3%)、「手紙」(10.3%)、「説明会・集会」(10.3%)などと続く。



問27 横浜市や泉区に要望を伝える際に、活用したい手段は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「電話」が最も多く 39.9%で最も多くなっている。以下「電子メール」(31.5%)、「窓口で面談」(26.1%)、「自治会・町内会を通じて」(20.2%)、「提案制度(「市民からの提案」など)」(15.2%)などと続く。実際に伝えた手段と比べて、「電子メール」「提案制度」「FAX」の順位が高くなっている。



■ 性別・年齢別 横浜市や泉区に要望を伝える際に、活用したい手段 (問27×F1, 2)

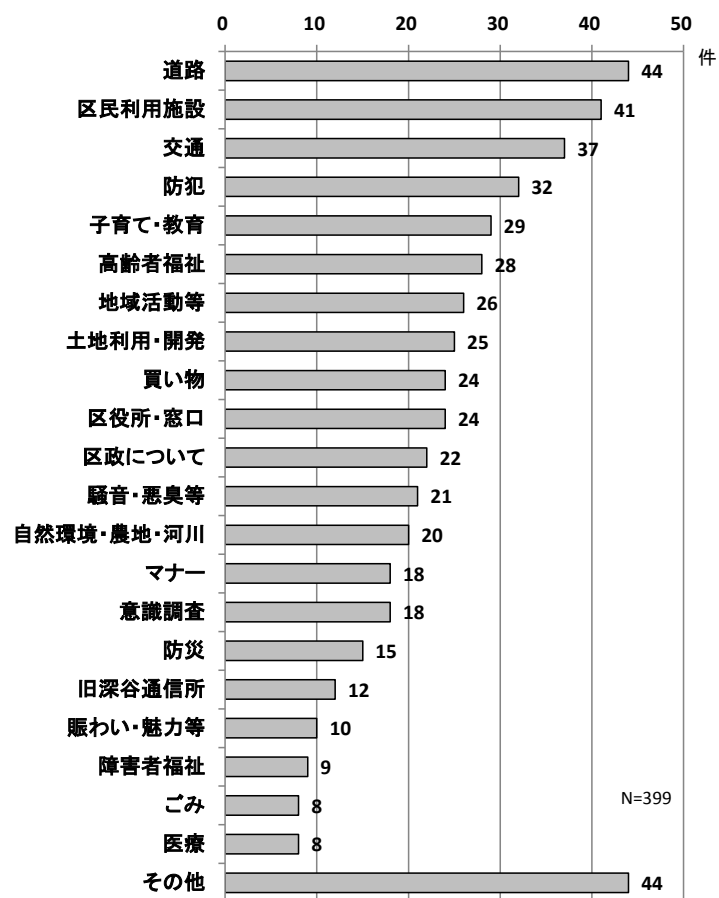
- ・男女とも「電話」が最も多い。また、男性は女性より「電子メール」の数値が9ポイント高くなっている。
- ・年齢別では、20歳代から40歳代までの世代では「電子メール」、50歳代以上の世代では「電話」が最も多く、50歳代を境に傾向が分かれた。また、20歳代では「ソーシャルメディア(SNSなど)」、70歳代以上では「自治会・町内会を通じて」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。

		合計	問27 横浜市や泉区に要望を伝える際に、活用したい手段											
			電話	FAX	手紙	電子メール	窓口で面談	提案制度(「市民からの提案」など)	説明会・集会	議員を通じて	自治会・町内会を通じて	ソーシャルメディア(SNSなど)	その他	無回答
	全体	1588	39.9	8.0	6.1	31.5	26.1	15.2	7.5	3.1	20.2	5.5	0.7	14.4
F1 性別	男性	691	41.1	8.1	7.1	37.2	28.5	16.6	8.2	3.6	18.8	6.5	0.6	10.6
	女性	847	40.4	8.3	5.5	28.2	25.6	14.6	7.0	2.8	22.2	5.0	0.8	14.0
F2 年齢(年代別)	20歳代	119	20.2	4.2	5.0	51.3	21.0	15.1	7.6	1.7	9.2	23.5	0.8	7.6
	30歳代	184	27.2	6.5	9.2	53.3	28.8	16.8	4.9	4.3	7.1	9.2	1.1	10.9
	40歳代	278	37.1	7.6	5.4	52.5	30.2	15.8	7.9	3.2	10.8	7.9	1.1	6.5
	50歳代	204	44.1	7.4	3.9	34.8	28.9	16.2	5.9	3.4	21.6	4.4	0.5	10.3
	60歳代	310	45.8	10.3	7.4	23.2	22.9	16.8	8.1	1.9	25.5	2.6	0.6	14.2
	70歳代以上	425	50.6	9.4	5.9	9.6	28.0	13.2	8.9	3.8	32.5	0.2	0.5	18.6

12. 泉区政について

泉区政について、具体的なご意見、ご要望、ご提案などございましたら、自由にご記入ください。

- ・泉区についての意見や提案として、399件の具体的な記述があり、計515件の意見が出された。
- ・分類別の内訳としては、「道路」の44件が最も多く、以下、20件以上挙げられた項目としては「区民利用施設」（41件）、「交通」（37件）、「防犯」（32件）、「子育て・教育」（29件）、「高齢者福祉」（28件）、「地域活動等」（26件）、「土地利用・開発」（25件）、「買い物」（24件）、「区役所・窓口」（24件）、「区政について」（22件）、「騒音・悪臭等」（21件）、「自然環境・農地・河川」（20件）などの順となっている。



ご意見等の主な内容

意見数： 515件(回答数399のうち、複数項目にまたがる意見は各項目に分類)

	項目	件数	概要
1	道路	44	幅が狭い道路が多すぎる、歩道を整備してほしい、高齢者や障害者にやさしい道路にしてほしい、渋滞がひどい など
2	区民利用施設	41	図書館が遠い、地域ケアプラザが遠い、もう少し充実したスポーツ施設がほしい、公園が少ない、子ども達がのびのび遊べる場所があればよい など
3	交通	37	バスの本数を増やしてほしい、駅に急行の停車を促してほしい など
4	防犯	32	街灯を増やしてほしい、子どもの安全対策を強化してほしい、悪質な電話勧誘が増えている など
5	子育て・教育	29	一時保育を充実してほしい、学童やキッズクラブの時間を延長してほしい など
6	高齢者福祉	28	特別養護老人ホームをたくさん作ってほしい、老後の様々な問題を相談できる場所がほしい など
7	地域活動等	26	共働きだと地域活動をする時間がない、参加したいが具体的な内容がよくわからない など
8	土地利用・開発	25	泉ゆめが丘の土地区画整理を早く進めてほしい、駅周辺の商業施設を充実させてほしい、市街化調整区域で産業廃棄物置場などが増えている など
9	買い物	24	ホームセンターを作してほしい、飲食店を増やしてほしい、買い物不便地域の解消 など
10	区役所・窓口	24	職員の対応に対する不満・ご意見 など
11	区政について	22	税金の使いみちについての意見、区の方向性が見えない など
12	騒音・悪臭等	21	騒音を出しながら走るバイクを取り締まってほしい、農地からの悪臭がひどい など
13	自然環境・農地・河川	20	地産地消などの農業施策に力を入れてほしい、和泉川の遊歩道を清潔にしてほしい、緑地の開発の防止 など
14	マナー	18	路上喫煙、ポイ捨て、路上駐車、自転車のマナーの悪さ など
15	意識調査	18	調査結果を公表し事業に活かすべき、調査項目が長すぎる など
16	防災	15	備蓄を充実させてほしい、食料だけでなくトイレの確保も大事、今後もハザードマップなどの情報を各家庭に届くようにしてほしい など
17	旧深谷通信所	12	利活用の情報を知らせてほしい、現在の利用を続けたい、跡地を有効活用してほしい など
18	賑わい・魅力等	10	駅前店舗を充実させてほしい、地域行事の担い手がいなくなるのではと不安 など
19	障害者福祉	9	障害者施設をもっと増やしてほしい、障害者施策の情報提供を徹底してほしい など
20	ごみ	8	ごみ置き場が不衛生、収集日を見直してほしい など
21	医療	8	救急医療に力を入れてほしい、公的な医療機関の充実 など
22	その他	44	